

横須賀市
博物館報



- 目 次 -

はじめに

博物館事業報告

1 特別展示・企画展示	3
2 研究発表会	20
3 調査等出張	23
4 ニュース	31

博物館事業概要 平成31年度・令和元年度(2019年4月～2020年3月)

5 展示教育普及事業	
(1) 主催事業①(展示)	38
(2) 主催事業②(学習会)	42
(3) 主催事業③(イベント等その他)	50
(4) 主催事業④(出版・制作)	53
(5) 共催・協力事業	54
(6) 学校教育指導・対応	55
(7) 学校教育以外の指導・対応	57
(8) 報道発表・取材等協力	58
6 収集調査研究事業	
(1) 調査・研究	63
(2) 研究発表・執筆	65
(3) 学術研究団体・会議等協力	66
7 分類整理保存事業	
(1) 資料の寄贈・借用	69
(2) 登録資料	69
(3) 資料の利用	70
(4) 資料の保守・保存環境保全	72
8 管理事業	
(1) 施設利用	74
(2) 開館園日数・入館園者	76
(3) 人 事	77
(4) 予 算	77
(5) 営繕工事	77
(6) 消防訓練・避難訓練	77
(7) ホームページ・メールマガジン・SNS	77
(8) 講習会等の参加	77

職員名簿(平成31年度・令和元年度)・表紙写真解説	裏表紙裏
---------------------------	------

はじめに

平成 31 年度は、9 月に「国際博物館会議 (ICOM) 2019 京都大会」が開催され、国内の博物館業界が世界から注目された年でありました。一方、秋には台風被害が、さらに、年明けには世界的に感染が拡大した新型コロナウイルスの影響による臨時休館など、全国の博物館にとっても大きな出来事が続いた年度となりました。当博物館では、臨時休館中の 3 月には、同様に新型コロナウイルスの影響による休校で自宅待機となった子どもたちや在宅勤務となった多くの方たちに博物館の活動が伝わるよう、従来のホームページでの発信に加え、ツイッターを開設して情報発信機能の強化に努めました。

以上のような状況の中で実施した各事業の概要について、まず、展示教育普及事業のうち展示事業では、特別展示「おいでよ！馬堀の森—馬堀自然教育園の 60 年とこれから—」を催すとともに、企画展示を 2 回、季節展示 3 回、トピックス展示を 13 回開催、常設展示の部分的な更新や展示の新設を 8 件実施するなど多くの資料を展示いたしました。行事関係につきましては、新型コロナウイルスの流行に伴う中止事業があったものの、延べ 130 日分の主催行事を開催し、延べ約 6 千名の方々にご利用いただいたほか、協力事業としてクイズラリーやスタンプラリーのイベントを 4 回、おでかけ博物館事業を 3 回実施することができました。また、資料の収集調査研究事業や分類整理事業についても例年通り重点的に取り組んできたところですが、当年度は、寄贈件数のみならず一件当たりの寄贈資料の数量も特に多く、複数の資料受け入れ対応が重なるなど、分類整理事業では課題も露呈しました。寄贈資料は当館のコレクションの重要な一角を構成するものであることから、引き続き、寄贈者の資料保存と活用に関する願いに応えるべく、取り組んで参る所存でございます。

博物館事業が順調に進んでいった一方で、11 月 29 日には考古学担当の稲村 繁学芸員の急逝という辛い出来事もありました。研究分野の第一線で活躍しつつ、子ども向け行事や一般対象の専門的な講座や見学会などの多くの行事を催すとともに、当館の考古学関係の行事参加者の OB が結成した「好古会」の毎月定例の学習会での講師役を楽しみにしていたような、人々に考古学をわかりやすく伝えることに長けた学芸員でした。ここに心からのご冥福をお祈りいたします。

今後も引き続きまして、当館事業へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

《ポスター》



特別展示「おいでよ！まぼりの森
—馬堀自然教育園の60年と
これから—」



企画展示①「新着資料展
歴史・民俗の逸品」



企画展示②「巡回展『神奈川県
植物誌2018』と三浦半島の
植物たち」



企画展示③「ヨコスケンセ
—よすかの歴史を彩る
植物たち—」

※令和2年(2020年)度へ
開催延期



みんなの理科フェスティバル



夏休み企画

博物館事業報告

1 特別展示・企画展示

(1) 特別展示

「おいでよ!馬堀の森ー馬堀自然教育園の60年とこれからー」

横須賀市自然・人文博物館附属 馬堀自然教育園開園60周年を記念し特別展示を開催した。自然部門の学芸員のみならず近代建築史担当も企画に関わり、同園の自然や歴史について学びを深める機会とした。

担当：萩原・柴田・内船・山本・菊地・等々力

開催場所

本館特別展示室

開催期間・見学者数

5-(1)-アを参照

関連事業

展示解説(5-(2)-ウ)、展示解説書『馬堀自然教育園たんけん図鑑』(5-(4)-カ)、コラボ企画(コラボ展示[本項末尾]、コラボ講演会[5-(3)-ア]、野外学習会[5-(2)-ウイ-(ア)]、スタンプラリー[5-(3)-エ])

展示内容

以下、展示区画毎に解説パネル内容と展示資料内訳を掲載

展示区画①：エントランス

馬堀自然教育園のシンボルでもあるシラカシとムクノキの巨木を再現した模型を入口のゲートに据えた。ゲートの先には「まぼりの森」へと続く園路の画像を壁面に施し、展示の世界観を演出した。

・入口ゲート

木工造作、壁面・床面装飾



1-(1) エントランス①

・馬堀自然教育園年表

木工造作、航空写真6点

・パネル

「ごあいさつ」(以下全文)

令和元年に開園60周年を迎えた馬堀自然教育園は、横須賀市の東部に位置し、東京湾を望む丘陵地に面積約3.8haの自然豊かな緑地です。1897(明治30)年から1945(昭和20)年までのあいだ、旧日本軍の要塞砲兵学校(のちに重砲兵学校に改称)の弾薬庫として使われていました。敷地内にはタブノキ、スダジイ、オオシマザクラなどが茂った三浦半島の森林の環境がよく残されていたことから、1959年に博物館附属の自然教育園として、博物館が保全・管理を行ってきました。園内には1周約20分で歩ける観察路とさまざまな生物がすむ水辺が整備されていて、三浦半島では希少となった動植物の保護が行われています。また、旧日本軍時代の建造物もたくさん残されていて、歴史的にも価値のあるものとなっています。さらに2016(平成28)年には、園内の自然全体が横須賀市の天然記念物に指定され、三浦半島の自然にふれられる場所として評価を得るとともに、環境教育や自然体験の場として一層の活用が期待されています。

この特別展示では、馬堀自然教育園の自然を楽しく、わかりやすくご紹介するとともに、博物館が市民の協力のもと保全に努めてきた歴史の一端をご紹介しました。今回の展示をきっかけとして、今後のさらなる保全活動へのご理解をいただければ幸いです。

令和元年7月27日

横須賀市自然・人文博物館

「馬堀自然教育園年表」(以下全文)

1897年(明治30年)旧日本陸軍の要塞砲兵学校が、千葉県市川市から現在の馬堀小・中学校の用地に移転・開校し、裏山(現・教育園)が弾薬庫となる。1922年(昭和11年)要塞砲兵学校が重砲兵学校に改名される。

- 1939年(昭和14年)第二次世界大戦勃発。弾薬庫用地内に稜威神社が建てられる。
- 1945年(昭和20年)第二次世界大戦終戦。重砲兵学校は廃校となり用地は国有地となる。
- 1954年(昭和29年)久里浜に横須賀市博物館が開館する。
- 1958年(昭和33年)横須賀市博物館羽根田館長、大谷研究員、柴田学芸員、本田正次東大名誉教授らが用地視察、用地内の植生、動物相についての報告を博物館雑報に寄稿する。
- 1959年(昭和34年)旧重砲兵学校用地が教育関連施設用地として横須賀市に無償譲与され、50万円をかけて弾薬庫跡地を整備し、敷地面積約11,600坪(3.8ha)の馬堀自然教育園として開園する。
- 同時に園内での自然観察会や野鳥の誘致実験などが開始される。
- 馬堀中学校科学部、馬堀小学校理科部の活動にも利用される。
- 1962年(昭和37年)ゲンジボタルの人工養殖実験を開始する。
- 日本植物学会関東支部の園内観察会が開催される。
- 1963年(昭和38年)北東側斜面に境界保護柵を設置する。
- 上の池(ホタル人工増殖池)の新設工事が始まる。
- 1964年(昭和39年)周辺の宅地開発により、水源地の湧水量が減少する。
- 1965年(昭和40年)天神島臨海自然教育園が佐島に開園する。



1-(1) エントランス②

- 1967年(昭和42年)NHKテレビ「四つの目」,「自然のアルバム」が撮影取材に来園。
- 馬堀海岸の埋め立て事業が始まる。
- 1968年(昭和43年)西側斜面の境界保護柵を設置する。
- 1970年(昭和45年)博物館自然部門が久里浜から深田台に移転し、横須賀市博物館となり、残った人文部門は久里浜分館となる。
- 1971年(昭和46年)正門、手洗い所の整備が完了する。
- 園内で山火事が発生、尾根筋の約330㎡の山林が焼失した。原因は子どもの火遊びであった。
- 1975年(昭和50年)上の池の改修を行い、湧水を水源とした流水方式となる。
- 1976年(昭和51年)湧水量の減少の対策として水路(人工河川)の改修工事が行われ、下の池の水をポンプで循環させる装置が設置された。
- 気象庁により地震や地殻変動を監視する目的で、園内に地殻歪観測装置(体積ひずみ計)が設置される。
- 消防用地125.34㎡と教育園用地197.84㎡の交換が行われる。
- 1981年(昭和56年)博物館による園内の昆虫相調査が行われ、172種の昆虫が記録される。
- 入口付近に案内看板を設置するとともに敷地境界80mに鉄製の柵が設置される。
- 1983年(昭和58年)失業対策事業の一環として、第1期園内水路(人工河川)及び園路整備工事が始まる。
- 久里浜分館であった人文部門が深田台に移転して横須賀市人文博物館に改称、自然部門は横須賀市自然博物館に改称となる。
- 1984年(昭和59年)第1期水路及び園路整備工事が完了する。
- 1985年(昭和60年)失業対策事業の一環として第2期水路及び園路整備工事が始まる。
- 1986年(昭和61年)第2期水路及び園路整備工事が完了し、現在の形状になる。
- 教育資料シリーズ17「馬堀自然教育園」が発行される。
- 1987年(昭和62年)入口東側で学習棟の新築工事が着工となる。
- 1988年(昭和63年)学習棟(延床面積149.50㎡・鉄骨平屋建)が完成し、展示や講座が行えるようになる。
- 2008年(平成20年)「自然教育園だより」が創刊。

2009年(平成21年)開園50周年記念事業として、馬堀中学校体育館で講演会とパネル展を開催する。

隣接の消防待機寮が廃止され、学習棟前に防火用水タンクが移設される。

2010年(平成22年)隣接の消防待機寮跡地が住宅地となる。

2011年(平成23年)学習棟内の常設展示を更新する。

2016年(平成28年)馬堀自然教育園が横須賀市の天然記念物に指定される。

一部崩落が起きた東側(馬堀中学校側)の法面補強工事を実施。

2018年(平成30年)旧日本陸軍時代の傾いた階段、稜威神社跡の傾いた石碑の補修及び東側(馬堀中学校側)の急傾斜地横園路への擬木柵設置などの整備工事を実施した。

「自然教育園だより」を「博物館だより」に改称。学習棟内にシダ・コケを中心としたテラリウムを設置。

2019年(令和元年)開園60周年を迎える。

展示区画②：観察路で見られる馬堀自然教育園の自然
ウォールケースおよび覗きケース2台に、馬堀自然教育園内の自然史標本や景観写真をパネルとともに展示した。

・標本等資料

哺乳類6種、鳥類15種、走水礫部層の礫10件、大津砂泥部層の化石39件、大津砂泥部層の砂層、逗子層の泥岩、横須賀製鉄所産ナウマンゾウ下あご化石のレプリカ、昆虫類54種58点、植物標本11種。



1-(1) ウォールケース①

・パネル

「観察路で見られる馬堀自然教育園の自然」(以下全文)

右の「たんけんマップ」パネル右下の教育園入口から、時計回りに1周して見られる様々な自然を展示します。

「イメージできるかな? ぐるり一周!観察路アップ↑&ダウン↓」(以下全文)

全長約480mの観察路を一周するときの、高さの変化をあらわしました。園の入口あたり(下の広場・下の池)は海拔約20m、尾根道(急斜面とシダの谷の間)は海拔約50mあります。展示にそって、高さの変化もイメージしてみてください。

「馬堀自然教育園たんけんマップ」(以下全文)

このマップも掲載されているリーフレット「馬堀自然教育園たんけん図鑑」は、本館受付で販売中(1冊50円)です。

「全天周画像をスマホで! 教育園観察路のおすすめスポットめぐり」(以下全文)

①下の広場、②下の池、③水路、④水源地、⑤急斜面、⑥シダの谷、⑦北の斜面、⑧神社跡。専用アプリのダウンロードは不要ですが、データ通信が必要です。当館にはWi-Fiはありません。

「下の広場と下の池」(以下全文)

教育園入口近くにあります。日あたりの良い広場の草地にはバッタ類やトカゲ類などが見られます。木々に囲まれた池にはメダカやエビ類が暮らし、オオシオカラトンボやカワセミなども見られます。

「昆虫解説(下の広場と下の池)」(以下全文)

下の池には、止水性の昆虫が見られます。あまり日が当たらないので、水温もそれほど上がりません。周辺には林縁にくらす昆虫が見られます。

下の広場には、原っぱの昆虫が見られます。日当たりがよく、植物の成長も早いですが、ときどき草を刈りこむので、草原にはなりません。

「水路と水源地」(以下全文)

観察路にそって水路がはしり、木々にも囲まれて涼しい環境です。ゲンジボタル・ヘイケボタルが発生するほか、アサヒナカワトンボやヤマアカガエルなど、水辺に暮らす生き物が見られます。

「昆虫解説(水路と水源地)」(以下全文)

水路は、日当たりも水量もあまり多くありません。小さな止水環境(上の池、中の池)もあるため、流水・止水両方の昆虫が見られます。

水源地にはあまり昆虫は見られませんが、すぐ下に広がる上の広場には、湿地に近い環境にくらす昆虫が

見られます。

「地殻歪観測装置（体積ひずみ計）」（以下全文）

1977年に気象庁によって園内に設置され、岩盤である三浦層群逗子層の伸び縮みによる検出部の体積の変化が地下250mで計測されています。気象庁のひずみ計は東海地方や南関東地方に約40か所設置されていて、プレート境界のゆっくりすべり等に伴うごくわずかな岩盤の伸び縮みを捉えたり、南海トラフ地震に関連する情報の発表のために使われたりしています。

「水源地」（以下全文）

教育園の標高約40mからは、湧き水が流れ出しています。水源地は、岩盤をつくる逗子層に重なり、透水性のよい地層である大津砂泥部層からできています。

教育園周辺には走水水源地など湧き水が豊富です。小原台地に降った雨が地下水となり、湧き出していると思われませんが、湧き水の量に対して小原台地の面積はとても小さいです。周辺地域に降った雨が逗子層などの岩盤の破碎帯に入って地下水となり、その破碎帯から供給された地下水も、湧き水のもとになっている可能性が考えられています。

教育園の湧き水は水路をとって「下の池」まで流れ下ります。湧き水だけでは「下の池」の水位を保つことができないため、ポンプを使って水路の上流部まで水を循環させています。

「急斜面とシダの谷」（以下全文）

教育園上部の尾根に向かって傾斜が急になります。気をつけて歩きましょう。南側の斜面は下草が少なく、タシロランが見られます。北側の谷はシダ類をはじめ

とした下草が豊富です。

「昆虫解説（シダの谷）」（以下全文）

シダの谷の日当たりの良い場所には、林縁にわずか昆虫が見られます。大木にできた穴には、ハチ類が巣をつくることがあります。

「小石はどこから来たの？：走水礫部層」（以下全文）

急斜面や尾根道を歩いていると、小石（礫）が多く見られます。これは、標高45～65mに走水礫部層があるためです。十数万前の地層である走水礫部層は、川によって運搬されてきた礫が、河口付近に堆積してつくられたと考えられています。礫の種類は砂岩やチャートが多く含まれ、泥岩、緑色岩、ホルンフェルス、深成岩類、火山岩類も見られます。砂岩や泥岩、チャートは関東山地に、緑色岩、ホルンフェルス、深成岩類、火山岩類は丹沢山地によく見られる岩石です。走水礫部層の礫は関東山地や丹沢山地から運搬されてきたと考えられています。

「北の斜面と神社跡」（以下全文）

古井戸の先、斜面を横断する観察路からは、隣接する馬堀中学校にある「ホタルの里」が見えます。尾根には神社跡があり、ヤマユリやウラジロなどが見られ、参道だった石段からは東京湾が望めます。

「昆虫解説（北の斜面）」（以下全文）

北の斜面には、樹液をだすコナラが生えています。樹液では、カブトムシやカナブン、スズメバチ類などを観察することができます。

「貝化石から読み解く古環境：横須賀層大津砂泥部層」（以下全文）

標高35～45mには、砂の地層が見られます。この地層は横須賀層大津砂泥部層で、約15万年前に浅



1-(1) ウォールケース②



1-(1) 園内の哺乳類

い海でつくられました。ここからは、70種の軟体動物化石(貝化石)が見つかりました。そのほとんどが現生種です。標高35mの地層からは潮間帯を除く水深0~20mに生息する種の化石が、標高38mの地層からは水深60~100mに生息する種の化石が多く含まれていました。標高38mの地層は、標高35mの地層よりも深い場所で作られたことを示しています。

大津砂泥部層ができた時代は世界中で温暖化が進んだ時期で、海面が上昇して海岸線が陸側に移動しました。この時代の海岸線の移動を下末吉海進といいます。この海進によって、約12万年前の関東平野には、古東京湾と呼ばれる浅い海が広がっていたと考えられています。貝化石群集から読み取れる水深の変化は、下末吉海進による水深の変化を表していると考えられます。

「ナウマンゾウ：馬堀自然教育園の地層と同じ地層から発見」(以下全文)

教育園にも分布する横須賀層大津砂泥部層は、ナウマンゾウの化石が見つかった地層です。1867年、現在の米海軍横須賀基地である横須賀製鉄所でナウマンゾウの下あご化石が見つかりました。化石が見つかった地層は大津砂泥部層と考えられています。

下あご化石は、1871年に東京神田にあった大学南校に送られ、その後ナウマンゾウの名前の由来となったドイツ人の地質学者ナウマン(1854~1927)によって研究されました。これが世界初のナウマンゾウ化石です。

下あご化石のうち、左側は国立科学博物館に収蔵されています。右側は学習院中等科・高等科標本室に収

蔵されていることが1999年に明らかになりました。当館ではこれまで、左側の下あご化石のレプリカだけを展示していましたが、この度、右側の下あご化石のレプリカを新しく作成し、発見当時の様子を再現して展示しました。レプリカではありますが、左右の下あご化石が横須賀でそろえるのは約150年ぶりとなります。

展示区画③：馬堀自然教育園の歴史資料

覗きケース2台に、旧日本陸軍重砲兵学校時代の歴史資料を展示した。

・展示資料

『横須賀重砲兵聯隊史』、『陸軍重砲兵学校史』、『陸軍重砲兵学校卒業記念アルバム 電燈術練習生』、『(軍隊手帳)』(明治時代、大正時代、昭和時代各1冊抜粋)、『写真帖横須賀名所』(明治41年)、『学校教練必携』(陸軍省、昭和9年)、『写真週報』第15号海軍記念日号(昭和13年)、『絵葉書 日本砲兵』、『陸軍重砲兵学校校門』・『陸軍重砲兵学校練習生徒兵舎』、『写真集ふるさと横須賀』、『(馬堀自然教育園開設の特集記事)』、『横須賀市博物館雑報』(昭和33年)、『秘密文書 明治40年度特別要塞砲兵演習記事附図第壱』、『終戦後の帰還業務の手続きを行っていた旧陸軍重砲兵学校跡地の様子を記した「馬堀擁護所」』、『浦賀港引揚船関連写真資料集』、『陸軍重砲兵学校』、『新横須賀市史別編軍事』、『馬堀自然教育園ファイル-開園準備期から平成時代までの資料綴り』(昭和30年代から平成時代)

展示区画④：「馬堀自然教育園の生きもの」水槽展示

水槽5台を設置し、馬堀自然教育園の動物を生態展示した。



1-(1) ナウマンゾウ



1-(1) 馬堀自然教育園の歴史資料

・パネル

「ミナミメダカ」(以下全文)

三浦半島でふつうに「メダカ」と呼ばれている魚です。展示しているミナミメダカは、三浦半島の在来のもので、馬堀自然教育園の池に移殖して保護しているものです。

「ヤマトヌマエビ」(以下全文)

温暖な地域に分布するヌマエビのなかまで、三浦半島のヌマエビ類としては大型になります。本来は、はやい流れでくらすエビで、馬堀自然教育園のように池でくらすしているのはとてもめずらしいことです。

「アメリカザリガニ」(以下全文)

昭和2年にウシガエルのエサとして原産国のアメリカから鎌倉市に持ち込まれ、そこから逃げ出したものが全国に広まった外来生物です。馬堀自然教育園では

外部から下の池に持ち込まれたものが増えてしまい、在来の生物を守るため、駆除の対象となっています。

「アカハライモリ」(以下全文)

イモリ、アカハラ、ニホンイモリなどの別名のある両生類(カエルやサンショウウオのなかま)で、三浦半島では絶滅が心配されています。

「トウキョウサンショウウオ」(以下全文)

神奈川県内では三浦半島でしかみられない小型のサンショウウオです。子どものとき(幼生期)はウーパールーパーのような姿ですが、親と同じ姿になると森の中でくらしはじめ、3才でおとなになるまで水の中にもどってきません。

「カブトムシたちの部屋(ヘヤ)」(以下全文)

カブトムシやクワガタ類など、馬堀自然教育園で見られるなかまを展示します。入れかえもあるので、ときどき見に来てね!

カブトムシ:成虫は6月下旬から9月上旬にみられる。幼虫は秋から翌年の春まで地中ですごし、初夏にさなぎになる。

ノコギリクワガタ:オスのあごには大・中・小の3タイプがあります。成虫の出現時期はカブトムシに似ていて、冬ごしはしません。

コクワガタ:長生きで、成虫になってからも冬ごしすることができるので、初夏や秋にも見ることができます。

展示区画⑤:コミュニケーションコーナー

馬堀自然教育園内で撮影された生き物や遺構、活動の様子などの写真パネル、ぬり絵、園内伐採木による材標本、触ったりして自然を体験できる造作物、ガチャガチャによるグッズ販売、アンケートを設置した。

・展示資料等

写真パネル26点、昆虫標本2点(塗り絵用。オオスズメバチ、アオスジアゲハ)、昆虫標本約30点(樹液に集まる昆虫用)昆虫標本材標本(年輪計数用)、どんぐり6種(触れる展示)木製造作物パネル3枚(樹液に集まる昆虫、ホタルのひかり、どんぐり)、体験遊具(どんぐりのゆくえ)、カプセルステーション(ガチャガチャ)

・パネル

「チャレンジ! まぼりの森の昆虫ぬり絵」(以下全文)

スズメバチとチョウのぬり絵です。色えんぴつでぬってみよう!



1-(1) 水槽展示



1-(1) 写真パネル, ぬり絵, 年輪

コラボ展示：「横須賀にあった極秘機関－陸軍登戸研究所と横須賀」

展示会場に隣接した3階ラウンジスペースにおいて、明治大学平和教育登戸研究所資料館による初公開

を含む同館蔵資料やパネルを展示した。展示の様子は4-(2)-ウにおける特別展示解説（コラボ展示の解説）の写真を参照。

(2) 企画展示

ア 企画展示①

「新着資料展 歴史・民俗の逸品」

2010年から現在まで、人文部門で収集した資料を速報展に近い形で展示した。そのため、各分野から資料を出したが全体を貫くストーリーは設けず、個々の資料を説明する方式を採用した。

担当：瀬川

開催場所

本館特別展示室

開催期間・見学者数

5-(1)-アを参照

関連事業

展示解説（5-(2)-ウを参照）

展示内容

以下、コーナー毎にパネル全文と展示資料一覧を掲載

ごあいさつ

・パネル全文

ご来場いただきありがとうございます。この企画展示は新着資料展と題しまして、人文部門で近年に収集

した資料や未公開の資料を中心に展示しています。

2010年から現在まで、人文部門では120件以上のご寄贈を受けてまいりました。収集した資料は、その資料的価値を分析し、他の資料との比較や関連性を明らかにして展示するのが基本です。しかし、今回はそれにこだわらず、収集した資料をいち早くお披露目します。

最後になりましたが、ご寄贈くださいました方々に心より御礼申し上げます。今後とも、博物館の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

いろいろなモノ

・パネル全文

博物館では、いろいろなモノを集めているよ！ただ、収蔵スペースに限りがあるから何でも集められるわけじゃないんだけどね…



1-(2)-ア 展示入口



1-(2)-ア 「乗越瓦窯址」

・展示資料

野比の下駄職人道具、ソノシート「横須賀市歌」、トランジスタラジオ、船用コンパス、洋裁道具、横須賀市立実科高等女学校の学費等を記載した家計簿、アメリカ兵の似顔絵

乗越瓦窯址

・パネル全文

乗越瓦窯址（のりごしがようし）は、横須賀市秋谷にあって、創建時の相模国分寺の瓦を焼いていたんだよ！窯の種類も平窯と登り窯があって、瓦のほかに須恵器も焼いていたんだ。

・展示資料

凸面の叩き面が異なる平瓦、窯で焼台に使われた瓦（高温のため変形し熔着）、熨斗瓦、角落し瓦と隅切瓦、丸瓦、糸切りの分割痕がよくわかる丸瓦、珠文縁単弁五葉蓮華文軒丸瓦片、坏、碗、蓋、高盤、盤、円面碗片

近世

・パネル全文

近世になると、貨幣経済の浸透による商品の流通が活発になってきます。三浦半島では浦賀など商業の拠点も出現してきますが、考古学的調査はほとんどおこなわれておらず、不明な点が多くあります。わずかな調査事例をみるかぎり、前半は中世後半と変わらず、舶載磁器など高級品はほとんどなく、瀬戸・美濃、常滑などで製作された日常雑器用陶器類が搬入されているにすぎません。

18世紀後半以降になると東海系の陶器類に加え、肥前系陶磁器なども大量に搬入されてきます。これら

の器種組成は、東京都芝離宮庭園出土の日常雑器類と近似した様相を呈することから、この時期三浦半島は江戸と同様な生活・文化形態を保っていたと考えられます。そして幕末になると横須賀製鉄所が開設され、機械類とともに欧米の最先端技術が横須賀につたえられてきます。

食器類

・パネル全文

この食器は、横須賀市大矢部の名主家にあったものだよ！ほとんどが幕末から明治・大正期に作られたものだよ。

・展示資料

食器類、徳利、泉山磁石場から採れた陶石

浜浅葉日記

・パネル全文

浜浅葉日記は、現在の横須賀市太田和の農家が書いた日記で、幕末から近代までの暮らしがわかるよ！農作業だけでなく、旅に行った話も出てくるよ。

・展示資料

「浜浅葉日記」、浜浅葉家にあった糸車、浜浅葉家にあった砵、浜浅葉家にあった祝膳、浜浅葉にあった御朱印帳と草履、長野の善光寺などにお参りするための道中手形、浜浅葉家にあった銭函

木型

・パネル全文

これはベース（米海軍基地）で使われていた木型だよ！この木型を砂に埋めると、この木型と同じ形の空洞ができるよね。そこに溶けた鉄を流しこんで、船舶関係の部品や製品をつくるんだ。



1-(2)-ア 浜浅葉家から寄贈された資料



1-(2)-ア 浜浅葉家から寄贈された資料

博物館では、これらの木型に関する情報や実際に使っていた方のお話を集めています。

ご存知の方は、博物館の瀬川までお知らせください。

・展示資料

ベースで使われていた木型

「今長」資料

・パネル全文

これは、逸見の「今長」という居酒屋さんからもらった資料だよ！今長は、昔は酒屋さんだったんだ。海軍工廠があったころのにぎわいが伝わってくるね。

・展示資料

横須賀同業組合連盟規約（昭和12年7月）、遊興飲食税納税切符、昭和15年逸見町第一区町内会規約、神奈川県業務酒共販組合連合会規約（昭和17年1月8日）、横須賀蕎麦飲食店商業組合定款、横須賀軍港飲食店組合酒場経営委員会腕章、気泡入りガラスのビールジョッキ、徳利とお猪口、テーブル、今長の店内にあった酒樽

出征幟

・パネル全文

上にある幟は、出征幟（しゅっせいのぼり）といって、戦地に行く人を見送るときに掲げられたものだよ。沼崎勲さんは、横須賀市出身の映画俳優だったんだ。召集され、戦地から戻り、また召集されて、戦後は黒澤明監督の『素晴らしき日曜日』に主演したんだ。

・展示資料

出征幟、沼崎家の家族写真、中学校入学に際し、職業軍人であった父からの手紙、東宝京都撮影所にいた勲に召集を知らせる手紙、東宝京都撮影所で行われた出征軍人の壮行会写真、沼崎勲直筆履歴書、横須賀市

長浦（実家）での出征軍人の壮行会写真、昭和12年5月に撮影されたスチール写真、昭和18年10月に公開された東宝映画「熱風」（山本薩夫監督）に出演中の沼崎勲の写真、最初の出征から帰還した際に賜った勲章、横須賀市未亡人会の定期総会への案内状

節句人形

・パネル全文

これは、立派な節供人形だね！最近では飾る家も減ったよね。この雛人形は昭和10年にさいか屋で購入したものでしょ。

・展示資料

五月人形、雛人形

稲荷講

・パネル全文

この幟は、野比で行われていた稲荷講で使ったものだよ。稲荷講とは、2月11日ころに行われていた地域の（特定の家の）行事なんだ。どんな行事かというと、当番の家の庭先に幟をたてて、座敷にお稲荷様の掛け軸やご神体を飾ってそこでおしゃべりをしながら飲食をしたんだ。

・展示資料

野比中村で使われていた稲荷講幟

博物館グッズほか

・展示資料

博物館オリジナルトートバッグ、博物館オリジナル缶バッジ、日本鋼管株式会社技術研究所設立60周年記念の一合栞、川名美容院（横須賀市長井）の70周年記念折立鏡、市内各店舗のマッチ



1-(2)-ア 「出征幟」



1-(2)-ア 「節句人形」

金塚家と松下家から寄贈を受けた資料

・パネル全文

なんと、寄贈者の父親どうしは元同僚。金塚家と松下家の寄贈者の父は、昭和20年代に横須賀市の同じ職場で要職に就いて活躍しました。息子さんによる資料寄贈を経て、両家の資料は偶然にも半世紀以上ぶりに一緒になったんだよね。

・展示資料

松下家寄贈の資料の一部、金塚家寄贈の資料の一部

チャホジ

・パネル全文

これは、チャホジ（一般的にはホイロ）といって、絵にあるように蒸した茶葉を乾燥させながら、揉（も）んでみんなが知っているお茶葉にする道具なんだ。横須賀でもお茶を栽培することがあったんだけど、自分の家で飲むだけで売ったりはしなかったんだ。隣の家や畑との境に植えることが多かったみたいだよ。

・展示資料

横須賀市津久井で使われていたチャホジ

駅や横須賀の昔の風景を伝える資料たち

・パネル全文

ここにあるのは、お札でも使われることになった東京駅や、歴史の古い桜木町駅、身近な横須賀中央駅の昔の絵はがきなど、昔の風景を伝える資料たち。ゴールデンウィーク中には期間限定で、日本に3点ほどし



1-(2)-ア 『東京駅「中央停車場建築」』

かない東京駅の工事写真の原本も特別に展示。

・展示資料

大日本相模國横須賀造船所全圖、駅を題材にした絵はがき

東京駅「中央停車場建築」

・パネル全文

明治44年（1911年）7月19日、宮内幸太郎撮影、株式会社石川嶋造船所制作。

東京駅の工事中の写真を大きくして展示しているよ。骨組みがよくみえますね。

・展示資料

東京駅建築中の写真

イ 企画展示②

「巡回展『神奈川県植物誌2018』と三浦半島の植物たち」

「植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌2018』のできるまでとこれから～」(神奈川県立生命の星・地球博物館2018年度特別展)の巡回展を開催するとともに、三浦半島の植物やその調査史について紹介した。以下、展示コーナー毎にパネル全文と展示資料を掲載。なお、展示パネルと展示資料の一部は神奈川県立生命の星・地球博物館所蔵。

担当：山本

開催場所

本館特別展示室

開催期間・見学者数

5-(1)-アを参照

関連事業

展示解説(5-(2)-ウを参照)

展示内容

以下、展示区画毎に展示資料内訳を掲載

はじめに

・パネル

「ごあいさつ」(以下全文)

横須賀市自然・人文博物館は、1954年の開館以来、三浦半島を中心に、さまざまな調査研究、資料収集・保管、展示・教育普及活動に努めてまいりました。収蔵している植物の標本数は7万点以上になり、その中には100年近く前に採集されたものや、横須賀市内では既に絶滅したものも含まれます。

これまで、多くの市民のみならずとともに植物を調査・採集し、博物館に標本を残してきました。この度、刊行された『神奈川県植物誌2018』はその活動の成果となります。

本展では、神奈川県立生命の星・地球博物館で2018年度に開催された「植物誌をつくろう!~『神奈川県植物誌2018』のできるまでとこれから~」の巡回展を行うとともに、三浦半島地域で確認された植物や、地域における調査史についても紹介いたします。この展示が来場者の皆様にとって、改めて地域の自然や歴史に目を向ける機会になれば幸いです。

この展示の開催にあたり、以下の団体・皆様にご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

【特別協力】

神奈川県立生命の星・地球博物館

神奈川県植物誌調査会

令和元(2019)年12月7日

横須賀市自然・人文博物館

第1章

・パネル

「植物誌とは」(以下全文)

「植物誌」とは、ある地域に生育する植物の構成(植物相)について、標本などの記録をもとにまとめた本です。簡単なものはその地域に生育する植物をすべてリストアップした植物目録で、分類体系に基づいて配列されます。タイトルが「植物誌」とされる場合は、科、属、種などの分類群ごとに、その特徴や分布状況などが書かれます。見分けるための検索表や図がついていることもあります。その地域の植物をすべて網羅した図鑑も植物誌といえます。扱う地域は特定の湿原や森などの狭い範囲から、市町村や都道府県単位のもの、国単位のものまであります。世界全体を対象にすれば、それは植物の種の体系を示したものになります。

「神奈川県植物誌」(以下全文)

1978年頃、神奈川県を108個の調査区に区切り、調査区ごとに最低1点の証拠標本を作成し、それに基づいて新しい植物誌をつくるのが計画されました。新聞で調査への参加を呼びかけたところ、おもだった植物研究者に加えて、教員・主婦・会社員など約150名の参加者が集まり、1979年3月に神奈川県植物誌調査会が発足しました。9年の調査の後、『神奈川県植物誌1988』が刊行され、標本に基づく分布図、形態の記述や検索表、植物を見分けるための図など、図鑑としても使える画期的な地方植物誌が完成しました。その後、標本がデータベース化され、より詳細な分布図を載せた『神奈川県植物誌2001』に改訂されました。今回、二度目の改訂が行われ、『神奈川県植物誌2018』が刊行されます。



1-(2)-イ エントランス



1-(2)-イ 「第1章」

「都道府県単位の植物目録・植物誌」(以下全文)

日本全国の植物目録・植物誌の編集、刊行状況を調べてみると、ほとんどの都道府県で植物目録または植物誌がまとめられています。しかし、1950年以前の古い植物誌や、文献上の記録のみを集約した植物目録しか存在しない県などもあります。

ここでは、大場(2005)を参考にして、各都道府県の植物目録・植物誌を①単独著者の目録など、②複数著者の目録・植物誌など、③植物図・分布図を掲載の植物誌、の3つに区分して示しました。

「市町村などの小地域の植物誌」(以下全文)

都道府県だけでなく、市町村や山域など、より小さな地域の植物誌も数多くつくられ、刊行されています。これらの植物誌は、その地域の植物をくわしく調べる際に参考になります。例えば、その地域特有の植物について調査したり、よく似た種が存在する場合に、その地域に分布する種を推定したりする際に役立ちます。

神奈川県では、市町村単位の植物誌も多数つくられ、刊行されています。この中には、市町村ごとの活動の中で取りまとめられたものもありますが、「神奈川県植物誌調査会」の活動の一環として取りまとめられたものもあります。

・展示資料

『神奈川県植物目録』(神奈川県1933),『神奈川県植物誌1988』(神奈川県植物誌調査会編1988),『神奈川県植物誌2001』(神奈川県植物誌調査会編2001),『神奈川県植物誌2018』(神奈川県植物誌調査会編2018),『横浜の植物』(横浜植物会編2003),『横浜植物誌』(出口長男1968)

第2章

・パネル

「植物誌からわかること」(以下全文)

『神奈川県植物誌2018』の調査期間中にこれまでに知られていなかった植物が新たに記載されたり、神奈川県新産の在来植物や日本新産の帰化植物などが数多く記載されました。また、集められた証拠標本に基づく分布図から、『神奈川県植物誌1988』、『神奈川県植物誌2001』と長期にわたる植物相調査を続けてきたことで、増加している植物や、減少傾向にある植物など、さまざまな植物の動向を読み取ることができます。ここでは、そんな植物たちの一部を紹介します。

「新たに記載された植物」(以下全文)

『神奈川県植物誌2018』の調査期間中に新たに記載された植物には、ハコネキンミズヒキとタンザワサ

カネランがあります。ハコネキンミズヒキについては、『神奈川県植物誌2001』の調査時にも、チョウセンキンミズヒキとキンミズヒキの中間的な形質を持つものとして、未知の分類群であることが示唆されていましたが、2008年にオオキンミズヒキの亜種として正式に記載されました。タンザワサカネランは、2007年に新たに和名が提案され、2008年に新種として正式に記載されました。最初の発見地にちなみ“タンザワ”の名を冠しましたが、現在では茨城県や福島県、宮城県などでも発見されています。なお、『神奈川県植物誌1988』の調査で気づかれ、新種記載されたものには、ハコネイトスゲ、タンザワイケマ、タンザワウマノスズクサがあります。

「神奈川県新産の在来植物」(以下全文)

『神奈川県植物誌2018』の調査期間中、これまで神奈川県で確認されていなかった多くの在来植物が確認されました(例:コウシンテツカエデ、ミヤマササガヤ、センダイタイゲキ、トウゴクシソバタツナミ、キンセイラン、ジンジソウ、ナヨテンマ、イワヤシダ)。これらの植物は、昔から自生していたにもかかわらず、40年にわたる神奈川県植物誌調査会の調査の間に発見できなかったものなのか、ある時点で神奈川県に分布を拡げてきたものなのか、まだ分かっていません。また、新発見ではありませんが、アズマギクやフジチドリ、クガイソウなどのように、長らく確認されていなかった植物が再発見された例もあります。

「日本新産の帰化植物」(以下全文)

『神奈川県植物誌2018』にも、これまでの『神奈川県植物誌1988』や『神奈川県植物誌2001』と同様、多くの日本新産の帰化植物が掲載されています。



1-(2)-イ「第2章」

その一部のアレチアミガサソウ、アレチイボクサ（当初シマイボクサとされたもの）、ハリフタバモドキ、ホシケチドメグサ、ハナカザリゼリ（ホワイトレースソウ）の記録は、神奈川県植物誌調査会のニュースレター『FLORA KANAGAWA』で報告され、その記事はインターネットでも公開されています。

また、神奈川県内で初めて見つかったものも含め、神奈川県に生育する帰化植物の種類数は増え続けています。

「分布を拡大、縮小させた在来植物」（以下全文）

『神奈川県植物誌 2018』の分布図を見ると、『神奈川県植物誌 1988』の調査以降、分布が拡大あるいは減少傾向にある在来植物の存在に気づきます。増加した在来植物としては、タシロランやマヤランなど暖温帯性の植物や、ヤマホオズキ、ノニガナ、カヤランなどがあげられます。タシロランやマヤランの増加の一因としては、手入れが行き届かなくなった雑木林の常緑広葉樹林化などの影響が考えられます。

一方、減少傾向にある在来植物には、オカオグルマやサワヒヨドリなど、湿地や草原を生育地とするものや、ニホンジカの過度の採食の影響により、特に丹沢山地を中心に減少が著しいノブキやヒナノウスツボなどがあります。

「分布を拡大、縮小させた帰化植物」（以下全文）

神奈川県内で急増しつつある帰化植物としては、マルバフジバカマやキダチコマツナギなど、『神奈川県植物誌 2018』のための調査で、その実態が明らかになったものがあります。マルバフジバカマは1916年頃、箱根に帰化し、その後、小田急線に沿って分布が拡大しました。キダチコマツナギは在来のコマツナギ

と同種とされていたもので、県内では2002年に最初の標本が採集され、現在では県内全域に広がってしまいました。法面緑化に本種の種子を使用したのが原因と考えられています。また、『神奈川県植物誌 2001』の調査時に急激に分布が拡大していたシンテツポウユリ、ナガミヒナゲシ、オッタチカタバミ、ナガエコミカンソウ、ウラジロチチコグサ、マツバウンランなどは、今もなお増加して続けています。

一方、減少傾向にある帰化植物も存在します。一時期、帰化植物の代表選手のようにあったブタクサはブタクサハムシの侵入により大幅に減少しています。

・展示資料

植物画像 10点、植物標本 18点、植物レプリカ 4点

第3章

・パネル

「神奈川県植物誌 2018 のできるまで」（以下全文）

『神奈川県植物誌 2018』は、「神奈川県およびその隣接地域の植物相を調査し、その成果を刊行すること」を活動目的とする市民グループ「神奈川県植物誌調査会」が、『神奈川県植物誌 1988』、『同 2001』に引き続き製作しました。いずれも、(1) 神奈川県内の詳細な地域（調査区）ごとに調べること、(2) 自生するすべての植物を対象とする（コケ植物・藻類をのぞく）こと、(3) 記録は標本にもとづくこと、との方針で製作されています。また、これらの植物誌には、「科や属の検索表」、「植物の解説と図」、「標本記録地の地図」が掲載されている点も特徴です。ここでは、標本に基づく地域植物誌製作の過程を『神奈川県植物誌 2018』の事例をもとに紹介します。

「地域植物誌の証拠となる「さく葉標本」」（以下全文）

地域植物誌の多くは、標本（長期間の保存が可能なように、植物を加工したもの）に基づいてまとめられています。標本は、何十年も経った後に詳細な形を確認することができるため、植物誌に取りあげられた記録を再確認することができます。

地域植物誌で取りあげられる標本として最も一般的なものは、さく葉（押し葉）標本です。さく葉標本は、標本である押し葉と採集記録などが書かれたラベルが、台紙の上に貼られています。植物の標本には、さく葉標本の他にも、材・種子乾燥標本、液浸標本、葉脈・花粉プレパラート、DNA抽出物などがあり、利用目的に応じて作り分けます。標本はある時間・空間にその植物が生きていた証拠であり、記録です。



1-(2)-イ 「第2章（植物レプリカ）」

「地域植物誌の目標と製作過程」(以下全文)

植物誌は、標本や野外の調査、記録のまとめなど、いくつもの過程を積み重ねて製作されています。初めに目標となる植物誌の姿を定めるため、どんなメンバーで、いつまでに、植物誌を完成させるのかを考慮しながら、(1) 対象とする植物の種類、(2) 調査する記録の内容、(3) 調査地域を決めます。『神奈川県植物誌 2018』では、『神奈川県植物誌 1988』、『同 2001』との継続性から、対象とする植物は自生するすべての植物(栽培植物、コケ植物・藻類をのぞく)とし、現在の生育状況の調査を主体としながらも、過去の記録をあわせて調査しました。調査地域は、神奈川県全域の58市区町村を、面積の差が少なくなるよう、さらに分割した111の調査区それぞれとしました。

「チェックリストの作成」(以下全文)

チェックリストは、植物誌をつくらうとしている地域で、これまでにどんな植物が記録されているのかを一覧としたものです。植物誌をまとめる上で、集まった情報の概要を素早く把握したり、不足している記録を確認することができます。

『神奈川県植物誌 2018』のチェックリストでは、「調査区」を横軸に、「植物(分類群)」を縦軸に一覧化し、標本の記録があれば印をつけています。また、最も新しい記録の年代ごとに印を変えて示しています。記録は、これまでに神奈川県内で採集された標本の情報に基づくものです。野外調査によって新しく標本が採集されたり、過去の標本が確認されることによって、チェックリストが更新され、情報の精度が高められます。

「野外調査」(以下全文)

野外調査では、植物を必要以上に採集しないために、近年すでに近くで同じ植物を採集していないか、チェックリストで確認しながら、記録のない植物について採集を行いました。また、法令に基づく手続きが必要な場合には、事前に手続きを取りました。

採集は識別に必要な部位を備えた標本となるよう、押し葉にした際の形状を想像しながら、適した株や枝先を採集します。植物採集と標本作製には、使いやすい道具や出来上がりの状態に多少の差はあるものの、高価な道具や特別な才能は必要ありません。手早くきちんと押し葉を作ることが重要です。

「標本の整理・データベースの作成」(以下全文)

出来上がったさく葉標本は、博物館などの植物標本を専門に収める施設「植物標本庫」に収蔵します。標本やラベルを台紙に貼る作業も植物標本庫で行われま

す。ラベルの情報をデータベース化するとともに、標本を植物の種類ごとに分けて、証拠としていつでも確認できるよう整理して保管されます。

さく葉標本は植物標本庫の専用の植物標本棚に収納されます。台紙への貼付けが完了し、完成したさく葉標本は、いつでもすぐに閲覧できるよう、植物の種類ごとにカバーにまとめて、標本棚に配架されます。植物標本庫では、世界中のどの標本庫に行っても利用者が同じように標本を探ることができるように整理され、利用されています。

「標本や専門的な情報の確認と記事の執筆」(以下全文)

『神奈川県植物誌 2018』では、植物ごとに「科・属の検索表」、「植物の解説と図」、「標本記録地の地図」を掲載しています。これらの掲載内容は、科や属など、植物の仲間ごとに担当する「執筆者」を決めて作成されました。

取り上げた記録は標本に基づくものなので、正確な情報のためには、標本を直接確認する必要があります。『神奈川県植物誌 2001』以降に、記録の追加・変更のあった植物の標本確認を各担当の執筆者が行いました。同時に、執筆者各自が様々な図鑑や植物誌、論文などを参照し、この17年間に得られた学術上の新発見の反映も行われました。

・展示資料

植物調査道具 1 セット

第4章

・パネル

「神奈川県の植物調査史」(以下全文)

神奈川県は、もっともその植物相が把握されている都道府県の一つと言われます。その基礎には、鎖国中



1-(2)-イ 「第3章(調査道具)」

の江戸時代にも、長崎の出島に滞在した外国人が江戸参府の途上に県内で標本を採集したこと、開国後、植物採集を目的に訪日した外国人が、開港した「横浜」などを拠点に活動したこと、明治以降の交通の便の悪い中、首都東京に近い比較的自然豊かな地として、日本の植物学者が採集に訪れたこと、それらの植物学者に指導を受けた愛好家が盛んに活動したことなどによります。ここでは、神奈川県における、江戸時代から「神奈川県植物誌調査会」による調査開始までの植物調査史を紹介します。

「江戸時代（開国以前）」（以下全文）

江戸時代（開国以前）に日本を訪問し、日本産の植物を採集した人物としては、ケンペル（1691年と1692年に江戸参府）、ツェンペリー（1776年に江戸参府）、シーボルト（1823年、1859年に来日）がよく知られています。ケンペルが採集した標本は、日本で採集された最古の植物標本です。箱根で採集されたハコネシダ（ハコネグサ）はよく知られ、英国のロンドン自然史博物館（BM）に所蔵されています。ツェンペリーはリンネの弟子で、帰国後、『日本植物誌』を著しました。そこでは箱根で採集した標本を元に多くの植物が記載されています。シーボルトが採集した標本（関係した人の採集品も含む）の多くは、ツッカリーニとともに研究されました。

「江戸時代（開国以後）～明治初期」（以下全文）

江戸時代末期から明治時代初期には、浦賀に入港し、開港を迫ったペリー艦隊の乗務員や、植物研究を目的に箱館に来日したロシアのマキシモヴィッチ（1860年来日）、横須賀製鉄所の医官として来日したフランスのサヴァチェ（1866年、1873年来日）らが知

られます。ペリー艦隊の乗務員は横浜のほか、伊豆下田や函館などでも採集し、その標本は、ハーバード大学のエイサー・グレイが研究しました。マキシモヴィッチは、岩手県出身の須川長之助を伴い、函館、横浜で採集しました。サヴァチェは勤務の合間に、県内では横須賀や横浜、鎌倉、箱根などで植物を採集しました。これらの標本に基づいて、多くの新種が記載されました。

「明治中期～『神奈川県植物誌 1988』以前」（以下全文）

明治時代以降、日本の植物研究は、外国人の手から、牧野富太郎をはじめとする日本人研究者に移りました。牧野は、自らが採集するだけでなく、地方の植物愛好家たちを熱心に指導しました。さらに、各地の植物愛好家によっても多くの植物が採集されました。その中には、神奈川県を基準産地として記載された植物も含まれています。他にも、松野重太郎や宮代周輔、出口長男らにより採集された標本が、貴重な記録として残されています。ただし、横須賀市博物館や神奈川県立博物館の開館以前は、神奈川県内に植物標本を受け入れている標本庫がなかったため、この頃に採集された標本はごく一部を除くと、国立科学博物館や東京大学総合研究博物館などに収められています。

・展示資料

『草木育種（下）』（岩崎灌園 1818）、『本草図譜総合解説 第一巻』（北村四郎・塚本洋太郎・木島正夫 1986）、『FLORA JAPONICA 日本植物誌』（ツェンペル 1784(1933)）、『SYNOPSIS PLANTARUM OECONOMICARUM Per UNIVERSUM REGNUM JAPONICUM 日本有用植物概説』（シーボルト 1830(1933)）、『FLORA JAPONICA 日本植物誌』（シーボルト・ツッカリーニ 1835-1870(1932)）、『ペリー日本遠征記図譜』（豆州下田資料館編 1998）、『ペリリ提督の日本遠征報告（米国議会報告書）CORRESPONDENCE RELATIVE TO THE NAVAL EXPEDITION TO JAPAN』（ペリー 1855）、『花の沫 植物学者サヴァチェの生涯』（竹中裕典 2013）、『LIVRES KWA-WI ENUMERATIO PLANTARUM』（A. FRANCHET LUD. SAVATIER 1875）、『花彙（上）』（小野蘭山 島田充房 1759(1977)）、『大谷茂業績集 I-III』（横須賀市博物館 1932-77）、『日本植物圖説集』（牧野富太郎 1934）、『牧野日本植物圖鑑 改訂版』（牧野富太郎 1940）、植物標本 1点



1-(2)-イ「第4章」

コラム

・パネル

「杉田のスギ」(以下全文)

横浜市磯子区杉田にある東漸寺境内に、1943年まで生育していた杉の巨木の断面標本です。材の中心が腐朽して欠落していますが、320年ほどの樹齢だったと考えられます。おそらく17世紀初頭から20世紀半ばまで、同地に生育していた植物の証拠標本です。

「杉田」付近は、16世紀初頭には「杉田の浦」と呼ばれ、大木の林立する杉の産地であったとされます。

展示している「杉田のスギ」は、「杉田の浦」の頃の大木ではないものの、その最後の生き残りと考えられます。

「杉田のスギ」が生育していた頃までの杉田一帯は、現在の国道16号線辺りに海岸線が広がっていました。遠浅の海岸にそびえる杉の大木は、現在にない景観だったことが想像されます。

・展示資料

植物標本1点

第5章

・パネル

『神奈川県植物誌』のこれから」(以下全文)

『神奈川県植物誌2018』は、「神奈川県植物誌調査会」の約40年にわたる調査成果としてまとめられました。刊行にむけた取り組みの過程では、様々な成果がもたらされています。

なかでも、これまでに整理・確認された50万点近くの神奈川県産の植物標本をはじめ、活動拠点となった県内各地の博物館のネットワーク、そして植物誌作

成に携わる中で、専門的な知識や技能を身につけた調査会会員の存在は、なにもものにもかえがたいものです。

ここでは、これまでに得られた成果をもとに、『神奈川県植物誌』のこれからについて考えてみます。

「地域の植物コレクション」(以下全文)

『神奈川県植物誌1988』以来、植物誌のために蓄積された神奈川県内の植物標本には、植物のコレクションとして、特筆すべき点があります。

県全域を網羅的に調査し、さらにそのような調査を繰り返し実施した例は、他の地域にはあまりありません。また、刊行のたびに執筆者による標本確認と整理がなされていることは、証拠としての信頼性があります。

一方、植物標本庫には次々と新しい標本が蓄積され、数十年にわたる標本収集の過程では、研究の進展に伴って学術上の見解も時間とともに更新されます。地域の植物コレクションを維持する上で、標本の収集と、あわせて標本の整理・確認を続けてゆくことが、これからも求められます。

「博物館の標本公開」(以下全文)

博物館に収められた標本は、利用者の求めに応じて、調査・研究やさまざまな目的に利用されます。一連の神奈川県植物誌調査において、国内外の標本を調べることができたのは、このような博物館の仕組みのおかげです。

さらに近年では、データベース化された標本情報や画像をインターネットで公開する取り組みも世界中で進められています。例えば、海外の博物館にある古い神奈川県産の標本には、いつでも・誰でもスマートフォンから見られるものも少なくありません。

ただし、標本の整理を進め、データベースの整備や標本画像の撮影を経て、標本公開へこぎ着けるのは、容易ではありません。海外の博物館のように公開できるのは、まだ先になりそうですが、神奈川県内の植物標本庫においても徐々にその準備が進められています。

「みんなで作る植物誌のこれから」(以下全文)

『神奈川県植物誌1988』から続く調査では、参加する人の構成や、専門家の関わり方、調査の方法などが、時代とともに少しずつ変化しています。ただし、広く長期的な視野に立った地域の植物誌づくりの方針は変わりません。「神奈川県およびその隣接地域の植物相を調査し、その成果を刊行すること」という神奈川県植物誌調査の目的は、これからも変わることはないでしょう。



1-(2)-イ「コラム(杉田のスギ)」



1-(2)-イ 展示室内

地域の植物誌づくりは、証拠となる標本の蓄積を中心として、多くの人のかかわりで作りあげる取り組みです。専門的な知識・技能が必要とされることもあるため、広く市民の参加を呼びかけるならば、人を育てる視点も必要です。

「神奈川県植物誌調査会」では、設立当初から植物識別のための勉強会の開催や、学んだことを応用する調査の呼びかけ、そして、会員自身による成果発表の場を設けてきました。こうした人を育てる機会の提供は、地域の博物館が果たすべき役割とも一致します。



1-(2)-イ 「植物パズル」

これからの植物誌にも、時代にあった形で、参加者を支える博物館の役割が必要となるでしょう。

体験コーナー

本展示の対象は「こども」ではなかったものの、三浦半島の植物に親しめるようなぬり絵とパズルを用意した。

・展示資料など

植物ぬり絵2点（ハマナデシコ、スカシユリ）、植物パズル5点（テリハノイバラ、ハマオモト、ハマダイコン、ハマボウ、ハマヒルガオ）

2 研究発表会

(1) みんなの理科フェスティバル

「第3回 みんなの理科フェスティバル」

「こどもからおとなまで、みんなが『理科』でつながる」をテーマに、様々な出展者による研究発表会やワークショップ、講演会などを開催した。本事業は横須賀市文化会館の共催とし、事業開催費用の一部に対して一般財団法人全国科学博物館振興財団の全国科学博物館活動等助成を受けた。

担当：内船

開催場所

本館講座室・特別展示室，横須賀市文化会館第一・二市民ギャラリー

開催期間・来場者数

4-(3)-イを参照

開催内容

ギャラリー出展

開催期間中，文化会館のギャラリーに子どもから大人まで様々な「理科」の作品を集約展示した。

・理科工作

市内小学校の「よこすか子ども発明展」入賞作品9件，市内中学校科学部の「ものづくり教育フェア（ロボコン）」出品作品3件の作品

・理科研究

市内小学校「よこすか子ども科学賞」入賞作品4件，同応募作品15件，市内中学校「学生科学賞」応募作品2件，県立高校20件，大学院生5件，当博物館2件のポスターもしくはレポート

・理科活動

県立博物館1件，県立高校3件，近隣大学1件，

当博物館1件，市内研究団体1件，市外事業者1件のポスターもしくはパネル・資料

・ワークショップ

近隣大学2件，県立高校1件，大学サークル1件，市外活動団体1件，当博物館1件

みんなの発表会①・②

12月14日午前①および15日午後②に，出展者にギャラリー出展会場へ出席いただき，それぞれ出展者の一部による作品紹介や実験演示，一般来場者も含めた交流の時間を設けた。それぞれの司会は高校生にお任せし，①では横須賀市教育委員会教育指導課が主催する「よこすか子ども発明展」の表彰式，②では同課の事業説明も行った。

関連企画

① 企画展示「巡回展『神奈川県植物誌2018』と三浦半島の植物たち」

本館特別展示室。12月7日～2月16日。次項関連企画②とともに，理科フェスティバル実施時期に合わせて開催した。1-(2)-イを参照。

② 自然環境講演会

本館講座室。12月14日。5-(5)-アを参照。



2-(1) みんなの発表会
[全天周カメラで撮影]



2-(1) みんなの発表会
(横須賀市教育委員会 教育指導課の事業説明)



2-(1) みんなの発表会
(大学院生による研究ポスター紹介)



2-(1) ワークショップ
(首都大学東京のサークルによる「節足動物園」)



2-(1) ワークショップ
(三浦半島昆虫研究会による写真展)



2-(1) ワークショップ
(外部団体と横須賀高校科学部による実験演示・体験)



2-(1) 自然環境講演会「よこすかの植物たち」
(講演後、壇上でトークセッションに臨む
大西 亘氏 [右] と岩崎貴也氏 [左])

③ 自然館ミュージアムトーク

本館講座室. 12月14日. 4-(2)-ウを参照.

④ 三浦半島まるごと博物館交流展示

本館2階常設展示フロア. 12月14日～2年1月13日. 三浦半島まるごと博物館連絡会の協力のもと, 加盟団体の活動紹介パネルを展示した. 14日午後には加盟団体参加のもと交流会を開催した.



2-(1) パネル展示
(三浦半島まるごと博物館連絡会)

(2) よこすかの歴史最前線

「第5回 よこすかの歴史最前線」

日頃, 三浦半島の歴史について調べられている市民の方々と博物館の職員が, 最新成果を発表し合う場として第5回目を迎えた. 講座室において行った. 発表は申し込み制, 聴講は自由.

担当: 藤井・菊地

開催場所

本館講座室

開催期間・来場者数

4-(4)-イを参照

開催内容

・口頭発表

『馬堀自然教育園園内と旧陸軍登戸研究所の建造物—馬堀自然教育園&郷土研究発表会(現・横須賀歴史最前線)60周年』 菊地勝広

『追浜飛行場(横須賀海軍航空基地)埋立概要—埋立は, 本当に大正末年に完了したのか—』 永久淳雄



2-(2) よこすかの歴史最前線

3 調査等出張

(1) 調査出張

ア 調査出張①

「福島県会津地方の身近な昆虫調査」

「身近な昆虫」とは、出張者が2013年から三浦半島地域を手始めに着手している取り組みである。昆虫の多様な分類群の理解を促したり、地域の自然環境の特徴を把握しやすくしたりすることを意図しており、地域ごとに比較的観察しやすい種を挙げることで、教育活動にもつなげる取り組みにもしている。2014年度には三浦半島地域の「身近な昆虫」100種を選定するとともに、その構想を三浦半島3市1町ゆかりの地域（各市町の姉妹都市等）に拡大した調査を行った*。

会津若松市は福島県西部の内陸部に位置し、歴史的なゆかりから2005年4月に横須賀市と友好都市を締結している。前述の2014年度の調査では、市内の調査協力者や行政機関の協力のもと同市において現地調査を実施している。

本出張は、年度内2回に分けて実施し、1回目は①会津若松市における現地調査の追加調査を行うことで同地域の「身近な昆虫」を明らかにすること、②同地域に限定すると見ることができない自然環境を求め自然や文化でつながりのある福島県会津地方の他地域においてより広域的な「身近な昆虫」を明らかにすること、③同地域に比較的近い環境において昆虫をテーマに展示・教育普及活動を行っている施設を見学すること、を目的とし、2回目は④会津若松市内の調査協力者との調査データ集約および公表に向けた打合せ、を目的とした。

なお、本出張の成果の一部は内船(2020)(6-(2)-イを参照)にて公表した。

担当：内船

* 全国科学博物館活動等助成事業として実施した「地域コア昆虫種資料セットによる多様性・分類教育の試みと姉妹都市への展開」

日程・調査地

6月23日	福島県須賀川市（ムシテックワールド）	6月28日	福島県会津若松市（鶴ヶ城）
6月24日	福島県耶麻郡北塩原村（檜原湖・五色沼）		
6月25日	福島県耶麻郡北塩原村（檜原湖・五色沼）	2月19日	福島県会津若松市
6月26日	福島県会津若松市（阿賀川・湯川）	2月20日	福島県会津若松市
6月27日	福島県会津若松市（鶴ヶ城・小田山）		



3-(1)-ア 五色沼から磐梯山を望む
(北塩原村)



3-(1)-ア ギンイチモンジセセリ（三浦半島では絶滅）
とその生息環境（北塩原村）



3-(1)-ア 鶴ヶ城の近くを流れる湯川とアオハダトンボ
(近縁のハグロトンボは三浦半島にも生息)
(会津若松市)



3-(1)-ア オオチャバネセセリ (三浦半島では絶滅)
(会津若松市)



3-(1)-ア ハラビロヘリカメムシ(三浦半島で本種は少なく、
代わりに近縁種ホシハラビロヘリカメムシが多い)
(会津若松市)



3-(1)-ア ムシテックワールド敷地内にある
ビオトープと野外観察用建屋
(須賀川市)



3-(1)-イ ジュリ馬神事
(那覇市辻町)



3-(1)-イ ジュリ馬神事後の会食
(那覇市辻町)

イ 調査出張②

「鹿島・ミロク信仰と海上他界観の調査」

茨城県，千葉県，神奈川県西部，静岡県そして沖縄県に分布する鹿島・ミロク信仰のなかで，他地域と隔絶している沖縄県を調査した．また，「ニライカナイ」等の海上他界観や龍神信仰についても調査する．具体的には，旧暦1月20日に那覇市辻町で行われる「二十日正月のジュリ馬行列」に出てくるミルク神を調査し，斎場御嶽やヤハラヅカサ，奥武島の龍宮神を調査した．

担当：瀬川

日程・調査地

2月13日 那覇市辻町

2月14日 斎場御嶽・ヤハラヅカサ・奥武島



3-(1)-イ ミルク神
(那覇市辻町)



3-(1)-イ 斎場御嶽
(南城市)



3-(1)-イ ヤハラヅカサ
(南城市)



3-(1)-イ 奥武島の竜宮神
(南城市)

(2) 博物館大会等の参加・発表に伴う出張

ア 出張①

「国際博物館会議 (ICOM) 2019 京都大会」

ICOM 史上最多の 4,000 人を超える参加者が集まった本大会には、当館から内船（報告者）・瀬川・藤井の 3 名が参加した。国際的な博物館界で話し合われるトピックについて知ることができただけでなく、多様な館種・テーマを包摂する本大会で取り上げられた“文化財”や“環境”など用語の認識を国際的な文脈において改めることができた。報告者が参加した ICR（地方博物館国際委員会）では、主に日程の最大の山場であった大阪・平野郷地区のオフサイトミーティングに参加し、国内外の地方博物館に関わる参加者とともに地域博物館とエコミュージアムについて考える機会を得ることができた。兵庫県豊岡市へのエクスカージョンのほか、京都市内の博物館関係施設を視察し、多様な博物館のあり方や展示方法について見聞をひろげることができた。

本大会を通じて、博物館とは地域から世界まであらゆる視野に立った多様性を包摂する機関であり、多様性の包括こそが使命として求められていることを実感した。博物館の核は“モノ”であることは変わらないが、他方で“モノ”を巡る定義は多様化している。かつて博物館は地域住民の教育資料として実物を見せ、地域の財産を保管・公開する“ハコ”であったが、今や教育資料や財産と捉えうる事物は地域に数多点在するとの視点に立ち、博物館は地域のコミュニティやネットワークの中に存在し活動する時代になっている。これを“図と地”論に置き換えると、地域における博物館を“図”として捉えていた時代から、背景である“地”とも接続し生かせる博物館が求められる時代となったと言える。博物館はまた、資料という具体を扱う一方で法則・原理や人類・国際問題など普遍的なテーマにも接続している。地域住民の幸福のあり方を追求する先に人類の持続可能な開発目標（SDGs）があることは、“時間を超えた万有の蓄積装置”として将来に対しても責任を持つ博物館が自覚せねばならない視点である。

本大会で見えてきたこれからの博物館のあり方は、多様性を包摂しながら地域とともに活動することと、資料や展示をとおして学術的な事実と普遍的な課題を理解させ地域住民のリテラシーを高めることであり、博物館には地域における広義のエコシステム（※日本的な“エコ”の範囲ではない）の一部としての役割を果たすことが求められていると感じることができた。

担当：内船

以下に、報告者が参加した会議等ならびに視察を行った施設等について所感を述べる。

開会式 [9月2日]

ICOM 会長スアイ・アクソイ氏のスピーチでは、世界の博物館業界のトピックの一つである“文化財の危機”



3-(2)-ア 開会式会場

として、まず生物種の絶滅／絶滅危惧を挙げ、続けて災害や紛争等における消失／破壊を挙げた。本大会は日本学術会議（人文科学・社会科学、自然科学の全分野の科学者の意見をまとめ国内外に発信する機関）が共同開催者になっていることとあわせて考えると、いまだ歴史・文化・芸術で捉えられがちな我が国の“文化財”に対して、改めて世界的・現代的に認識を改める機会となった。

秋篠宮殿下は、資料とは「いつ使われるのか」という批判にさらされるものではなく未来の研究者に向けて遺すべきものである、つまり博物館は“時間を超えた万有の蓄積装置”であると述べられた。続けて、博物館とは資料が分類されている学術分野にとどまらず多様な分野で社会に対して貢献しうる機関であると述べられたことについては、本大会のテーマである“文化をつなぐミュージアム（The Museums as Cultural Hubs）”にかけた、「地域のハブとしての博物館」に言及したものと思われた。

これらのスピーチを受け、文部科学大臣は「ICOM の

方針を今後の博物館政策に反映したい」と述べた。

基調講演①：隈研吾氏（建築家）[9月2日]

博物館は、①リビングルームのような《交流の場》、②実物を見て体験できる《教育の場》、③地元の経済を活性化させる《経済の場》として捉えることができる。演題「森の時代」には、これまでの博物館が閉じた“ハコモノ”であったことに対して、これからの博物館がコミュニティとつながるための“森”としてデザインされるべきであるとの意趣が込められている。具体的には、建物の周縁部（敷地だけでなく2階以上のテラススペースにも）にコミュニティスペース（遊歩道や緑道やベンチなど無料で立ち入って憩えるスペース）を設けることであり、例えば新国立競技場ではスポーツ大会だけでなく普段から市民に親しまれる場を設計し、周辺地域の自然や文化との緩やかな接続を意図した。

プレナリー・セッション①：博物館による持続可能な未来の共創 [9月2日]

本大会最初のセッションでは、“持続可能な開発目標(SDGs)”がテーマに取り上げられた。これは2015年の国連サミットで採択された2030年までの国際目標であり、17のゴールが設定されている。“未来にのこす活動”としてSDGsと根幹で共通している博物館もまたこの国際目標に関わるべき存在であり、2030年までのアジェンダにおいて、SDGsの17のゴールのどれに貢献できるのか、各館のミッションステートメントの中に位置づけることが求められる。

NATHIST（自然史博物館国際委員会）[9月2～4日]

本委員会で取り上げられたキーワードの一つに“Anthropocene（人新世）”があり、完新世の中で現代



3-(2)-ア NATHIST 会場

を含む最も新しい時代となる1.5万年前以降の、人類が地球規模の影響を及ぼすようになった時代を指す。その視点に立った自然史や自然環境についての理解こそが、SDGsへの貢献という発想につながるという点が強調されていることが印象的であった。

基調講演②：セバスチャン・サルカド（写真家）[9月3日]

森林破壊や公害、先住民族の生活環境の悪化など、自然環境の危機が指摘されているアマゾン熱帯雨林は、最近も大規模な火災が生じ、本大会でも話題の一つになっていた。講演は、アマゾン熱帯雨林を長年フィールドとして自然景観や先住民族の暮らしを撮り続けてきた写真家によるものであった。活動家然とした熱い口調からは、アマゾン熱帯雨林をとりまく先進国を含む世界中のステークホルダーたちが、ブラジルという国家だけの“他人ごと”とせず、同地域の自然景観や先住民族の営みの素晴らしさを実感して行動に移せるよう、写真展や映画として世界中の美術館などで展示する活動が語られた。

プレナリー・セッション②：ICOM 博物館定義の再考 [9月3日]

博物館の目的や活動が時代に合わせて変化してきたことは、日本では伊藤寿朗が1993年に提唱した“博物館三世代論”を挙げるまでもなく明らかであるが、世界ではより急速にかつ多様に変化している。博物館の変化に対応しつつ、前出のSDGsのような国際目標に対して、国際的な“博物館”の定義の再編が必要とはされものの、大変な困難を伴うことは想像に難くない。このセッションはそのような背景の中で“包摂”をキーワードに熱心な議論が行われた。

「博物館は社会における多様性の包摂と社会に対する役割の拡大が求められている」との提案から、包摂を実現する考え方の一つとして“脱・二元論”が挙がり、「自然科学 vs. 人文科学」「自然 vs. 科学」「芸術 vs. 経済」などの分断・対立の発想から、「連続」「パートナーシップ」「循環」など“エコシステム”を重視することが提案された。二元論はしばしば格差や不平等を生み出してきたことから、植民地や公害など過去の不平等も展示として取り上げ、未来を志向する材料にすべきとの意見があった。

“博物館とはどんな場所であるか”という議論では、およそ半世紀前から提唱されてきた「フォーラムとしてのミュージアム（モノに人が集まる場 [= テンプル] ではなく、人が集まる場 [= フォーラム] にモノを展示する）」を再確認した上で、専門家と非専門の人々が議論する場や機会となる“インターセクション（交差点）”

としての博物館のあり方が提案された。

セッションの終盤には、ICOM 博物館定義に“人類”や“環境”を入れることや、次の世代が直面することになる社会的問題を想定し包摂することなどが提唱された。

プレナリー・セッション③：被災時の博物館 [9月4日]

このセッションは博物館を取り巻く様々な災害や被災時の対応についての話題が交わされた。日本では津波や豪雨による被災が多く話題に上る一方で、世界では昨年のブラジル国立博物館や今年4月のノートルダム大聖堂などの火災や、紛争や経済的な問題による危機も挙げた。

こうした様々な災害を超えるためのキーワードとして、セッション②でも挙げた“エコシステム”が取り上げられた。この語は日本では自然科学に限定されたイメージで捉えられがちだが、国際的な文脈では自然・人文・社会を通じ広く用いられており、日本人にとっての“エコ”に対する自然科学的な先入観を改める必要を感じた。

セッションの締めくくりには、「災害に学ぶことは、次に起こる災害に備えてガバナンスとネットワークを構築すること」との提言があった。

基調講演③：蔡 國強氏（アーティスト） [9月4日]

演者は中国出身で火薬を使った派手な絵画・彫刻制作やパフォーマンスで知られた作家であり、講演では作品紹介とともにその裏に込められた思いが語られた。一貫して持っているテーマが“距離あるものを飛び越えるための表現”であり、歴史資料の展示室に自らの作品を組み合わせることで、歴史資料が生み出された時代と現代

を超えたつながりを演出するなど、地域や経済格差や意識など様々な距離を越える試みを行っていたことが興味深かった。

美術館のない国や地域に赴き、住民と一緒に地域の資源を使った美術館を作る“なんでも美術館”という活動についても、その活動に際して「アーティストはクオリティを担保する」という関わり方とともに印象的であった。

プレナリー・セッション④：世界のアジア美術とミュージアム [9月4日]

世界の博物館が欧米をベースに語られがちの中で、“多様性の包摂”の試みとも取れるこのセッションでは、中国や韓国に続いてアジアでは3カ国目となる本大会において、アジア美術がテーマに取り上げられた。掛け軸や茶器などの日本美術は、道具として使われる中で活き、複数の物の配置によるアンサンブルを重視する芸術であることから、しばしば欧米の博物館で展示される際に起こる間違いを分かりやすく解説した講演や、日本では戦後復興期の国際的なイベント（東京五輪・大阪万博）を機に世界へ向けて日本美術史を発信した学芸員たちが世代交代によってどのように継承していくのか注目されているという意見があった。

パネルディスカッション：博物館と地域発展 [9月4日]

ICOM では前回大会から OECD（経済協力開発機構）との連携のもと、文化と地域の開発に向けたガイド（OECD-ICOM ガイド）が編纂されており、地域経済の担い手の一つとしての博物館についての講演が行われた。京都市長からは町並みを整備する一方で財政が厳しい京都の現状を「アートや文化にお金を出してくれる人が少ない」日本的な問題と指摘しつつ、京都市立芸術大学の移転構想による市街地の活性化を例に「アートで地域が変わる」ことへの期待が述べられた。

オフサイトミーティング：平野町ぐるみ博物館 [9月5日]

ICR（地方博物館国際委員会）では、9月2～4日に世界各地の博物館や地域における取組みについて口頭やポスターでの発表会をおこなったのち、5日はオフサイト（≡フィールド）ミーティングを主催した。大阪市平野区の平野郷地域はかつての環濠自治集落に端を発し、江戸初期の町割りをはじめとする歴史や文化を今に残す地域である。ここでは鉄道の廃線に対する市民運動を契機としたまちづくり運動「平野町ぐるみ博物館」が1990年代に生まれ、日本の代表的なエコミュージアムの一つとして知られている。商店街の店舗や寺院、



3-(2)-ア ICR 発表会場

古民家を改装した私設展示場など様々な“博物館”をフィールドワークにて見学した後、寺院の研修所を会場にICOM参加者と日本エコミュージアム研究会と地域住民が約100人集まり、フォーラムが開かれた。登壇者の発言の中から印象的であったことを次に挙げる：①エコミュージアムとはまちづくりの手段としてのプロジェクトであり、住民参加の調査を通して地域に愛着をもつことで地域社会の課題をのり越えようとする運動であること、②観光とは地域の「光を観る」、つまり“図と地”論における“図”がフォーカスされがちであるが、近年はそこに息づく風土や生活など“地”も注目されていること、③“地の観光”の主演は地域住民で、その活動こそがエコミュージアムであり、「人が集まって町ができた」ことを地域の中で再発見する活動であること。立ち上げ当初およそ100“館”を数えた平野町ぐるみ博物館も、高齢化や廃業などから現在は20弱ほどの活動に留まっており、先進的な事例が今後どのような展開を見せるかが注目される。

エクスカーション：山陰海岸ジオパークとコウノトリ保護地域 [9月6日]

豊岡市は兵庫県北部に位置し、日本の野生コウノトリの最後の生息地であるとともに山陰海岸ジオパークの一部を構成している。エクスカーションでは海外参加者が多いことを踏まえ、日本における野生動物保護・自然環境保全の現場ならびに国指定天然記念物にも指定されているジオサイトの一つを視察した。

豊岡市立こうのとり文化館は、兵庫県が推進するコウノトリの野生復帰の取組みの場である県立コウノトリの郷公園内にあり、同園内にある県立大学大学院豊岡ジ

オ・コウノトリキャンパスとともに、コウノトリをはじめとする自然環境の保全・研究・教育普及を行っており、NPO法人コウノトリ市民研究所が指定管理をしている。コウノトリ減少の一因とされた農薬の多用による餌動物の減少の反省から、豊岡地域では減農薬の取組みによってコウノトリの生息・飛来を実現し、「コウノトリ育むお米」をブランド化するなど、コウノトリを軸とした持続可能な地域環境づくりを行う取組みを学ぶことができた。

玄武洞は柱状節理と呼ばれる地質構造が大規模に見られ、その亀甲模様を四神の一つ“玄武”に見立てたことに由来し、“玄武岩”の由来にもなっているほか、地磁気の反転が世界で始めて発見された場所でもあり、近隣の城崎温泉とともに県北部の観光名所となっている。こ



3-(2)-ア エクスカーション（こうのとり文化館）



3-(2)-ア オフサイトミーティング（フォーラム）



3-(2)-ア エクスカーション（玄武洞ミュージアム）

の場所に隣接して玄武洞の地球科学的な重要性を解説しているのが玄武洞ミュージアムであり、かつては土産売店と一体化した観光地の資料館然とした外観だったものが、山陰海岸ジオパークへの参加や道路拡幅のため2018年にリニューアルされ大きく外観が変わった。従来の玄武洞の解説コーナーと世界中の岩石・鉱物コレクションを見やすく洗練された展示に変え、新たに古生物展示を増設したことによって、来館者の満足度を高める工夫が見られた。

その他①：京都市内のミュージアム等施設の視察 [9月3～7日]

ICOM 開催期間中に京都市および周辺のミュージアム等施設は、特別開館や企画展示などを行って本大会に花を添えていた。そこで、京都市内のミュージアム等の視察も合わせて行った。

- 京都市青少年科学センター・京都市環境保全センター
- 森の展示館（森林総合研究所関西支所）
- 京都鉄道博物館
- 京都大学総合博物館
- 京都水族館
- 石ふしぎ博物館（益富地学会館）
- 京都市平安京創生館（京都市生涯学習総合センター）

その他②：日本開催で見られた《おもてなし》

本大会では海外からの参加者に日本の文化を伝えるた

めの様々な工夫も見ることができた。開会パーティーでは、会場の立地を生かした屋外での立食とした上、伝統的なスタイルでの花火の演出が行われた。ソーシャルイベントでは二条城の屋内外を参加者だけに夜間特別公開した。企業や政府機関や博物館など出展者200を超えた出展ブースでは、多様な展示やパフォーマンスを見ることができた。閉会パーティーもまた京都国立博物館を夜間特別開館するとともに、庭園部にステージを設え、ライトアップやプロジェクションマッピングを行い、文化施設におけるユニークベニューを体現していた。



3-(2)-ア ライトアップされた閉会式会場
(京都国立博物館 明治古都館)

4 ニュース

(1) 台風 19 号による天神島臨海自然教育園への被害

「台風 19 号による天神島臨海自然教育園への被害」

令和元年は三浦半島に台風 15 号（9 月 9 日）と 19 号（10 月 12 日）が直撃し、天神島臨海自然教育園に多大な被害をもたらした。特に 19 号は強い波浪をとめない、園内の擬木柵の破損や園路へ大量の砂の堆積が著しかった。また、三浦半島では稀な野鳥であるセグロアジサシの漂着があり一時保護したが、間もなく絶命したため剥製標本（YCM-0982）として保存した

担当：萩原

(2) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための臨時休館

「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館」

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、令和 2 年 2 月 22 日より横須賀市内の社会教育施設のすべての行事が一斉に中止となった。それに伴い、自然・人文博物館とヴェルニー記念館は、令和 2 年 3 月 4 日から 3 月 16 日ま



4-(1) 砂の漂着前
(2019年1月18日)



4-(1) 砂の漂着後
(2019年10月13日)



4-(1) 擬木柵の破損
(2019年10月13日)



4-(1) 保護されたセグロアジサシ
(2019年10月13日)

で臨時休館することになった。そして、その後の状況により、休館期間を3月31日まで延長した。

担当：久保田

(3) 追悼記事①

「追悼 稲村繁学芸員」

学芸員の稲村 繁氏におかれましては、在職中の2019年11月29日に亡くなられた。1986年5月に横須賀市教育委員会に採用され、1993年4月から当博物館の学芸員（考古学）として、考古学、とりわけ古墳や埴輪の研究をとおり、当該期の遺跡の整備及び保存に関して横須賀や三浦半島のみならず幅広く活躍された。稲村氏の追悼にあたり稲村氏と共に学びあった仲間である中三川 昇・野内 秀明両氏のそれぞれの想いも合わせて、元博物館運営課長の佐藤明生氏に寄稿いただいた。

稲村 繁君の一周忌に想う

稲村君の一周忌を迎えてもなお、彼の急逝に真実味が無い。それでも、現実を見つめ心を整理し、追悼の気持ち込めていくつか思い出を語りたい。

稲村君との出会いは、1986年4月11日、横須賀市教育委員会の埋蔵文化財担当職員の採用試験の当日であった。受験者は5人で採用者は3人。試験は淡々と進められたが、筆記試験と面接試験の間の休憩時間のことである。人懐っこそうな顔で話しかけてきた人物がいる。それが稲村君である。私たちが身を置く考古学の世界も狭いもので、共通の友人がいたりして話が弾んだ記憶がある。彼のどこか安心感のある暖かい人柄に好意を抱き、彼となら一緒に仕事をしていけるなど、この時に思った。

採用通知が届き、1986年5月1日付での辞令交付。その場に稲村君がいて安心したのは言うまでもない。もう一人の採用者が中三川昇である。この3人奇しくも同学年であった。話などは合うがやりにくい面もある。特に埋蔵文化財調査や考古学の世界ではある程度の経験を積んできており、お互いに牽制しあうこともあるからだ。また、各々の実績により3人の役割は、縄文時代以前は私、弥生・古墳時代は稲村君、古代以降は中三川ときれいに分担できてしまった。効率的である反面、お互いの力量を尊重しすぎて自由闊達な議論がないと他人任せになってしまう。正直に言えば譲り合いと対話は同居していたと思う。

採用後、3年ほどは米海軍長井ハイツ跡地内の埋蔵文化財調査に携わった。調査について思い出すことは多々あるが、それよりも跡地内にテニスコートが1面あり、昼休みの度にラケットを振り回した記憶がまず目に浮かぶ。稲村君はラグビーを長年やっていただけあって運動

能力には長けていた。初めてというテニスの腕前もめきめき上達した。

それから、この回想にはもう一人登場人物がいる。私たちが3人が採用される以前から博物館で考古学を担当していた野内秀明だ。そして何の因果か彼もまた同学年であった。稲村君と野内との出会いは1980年の長井内原遺跡F地区の調査に遡り、当時を振り返り野内は次のように回想する。

「内原遺跡は過去の調査で、古墳時代初頭から前期にかけての三浦半島有数の大規模集落跡として注目されていた。そこで古墳時代を専門とする稲村君が主任調査員を務めてF地区の調査が始まった。ところが調査は、縄文時代早期前葉の竪穴住居址の検出、大浦山Ⅱ式土器と平坂式土器の新旧関係、それらに伴う他地域に分布する土器型式の把握など、当初の予想とは異なる結果となった。ただ、この大きな成果を呼ぶ背景には、稲村君が遺



4-(3) 長井ハイツ跡地にて
(左から、中三川・佐藤・稲村) (1987年頃)

物包含層中の縄文時代の遺物でさえも、その出土位置をすべて記録に残しながら調査を進めたことにある。一部だけ遺物が集中する地区を検出し、それが竪穴住居址の発見につながった。また、数年後の市内林の溝尾遺跡の調査でも、後に神奈川考古学同人会主催の縄文時代早期末のシンポジウムで採り上げられた茅山上層式以降の土器群を検出している。自分の専門にとらわれない、遺跡に対する真摯な考古学研究者としての稲村君の姿を想い出す。」

稲村君と野内は、その後、新横須賀市史編さん事業の考古部会で顔を合わせ、『通史編—自然・原始・古代・中世』、『別編—考古』の執筆・編集に携わる。

さて、埋蔵文化財の業務も慣れてきた頃、稲村君と中三川の間で話を進めていたのか、毎年行う発掘調査の成果を市民に還元するために展示会をやらないかと持ち掛けてきた。これには即答した。こうして市役所の一画に出土品を並べた手作りの「埋蔵文化財発掘調査速報展」が始まった。ケースもなくむき出しの出土品に足を留める市民も多かった。また、近隣の自治体職員の視察もあり、消耗品費のみの僅かな経費にも関わらず、費用対効果が大きいことで評判を呼んだ。現在は、パネル展示だけになったがこの速報展は今でも続いている。

そして、6年を経過した時、人事異動で稲村君と野内が入り替わった。これ以降、稲村君は博物館で学芸員としての道を歩んでいくことになるが、30数年間にわたり三浦半島の考古学を学びあってきた仲間として中三川は次のように語る。

「稲村君のライフワークは古墳と埴輪だった。1989年から3年間かけて行った市内埋蔵文化財分布調査では主に丘陵地帯を担当し、尾根筋や斜面を踏査した。この調査では新たな古墳の発見には至らなかったが、その後も独自に踏査を続け、三浦半島の東京湾岸では唯一の横穴式石室と埴輪を伴う帆立貝形前方後円墳『大津古墳群1号墳』(横須賀市指定史跡)や三浦市金田の前方後円墳『雨崎古墳群1号墳』を発見するとともに、逗子市と葉山町にまたがる『長柄桜山1・2号墳』(国指定史跡)の調査と保存・整備に関わる等、三浦半島の古墳研究と遺跡の保存に大きく寄与した。それらの研究成果は私も多めに学ばせていただいた。

個人的には、30代前半頃にスキーやテニスであちこち出かけたことや、二人で瀬戸内や九州北部の史跡と博物館巡りをしたことが忘れられない。また、近年は市内岩戸にある佐原十郎義連創建の満願寺から出土した中世瓦について、有志グループによる調査活動に多大な協力

をいただいた。調査結果を取り纏め、遠からず公開し、稲村君の尽力に報いたいと思っている。」

私は、定年の1年前に博物館運営課長を命じられ、再び稲村君と職場を共にした。私にとってこれが人生初の人事異動。ある程度勝手知ったる博物館、異動の心配はさほどなかったものの、稲村君がいることはとても心強かった。頼りにもしたし、彼もまた大いに助言してくれた。人事面を含め博物館の隅々に至る話題になると、顔を近づけ声を潜めて語ってくれたものだ。

たった1年間の博物館勤務であったが、特に印象に残るのは夏休み企画「古代ネックレスをつくろう」である。小中学生向けの行事で、板状に加工した滑石を削って磨いて勾玉をつくっていく。ただし、その石材からいきなり削り始めるのは大変で、まず、子供たちが下書きし、その線に沿って、稲村君がハンドグラインダーで勾玉の外形を整えていく。防塵マスクにゴーグル、エプロン姿で黙々と石をカットしながらも、参加者に目を配っている。ゴーグルの中の目は子供たちを温かく見守る優しさであふれていた。

またこの年、企画展示「横須賀の古墳時代—古墳はだれがつくったか—」を開催した。三浦半島を「海の十字路」と定義し、古代国家の成立と展開に重要な役割を果たしたとする持論に沿った内容で、稲村君の研究者としての集大成であることを物語る。一般参加の展示解説には私も混じりこんだ。稲村君の解説は、懇切丁寧で長いとの評判どおりで、彼を囲む参加者の輪はなかなか先に進もうとしない。私は他用もありその場を離れざるを得なかった。

なお、稲村君が亡くなった時に取り組んでいたのは、



4-(3) 夏休み企画「古代ネックレスをつくろう」で滑石をカットする稲村学芸員
(2017年8月6日)

近年の発掘調査成果に基づく三浦半島の歴史の再構築を目指した企画展で、これが横須賀市自然・人文博物館の考古担当学芸員としてのまとめでもあった。その成果に触れることができないばかりか、彼の展示解説を聞くこともなくなり、なんとも残念である。

あと一つ、稲村君が自分自身を語った一言を紹介したい。ある時、彼はふとつぶやいた。

「僕はええ格好しいだ。」

飾るでもなく見栄を張るでもなく、大言を吐くこともない彼の口からその言葉を聞いたときは、何故そのように自身を評したのか腑に落ちなかった。ただ彼自身、当然のことながら仕事やプライベートでの遊びと共に悩みや怒りを感じ、願望そして諦めもあったはずである。けれども、他人に心配をかけたり弱みをみせたりせず、いつもの「稲村 繁」であること、そしてそれを保ち続けることが「ええ格好しい」なのではないか、これこそ彼の生き方を表しているのではないかと、今、思い返してみたりしている。冒頭に記した「どこか安心感のある」稲村君もまた然り。

最後に、私たち3人を代表して、稲村君との出会い、



4-(3) 企画展示「横須賀の古墳時代—古墳はだれがつくったか—」を会場に館内研修会で解説する稲村学芸員（奥は佐藤）（2017年1月26日）

そして彼と彼を支えた家族の皆様へ感謝し、改めてご冥福をお祈りします。

（佐藤 明生 横須賀市立中央図書館郷土資料室）

（中三川 昇 横須賀市教育委員会生涯学習課）

（野内 秀明 横須賀市教育委員会生涯学習課）

(4) 追悼記事②

「追悼 大場信義 元学芸員」

元学芸員の大場信義氏におかれては、2020年1月31日に亡くなられた。当博物館において、同氏は1975年4月から2006年3月まで学芸員（昆虫学）として在籍したのち、2007年4月から2011年3月まで研究員（発光生物）として在籍され、長年にわたりホタル類の研究や水辺環境の保全活動に当たられた。大場氏の追悼にあたり元学芸員の大森雄治氏に寄稿いただいた。

大場信義さんと博物館

大場信義さんには、私が横須賀市博物館（当時）に勤め始めた1981年から、大場さんが退職される2006年までの四半世紀もの長い間、学芸員の先輩、上司としてご助言いただき、時に同僚として楽しくお付き合いいただきました。

大場さんがライフワークとされたホタルの研究は、博物館における学芸活動の核でもありました。小さな児童から中高生、大学生、若い研究者、自然を楽しむ市民に至る幅広い教育活動も、最新の研究成果を発揮した展示も、地元の自然を愛する様々な市民団体や町内会などとの自然保全活動も、すべてホタルを起点に展開され、大きく広がりました。

今から40年ほど前の深田台の中央公園には、1970年に移転した自然部門だけからなる博物館（現在の自然館）があり、歴史・民俗部門はまだ久里浜の分室（開設当時の横須賀市博物館）にあったのですが、すでに人文博物館の工事が始まっており、自然担当4人、人文担当2人の学芸員はすべて3階の学芸員室と学芸事務室で机を並べ執務していました。その頃、野外の教育活動には、複数の学芸員が様々な組み合わせで担当し、地域の自然や遺跡や年中行事などを分担して解説していたので、互いの専門分野を知るよい機会でした。1983年の人文博物館の開館に伴って人文担当学芸員も4名となり、学芸活動の拡充に伴い、博物館行事が格段に増えたのですが、一方で、野外行事が細分化され、各分野を中

心に展開することが多くなったことは少し残念に思いました。

このような時期に、すでに昆虫観察会、ホタル観察会などを受け持たれていた大場さんから、昆虫と植物、そして両者の密接な関係を、年間を通して野外で観察しながら紹介したいので一緒に行事を企画しないかとの提案をいただき、1985年から「昆虫植物自然教室」が始まりました。その後「身近な自然」、「谷戸田の自然」と名称は変わりましたが、昆虫と植物の生態を通して、三浦半島の自然を学ぶ行事として、大場さんが退職されるまで続けました。昆虫だけでは子どもが多く、植物だけではほとんどが大人、と偏りがちですが、組み合わせることで幅広い世代の方々に参加いただき、とてもよかったです。観察会では、昆虫や植物の研究グループの方々にも講師として観察会を応援していただきました。アマチュアの方々の昆虫や植物、地元の自然への熱い思いを感じることができましたし、互いに交流する機会にもなりました。観察会の下見には時に講師の方も加わり、分布や生態の調査も兼ねて昆虫や植物のお話をする機会となり、私にとっては、自然の新たな扉が開かれた思いがします。いずれも大場さんのアイデアの賜物です。

博物館の仕事によりやく慣れてきたころからの私の拙い悩みのタネのひとつは、日頃の調査研究活動や標本の収集と整理の成果を、行事の参加者や来館者だけでなく、どうしたらすべての市民に還元できるのか？ということでしたが、大場さんから「地域の生物相調査や生態研究は、動植物の保護や自然景観・環境の保全に係っており、それを生かすことが43万人の市民への大事な貢献ではないか」というようなアドバイスをいただき、後押しされた思いがしました。

馬堀自然教育園で今も続く「ホタル観察会」は、教育園の整備とホタルの生態研究と試行錯誤の飼育経験なしにはできないことです。1959年に開設された馬堀自然教育園では、羽根田彌太先生が園内の湧き水を利用して飼育を試みられ、大場さんが引き継がれました。さらに園路と水路の整備、学習棟の開設は大場さんが中心になって進められました。園内にあったU字溝を、擬木などを使って自然の小川を模したせせらぎに作り替え、水源地付近に湿地を作り、最下流部に池を残しながら、セキショウやハンゲショウなどの地元の水辺の植物を移植し、今に至っています。博物館が管理し、市民の共有財産でもある馬堀の森林の中で、ホタルの観察・観賞を、毎年市民が楽しめるのは素晴らしいことだと思います。このような様々な整備と保全、教育活動によって、馬堀自然教育園は2016年に横須賀市の文化財(天然記念物)

に指定されました。ホタルの観察会では親子2代で参加される方も珍しくなく、ホタルや身近な自然への興味と愛情が引き継がれています。

自然観察会やホタル観察会での大場さんの解説では、冒頭に必ず、多種多様な昆虫が生息し、植物が生育する背景、ホタルが産卵して幼虫が育ち成虫が飛び交う背景に注目してほしいことを伝えていました。虫や花の名前を知る、ホタルを観賞することはとても楽しく大切なことですが、それらを育む森や林、水辺の保全が欠かせないことをも学んでほしいという思いにあふれていました。生物の観察こそが自然保全の出発点であることを伝えていました。

研究でも観察でも、まず自分が面白い、楽しいと思わなければ、他人には伝わらないということも、よく話されていました。繰り返し参加したり、大きくなってからも参加する子どもたちがいたことは、きっと大場さんの感動が伝わったからではないでしょうか。

大場さんは夏休みの小中学生の自由研究に始まり、高校生や大学生、大学院生の指導にもその力を発揮されました。昆虫への愛情が伝わる優しく丁寧な指導によって、博物館での市民参加の研究発表会にまで導かれた中学生も現れました。若い研究者へも惜しみなくご自分の研究方法を伝えられ、調査などにも誘われていました。ついでに私も、箱根神山でのヒメボタルの調査や八丈島での発光キノコの調査に同行させてもらった楽しい経験があります。八丈島の発光キノコのひとつシイノトモシビタケは馬堀自然教育園で数年間毎年発生し続け、その美しく光る姿は展示室で見られるだけでなく、キノコ図鑑にも掲載されています。

横須賀や三浦半島内の自然保全では、ホタルの生態研



4-(4) 博物館フォーラム「三浦半島で広がる水辺のビオトープ」での大場氏(右)と筆者(左)(2004年11月7日)

究の学術的裏付けをもとに、地域の特性を考慮した多様な自然環境の保全を訴えられました。三浦半島内のホテル生息地のほとんどを把握され、地元住民の保護や再生の要望に応える一方、行政との調整にも心を砕かれたことと思います。

1980年代後半には、野比の鏡田(かがみ田)谷戸では、ごみの最終処分場としての埋め立て問題が起き、長沢の杉釜の池では、横須賀リサーチパークの開発問題などが起きました。鏡田谷戸では周辺の医療や介護の施設からの要望も大きく、埋め立てが回避され、杉釜の池周辺は光の丘水辺公園となり今に至っています。水辺公園の整備事業では、開発がやむをえなければ、せめて再びホテルが生息するような環境の再現をとの大場さんの熱い思いが込められ、整備計画の委員として、友の会の助言者として再生事業に大きく貢献されました。海も臨める野比の水田の周辺では、地元農家のご理解とご協力のもと、毎年ホテル観察会が開催され、多くの参加者がありました。水田のヘイケボタル、水路のゲンジボタル、海上の漁火が同時に観賞できる場所は全国的に見てもここだけでは、とよく話されていました。野比でのホテル観察会は横須賀ほたるの会に、水辺公園の再生事業は水辺公園友の会に引き継がれています。このほか、田浦、逸見、岩戸など、地元のホテルを保護し、水辺を保全しようとする市民や市民団体へは、必ず現場を訪れ、各地域の環境に応じた適切な助言をなさいました。

環境保全活動はともすると対立を生みますが、大場さんは、対立や分裂を、忍耐強く上手に回避され、常に実を取る方策を考えていらしたと思います。

博物館と市役所環境関連部局の有志の職員とで組織された水系環境を考える会ではリーダー役を務められ、岩戸川の護岸工事への助言など市内の水系の保全に寄与されるだけでなく、市役所とのパイプも強められ、それまではどちらかという敬遠されていた博物館が環境行政に関われるようになったように思います。岩戸川の生物や水質の24時間調査や、釧路湿原や宮城県東和町などでの水系環境の比較調査は、部局の枠を超えた自主研究グループならではの活動でした。

大場さんが担当された常設展示「三浦半島の昆虫」と「陸の発光生物」では、三浦半島内はもとより、国内外の調査が生かされ、とくに3種のホテルの雌雄の発光交信を光と音で表現した展示は、とてもわかりやすく、

子どもにも大変人気があります。

特別展示では、三浦半島の昆虫相調査で収集した標本や寄贈標本をもとにした「三浦半島の蝶」、「東南アジアの蝶」、自主研究グループの成果などをもとに水辺環境の変遷をまとめた「三浦半島の水辺—身近な生物と私たちの暮らし—」(特別展示解説書4)などが大場さんを中心に企画され、さらに退職される直前には、ライフワークの「ホテル点滅の不思議—地球の奇跡—」(特別展示解説書7)、長年の同志でもある三浦半島昆虫研究会の方々と共同企画による「三浦半島にすむ昆虫からのメッセージ—身近な自然 今昔—」(特別展示解説書8)が立て続けに開催されました。今でもこの3冊の図録によって大場さんの25年にわたる博物館でのお仕事の幅広さ、奥深さをうかがい知ることができます。

大場さんの机の周辺には常に、ホテル関連の模型や置物だけでなく、小さな観葉植物や多肉植物、鉱物なども置かれていました。ご本人の弁では、水遣りなどの心配が少ないからとのことでしたが、ちょっと気に入ったものが目に留まると衝動買いをして、身近に置かれるようでした。いつでもそばに自然を感じながら仕事を楽しまれているように思いました。

博物館学芸員として長い間ご一緒に仕事をする事が出来た幸運を、ホテル研究の第一人者の隣で研究活動ができた幸運を感謝します。

(大森雄治 当博物館元学芸員 [植物学])



4-(4) 特別展示「ホテル点滅の不思議」で
展示解説をする大場氏
(2004年12月11日)

《チラシ》



特別展示「おいでよ! まぼりの森
—馬堀自然教育園の60年とこれから—」



企画展示①「新着資料展 歴史・民俗の逸品」



企画展示②「巡回展『神奈川県植物誌 2018』と
三浦半島の植物たち」



みんなの理科フェスティバル



企画展示③「ヨコスケンセ
—よこすかの歴史を彩る植物たち—」
※令和2年(2020年)度へ開催延期

博物館事業概要

平成31年度・令和元年度（2019年4月～2020年3月）

5 展示教育普及事業

(1) 主催事業①（展示）

ア 特別展示・企画展示

タイトル	展示種別	担当	開催期間	見学者数	備考
おいでよ!まぼりの森-馬堀自然教育園の60年とこれから-	特別展示	自然 菊地	7月27日～ 11月4日[86日間]	16,936人	詳細は本誌 p.3～8.
新着資料展 - 歴史・民俗の逸品-	企画展示	人文	4月27日～ 6月9日[39日間]	7,408人	詳細は本誌 p.9～12.
巡回展『神奈川県植物誌2018』 と三浦半島の植物たち	企画展示	山本	12月7日～2年 2月16日[57日間]	11,375人	詳細は本誌 p.13～19.
ヨコスケンセイよこすかの歴史を 彩る植物たち-	企画展示	山本	2年3月14日～ 次年度へ継続	延期	臨時休館につき次年度へ延期した.

計4件：延開催日数182日，延見学者数35,719人

イ 常設展示

(ア) 展示新設

「樹液に集まる昆虫」パネル設置

自然館2階「森のジオラマ」付近。雑木林などの樹液に集まる昆虫たちをイメージし、特別展示「おいでよ!まぼりの森-馬堀自然教育園の60年とこれから-」において制作・展示した。11月5日移設・完成。(担当：内船)

体験遊具「どんぐりのゆくえ」設置

人文館3階ラウンジ。特別展示「おいでよ!まぼりの森-馬堀自然教育園の60年とこれから-」終了後に移設。11月5日移設・完成。(担当：山本)

(イ) 展示更新

村の暮らしと三浦半島

イワシのレプリカ追加。6月8日。(担当：瀬川)

森のジオラマ

これまで季節展示に限って点灯していた「ホタルLED」について、常時点灯に切り替えた。7月2日。(担当：内船)

ナウマンゾウ下あご化石レプリカ

横須賀製鉄所産ナウマンゾウの右側下あご化石(学習院中・高等科所蔵)のレプリカを作成し、既存の左側下あご化石のレプリカ(原標本は国立科学博物館所蔵)と合わせて展示した。特別展示「おいでよ!まぼ



5-(1)-イ-(ア) 「樹液に集まる昆虫」パネル



5-(1)-イ-(ア) 体験遊具「どんぐりのゆくえ」

りの森－馬堀自然教育園の60年とこれから－」で展示したのち、常設展示「ナウマンゾウ」に移設した。11月5日移設完了。(担当：柴田)

馬堀自然教育園学習棟

馬堀自然教育園。特別展示「おいでよ！まぼりの森－馬堀自然教育園の60年とこれから－」で制作・展示した造作物等を移設した。学習棟入口のインフォメーションコーナーならびに学習棟室内のパネル展示を更新した。12月1日完成。(担当：山本)

昆虫類

自然館1階。経年による退色が著しいウォールケース内下部の生態写真28点を全て更新した。なお、画像は『身近な昆虫365』（特別展示解説書15）掲載のデータを用いた。3月10日完成。(担当：内船)

横須賀ゆかりの人物展示

三木忠直氏の展示パネルに新幹線の模型とともに写る本人の写真を加え、本文も一部修正した。3月29日更新。(担当：菊地)

ウ トピックス展示

(ア) 自然館

タイトル	担当	開催期間	見学者数	備考
新着標本 2019	自然	前年度から継続～ 4月14日[12日間]	2,935人	前年度からの継続展示、内容の詳細は前号に記載。
横須賀産の化石のヒミツ	柴田	4月27日～ 6月30日[54日間]	9,985人	これまでに横須賀市から見つかった化石のうち、学芸員がオススメする化石とそれらのヒミツをご紹介した。展示資料：ナウマンゾウの上腕骨・肩甲骨・左下あご・臼歯（レプリカ）、ヤベオオツノジカの角（実物）、アケビガイ（実物・初公開）、ダイオウキヌタレガイ（実物・パラタイプ）。
昆虫×デザインー見せかたで変わる昆虫の世界ー	内船	7月13日～ 8月25日[38日間]	9,402人	当年度研究員でありデザイナーの松本章氏が制作した昆虫標本作品約60点の展示を通して、身近な昆虫種の標本がもつ可能性をデザインによって広げる試みとした。
タネ屋さんからみた、三浦半島の農業	等々力	9月7日～ 10月20日[36日間]	5,941人	明治以降さまざまな試行錯誤を繰り返しながら発展してきた三浦半島の農業を、種苗業者からの目線で紹介した。
基礎から学ぼう昆虫学成果展	内船	10月26日～ 11月24日[27日間]	6,072人	当年度に開催した「基礎から学ぼう昆虫学」の講師や参加者が制作した標本・レポート・写真を展示した。
干支展示「ネズミ・鼠・子年」	萩原山本	12月7日～2年 1月18日[32日間]	5,666人	令和2年の干支「子」にちなんで、ネズミやネズミにちなんだ名の生物資料として、アカネズミ、ヤチネズミ、ラット、モルモット、ゴールドンハムスター、アムールハリネズミなどの剥製標本のほか、アカネズミの透明骨格標本、カピバラとマーラの映像、ネズミギスとネズミゴチの液浸標本、ネズミムギとネズミノオの押し葉標本、ネズミウミウシの模型などを展示した。
新着標本 2020	自然	2年1月25日～ 3月3日[33日間] ※本来は3月8日まで	6,663人	未公開の自然史標本を厳選して展示・公開した。【展示資料】故・斎藤優二氏寄贈化石標本6件（古生物）；アレチイボクサ、タキミシダ、アコウゲンバイなどの標本（植物）；クスベニヒラタカスミカメ、ネギオオアラメハムシ、鱗粉を欠いたベニシジミなどの標本（昆虫）；故・鈴木宏和氏寄贈鳥類画像及び貝類標本、セグロアジサシ、コシアカツバメ、シロハラなどの標本（鳥類）、クレナイトゲメギス、コガシラエビスなどの標本（魚類）

計7件：延開催日数282日、延見学者数46,664人

※見学者数は当年度のみ計上



5-(1)-イ-(イ) 横須賀製鉄所産ナウマンゾウ
下あご化石のレプリカ



5-(1)-イ-(イ) インフォメーションコーナー
(馬堀自然教育園学習棟入口)



5-(1)-イ-(イ) パネル展示
(馬堀自然教育園学習棟内)



5-(1)-ウ-(ア) 「昆虫類」生態写真



5-(1)-ウ-(ア) 横須賀産の化石のヒミツ



5-(1)-ウ-(ア) 昆虫×デザイン

(イ) 人文館

タイトル	担当	開催期間	見学者数	備考
さよなら平成展	瀬川	前年度から継続～ 5月6日 [31日間]	8,065人	人文館2階渡り廊下。前年度からの継続展示。内容の詳細は前号に記載。
東京湾要塞第二海堡トビックス展	菊地	前年度から継続～ 6月30日 [75日間]	14,947人	3階ホール。国土交通省東京湾口航路事務所の協力により、同所所蔵のジオラマや同所提供のパネルなどを展示した。
改元記念展示	瀬川	4月21日～ 6月9日 [43日間]	8,089人	人文館3階ラウンジにて、平成から令和への改元を記念し、元号関係の資料やハゼの研究者としての上皇陛下を紹介する展示をした。
時代を超える器のかたち—ちよつと似てる?かなり似てる?—	稲村	5月11日～ 7月28日 [65日間]	10,424人	人文館2階渡り廊下。古代以前から近現代までに至る各時代の器の考古資料を展示した。
戦前の写真や冊子	菊地	8月3日～ 12月8日 [109日間]	21,330人	人文館2階渡り廊下。横須賀を記録した戦前の写真や冊子を抜粋して展示紹介した。
横須賀市のなりたち	瀬川 藤井	12月14日～ 2年3月3日 [64日間] ※本来は3月29日まで	12,434人	人文館2階渡り廊下。小学校3年生社会科授業対応。横須賀市のなりたちを、行政や産業分野の資料を中心に展示し説明した。

計6件：延開催日数475日，延見学者数75,289人

※見学者数は当年度のみ計上

エ 季節展示

タイトル	担当	開催期間	見学者数	備考
ホテルのヒカリ	内船	5月11日～ 6月30日 [41日間]	6,480人	前年度に引き続き、自然館2階森林のジオラマのホテルLEDを点灯した。なお、展示終了以降は常設展示化した。5-(1)-イ-(イ)参照
ハロウィン	山本	10月26日～ 11月4日 [10日間]	1,970人	自然館2階入り口および人文館1階受付周辺。地元農家から提供いただいた三浦半島で作られている17品種のカボチャを展示した。カボチャの植物学的な解説の他、横須賀製鉄所とハロウィン行事との関連についての解説パネルを設置した。
お正月	山本 瀬川	12月26日～ 2年1月5日 [4日間]	460人	自然館2階入り口、人文館1階受付周辺。マイワイの解説をつけた折り紙作品とお正月飾りを展示した。

計3件：延開催日数145日，延見学者数8,910人



5-(1)-ウ-(ア) タネ屋さんからみた、三浦半島の農業



5-(1)-ウ-(ア) 基礎から学ぼう昆虫学成果展

(2) 主催事業② (学習会)

ア 博物館教室

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備 考
そだててしらべる! カブトムシ	内船	5月4日・7月13日	講堂	54人	全2回。身近な昆虫であるカブトムシを教材に、飼育体験を通じて昆虫の形や生態について学んだ。1回目に配布したカブトムシの幼虫を飼育し、羽化した成虫を2回目に持参していただいたが、原因不明の病気でほとんど羽化しなかった。また、当館の「カブトムシ移動調査」について理解を深める機会とした。
三浦半島の歴史	菊地 ・人文	5月15日・22日・29日・ 6月5日・12日・19日・ 7月3日	第1・2 学習室, 野外	182人	全7回。歴史の入門編として、三浦半島に人が住み始めた先土器時代から近代までの歴史を、人文部門の学芸員全員が分担して解説した。また、期間中の2回、久里浜地区の古代の遺跡や横須賀中央駅周辺の近代の建物などを現地で見学した。
基礎から学ぼう昆虫学	内船	5月26日・6月9日・7 月14日・8月18日	講座室, 野外	77人	全4回。身近な昆虫観察に必要な知識・技術を習得し、地域の自然環境を継続的にモニタリングする人材の育成を目標に実施した。本館・中央公園のほか、馬堀自然教育園や観音崎公園で実施した。最終回では中央公園でセミの抜け殻調査を実施した。学習成果は本館にて展示した。協力：三浦半島昆虫研究会、県立観音崎公園
子ども海洋教室	萩原	8月10日・9月14日・ 10月12日・11月9日	本館	31人	全4回。海水の密度・比重の実験、プランクトンの観察、魚類標本作り、ウミウシ模型作りなど、体験を通して海洋に関する学習を行った。
三浦半島の民俗	瀬川	10月1日・13日	第1学 習室, 野 外	19人	全2回。各地に伝わる獅子舞を学習した。13日は横須賀市太田和の獅子舞を見学予定だったが荒天のため中止になった。
三浦半島の考古学	稲村	10月9日・16日・23日・ 30日・11月6日・13日・ 20日・27日	第2学 習室, 野 外	285人	全8回。三浦半島には、人が住み始めたときから絶え間なく様々な地域の石材や土器・金属製品などがもたらされており、これらは単に半島内で消費されたものだけではなく、さらに遠方にも運ばれていたと考えられている。なぜ・いつ・どのように・どこからもたらされたのかについて、半島内の遺跡から出土した遺物をおして学習した。
三浦半島の自然誌	自然	11月6日・13日・20日・ 27日・12月4日・11日	講堂	83人	全6回。自然部門学芸員および研究員が、それぞれの担当分野の視点から三浦半島の自然について講義した。
三浦半島の都市建築史	菊地	11月15日・22日・29日・ 12月6日	第1学 習室, 野 外	62人	全4回。横須賀・三浦半島の都市形成過程について、歴史的建造物を通して解説した。
横須賀ジオツアー (地層見学講座)	柴田	2年1月25日・2月8日・ 22日(中止)・3月7日(中 止)・21日(中止)	講堂, 野 外	54人	全5回。三浦半島の地球科学について解説し、横須賀市鷹取山の地層を観察した。第3回から第5回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。協力：三浦半島活断層調査会。
古文書教室	藤井	2年3月12日・19日(い ずれも中止)	第1学 習室	中止	全2回。新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

計10件：延開催日数39日、延参加者数847人



5-(1)-ウ-(ア) 干支展示「ネズミ・鼠・子年」



5-(1)-ウ-(ア) 新着標本 2020



5-(1)-ウ-(イ) 改元記念展示



5-(1)-エ 季節展示「ハロウィン」
(左：人文館，右：自然館)



5-(1)-エ 季節展示「お正月」
(自然館受付)



5-(2)-ア そだててしらべるカブトムシ

イ 自然観察会・野外学習

(ア) 自然観察会

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備 考
海藻入門	萩原	4月21日	天神島臨海自然教育園	20人	天神島臨海自然教育園内に生育する海藻を観察し、53種を確認した。また、海藻押し葉を使ったポストカードやしおり作りの体験を行った。協力：東京海洋大学藻類学研究室、相模湾海藻調査会
馬堀自然教育園周辺の地層	柴田	5月19日	馬堀自然教育園周辺	27人	馬堀自然教育園とその周辺に見られる地層を観察し、三浦半島の生い立ちについて解説した。協力：三浦半島活断層調査会。
ホタルの観察①、②	内船	①6月9日 ②6月16日	馬堀自然教育園	①46人 ②43人	ホテルの生態や自然教育園による環境整備・生物保護活動について解説を行い、ホタルを観察した。①ではゲンジボタル40個体、ヘイケボタル10個体、②ではゲンジボタル20個体、ヘイケボタル5個体が確認された。
ウミウシの観察	萩原	6月16日	天神島臨海自然教育園	35人	当日は時折、小雨が舞う天候であったが、天神島の磯で見られるウミウシの観察を行い、17種のウミウシ類と約30種の磯の生き物を観察した。
潮だまりの生き物	萩原	8月1日	天神島臨海自然教育園	39人	天神島臨海自然教育園の磯で、干潮時にできる海水の水たまり「潮だまり」にくらす、魚類、貝類、甲殻類、ウニ・ヒトデ類などの生き物、約50種を観察した。
夜の昆虫かんさつ①、②	内船 山本	①8月2日 ②8月3日	天神島臨海自然教育園	①35人 ②33人	自然教育園が有する海岸の自然環境と博物館の調査活動とを体験する機会として、夜間昆虫調査をテーマに観察会を実施した。明かりに集まる昆虫や夜の砂浜を徘徊する昆虫等を観察したほか、②ではハマオモトの訪花昆虫調査についても解説を行った。
箱めがねで磯の生き物を観察しよう	萩原	8月15日	天神島臨海自然教育園	中止	台風10号接近による波浪のため中止とした。
観音崎の地層	柴田	10月28日	天神島臨海自然教育園	中止	雨天中止。
しだ・こけ・きのこ!のテラリウム	山本	11月10日	馬堀自然教育園	6人	シダやコケを中心とした植物の解説を行いながら秋の馬堀自然教育園を散策した。散策後は園内で採集したシダやコケを用いてテラリウムを作成した。
おいでよ!まぼりの森-馬堀自然教育園の自然と歴史-	内船 柴田 山本 菊地	11月16日	馬堀自然教育園	9人	特別展示の関連企画として、明治大学平和教育登戸研究所資料館の山田館長・塚本学芸員とともに、園内を歩きながら自然や歴史遺産などについて解説した。
身近な植物のクリスマスかざり	山本	12月8日	馬堀自然教育園	17人	馬堀自然教育園を散策しながら冬に見られる果実や種子を観察した。園内や事前に市内で採集した身近な植物の果実や種子を用いてクリスマスリースなどのクラフト作品を作成した。
冬の野鳥観察	萩原	2年1月18日	長井(富浦公園～轡堰)	中止	雨天中止。
トウキョウサンショウウオの観察	萩原	2年3月15日	馬堀自然教育園	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

計13件：延開催日数11日、延参加者数310人

(夏休み企画登録行事を除くと、計9件：延開催日数9日、延べ参加者数221人)



5-(2)-ア 基礎から学ぼう昆虫学
(観音崎公園)



5-(2)-ア 基礎から学ぼう昆虫学
(セミの抜け殻しらべ結果)



5-(2)-ア 子ども海洋教室



5-(2)-ア 三浦半島の自然誌
(中村研究員)



5-(2)-ア 横須賀ジオツアー (鷹取山)



5-(2)-イ(7) 海藻入門

(イ) 野外学習

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備 考
近代化遺産ツアー 1	菊地	9月27日	浦賀地区	27人	浦賀地区の歴史的建造物を巡りながら都市の変遷について考察を深めた。また、解体が間近に迫った旧浦賀船渠機関工場を見学するとともに、旧浦賀奉行所跡地の発掘調査現場も見学した。奉行所跡では、浦賀船渠が使用していた時代の遺物や遺跡も検出されており、併せて見学した。見学では、住友重機械工業株式会社、横須賀市役所まちなみ景観課、生涯学習課のお世話になった。
ハレの日めぐり	瀬川	11月2日	横浜市金沢区	9人	横浜市金沢区の富岡八幡宮の湯立神蔵「卯陪従（うべえじゅう）」を見学した。
三浦半島の遺跡めぐり 1	稲村	12月13日	三浦市松輪	中止	担当学芸員の逝去により行事を中止した。
近代化遺産ツアー 2	菊地	2年3月6日	船越・浦郷地区	中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
三浦半島の遺跡めぐり 2	稲村	2年3月18日	三浦市三崎町	中止	担当学芸員の逝去により行事を中止した。

計 5 件：延開催日数 2 日，延参加者数 36 人



5-(2)-イ-(ア) 馬堀自然教育園周辺の地層



5-(2)-イ-(ア) ウミウシの観察



5-(2)-イ-(ア) 夜の昆虫かんさつ



5-(2)-イ-(ア) しだ・こけ・きのこ!のテラリウム

ウ 展示解説・ガイドツアー

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備 考
自然館ミュージアムトーク①～④	自然	① 4月20日 ② 5月6日 ③ 11月3日 ④ 12月14日	自然館	40人	自然館の常設展示解説を中心に参加者とのコミュニケーションを図る機会とした。④では理科フェスティバル会場等も案内した。
企画展示解説「新着資料展」	瀬川・人文	4月27日	特別展示室	23人	近年収集した各分野の新着資料を学芸員が分担して解説した。
人文館常設展示解説①、②	①瀬川・人文 ②稲村	① 4月27日 ② 5月5日	①人文館2階 ②人文館1階	① 23人 ② 10人	①では古民家や漁師関係などの民俗資料、ペリー来航や横須賀製鉄所、戦時中の歴史資料など、近世から近代に関する展示資料について解説した。②では土器や石器など考古学に関する展示資料について解説した。
こども博物館たんけん①、②	自然・人文	①、②とも5月2日	本館	① 32人 ② 21人	普段は入ることができない展示室の裏側や、動植物・歴史・民俗などが収蔵された資料室などのバックヤードを担当の学芸員が解説しながら参加者を案内した。
博物館たんけん	自然・瀬川・藤井	7月25日	本館	15人	自然館・人文館それぞれの展示の裏側や資料室などのバックヤードを見学し、資料室に収蔵されているめずらしい資料や歴史的に貴重な資料の閲覧と学芸員の解説を行った。
特別展示解説「おいでよ!まぼりの森」①～③	自然	① 7月28日 ② 8月17日 ③ 10月20日	特別展示室	39人	特別展示の各コーナーの内容について解説した。8月17日には関連するコラボ展示「横須賀にあった極秘機関-陸軍登戸研究所と横須賀」について、明治大学平和教育登戸研究所資料館の塚本百合子学芸員にも解説に参加いただいた。
文化財収蔵庫公開	瀬川・安室	11月4日	文化財収蔵庫	33人	国指定重要有形民俗文化財「三浦半島の漁撈用具」について、漁具・漁法から信仰に至るまで幅広く安室研究員が解説した。
企画展示解説「巡回展『神奈川県植物誌2018』と三浦半島の植物たち」	山本	① 12月7日 ② 2年2月8日	特別展示室	① 9人 ② 48人	『神奈川県植物誌2018』を紹介するとともに、三浦半島の植物やその調査史について紹介した。
天神島ガイドツアー	小長谷	毎月第4日曜(計9日開催)	天神島臨海自然教育園	81人	ビジターセンターの展示や教育園内の自然について、その時々々に体験できる話題を取り上げて解説した。1・2月は荒天により、3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、それぞれ中止。

計9件：延開催日数25日、延参加者数374人



5-(2)-イ-(ア) おいでよ!まぼりの森
-馬堀自然教育園の自然と歴史-



5-(2)-イ-(ア) 身近な植物のクリスマスかざり



5-(2)-イ-(イ) 近代化遺産ツアー 1
(浦賀ドック機関工場遠景)



5-(2)-ウ 企画展示解説「新着資料展」



5-(2)-ウ 人文館常設展示解説
(人文館2階)



5-(2)-ウ こども博物館たんけん



5-(2)-ウ 博物館たんけん
(左：自然部門，右：人文部門)



5-(2)-ウ 特別展示解説「おいでよ！まぼりの森」

エ ワークショップ

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備 考
子ども地球教室	柴田	7月27日	科学教室・講堂	17人	化石、岩石、鉱物の観察、地層のでき方の実験、液状化実験、地震のしくみの解説などを行った。協力：三浦半島活断層調査会。
古代ネックレスをつくろう①～④	稲村	① 8月3日 ② 8月4日 ③ 8月10日 ④ 8月11日	講堂	① 35人 ② 31人 ③ 29人 ④ 12人	滑石を材料に勾玉などをつくり、ビーズとともに革ひもに通して古代のネックレスを完成させた。
自分でつくる！化石レプリカ①、②	柴田	①、②とも8月24日	講堂	① 60人 ② 31人	アンモナイトとサメの歯のレプリカを石こうで作成し、太古の生物や化石資料の保存方法について解説した。

計3件：延開催日数7日，延参加者数215人



5-(2)-ウ 特別展示解説「おいでよ！まぼりの森」
(コラボ展示の解説)



5-(2)-ウ 文化財収蔵庫公開



5-(2)-ウ 天神島ガイドツアー（7月）



5-(2)-エ 子ども地球教室

(3) 主催事業③ (イベント等その他)

ア 博物館講演会

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備考
よこすか歴史物語1「近世・近代の日記を読み解く」	藤井 瀬川	6月9日	講座室	46人	安室研究員が、太田和の浜浅葉家の正月行事を『浜浅葉日記』から読み解き、発表した。
* コラボ講演会「横須賀にあった極秘機関 GPSO -陸軍登戸研究所と横須賀」	内船	11月16日	講座室	118人	特別展示「おいでよ!まぼりの森」の関連企画の一つとして開催。明治大学平和教育登戸研究所資料館の山田 明館長の講演後、同資料館塚本学芸員の進行で山田館長と当館菊地学芸員によるクロストークを行った。

*「コラボ講演会」は特別展示関連事業に位置付けて開催したが、本報では便宜的に本項に記した。

イ 研究発表会

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備考
よこすかの歴史最前線	藤井 ・菊地	11月3日	講座室	9人	詳細は、2-(2)を参照。
みんなの理科フェスティバル	自然	12月14日～17日 [4日間]	文化会館 講堂	1,424人	詳細は、2-(1)を参照。

計2件：延開催日数5日，延参加者数1,433人

ウ 特別公開

(ア) 文化財収蔵庫公開

4月27日～30日，11月1日～4日，文化財収蔵庫。普段は公開していない国指定重要有形民俗文化財「三浦半島の漁撈用具」2,603点を公開した。参加者371人。(担当：瀬川)

(イ) ナイトミュージアム

10月28日，本館。本館内の一部を夜間開館し，特別な展示・装飾・演出とともに学芸員による解説を実施した。近隣の上町商店街連合会などにも協力いただいた。参加者116人。(担当：内船)



5-(2)-エ 自分でつくる!化石レプリカ



5-(3)-ア コラボ講演会「横須賀にあった極秘機関 GPSO -陸軍登戸研究所と横須賀-」
(講演後のクロストーク)

エ クイズラリー・スタンプラリー

行事名	担当	開催日	開催場所	参加者数	備 考
こどもクイズラリー（プレ・キッズウィーク）	菊地 萩原	4月27日～ 5月6日 [10日間]	本館	280人	博物館の展示の中から出題したクイズ10問を出題し、それぞれに回答した参加者に缶バッジなどの記念品を贈呈した。
夏休みクイズラリー	菊地 萩原	7月20日～ 8月25日 [32日間]	本館	889人	博物館の展示の中から出題したクイズ10問を出題し、それぞれに回答した参加者に缶バッジなどの記念品を贈呈した。
こどもクイズラリー（キッズウィーク）	菊地 萩原	10月19日～ 11月11日 [23日間]	本館	377人	博物館の展示の中から出題したクイズ10問を出題し、それぞれに回答した参加者に缶バッジなどの記念品を贈呈した。
特別展示関連企画：スタンプラリー 「横須賀と登戸をつなぐヒミツを解き明かせ！」	内船	12月15日、16日	本館	1,000人	特別展示「おいでよ!まぼりの森」の展示室内にて用紙を配架し、室内に配置したスタンプを集めて学びを深める機会とした。コラボ企画として、同時期に開催した明治大学登戸研究所資料館の展示案内も兼ねた。

計4件：延開催日数67日、延参加者数2,546人



5-(3)-ウ-(イ) ナイトミュージアム



5-(3)-オ 第9回おでかけ博物館
(アースデー)



5-(3)-オ 第10回おでかけ博物館
(横須賀ブックミュージアム)



5-(3)-オ 第11回おでかけ博物館
(ゆかた DE スカブラ)

オ おでかけ博物館

行事名	担当	開催日	開催場所	備考
第9回おでかけ博物館	柴田・瀬川・等々力	4月19日	米海軍横須賀基地	(5) -イ-(ア) を参照.
第10回おでかけ博物館	内船・自然・人文	4月20日	文化会館	(5) -イ-(イ) を参照.
第11回おでかけ博物館	内船・自然・人文	7月27日	横須賀市大滝町	(5) -イ-(エ) を参照.

計3件：延開催日数3日

カ ヴェルニー記念館解説・上映

(ア) スチームハンマー蒸気の実演と解説 (担当：菊地)

国指定重要文化財スチームハンマーのシステムの理解を助けるため、1/10 模型を蒸気で稼働させて解説した。

(イ) オリジナル映像番組を全開館日に上映 (担当：菊地)

キ キャンペーン

対象や開催時期の共通する行事をまとめることにより、事業の効率化や広報効果の向上を図った。

(ア) 国際博物館の日記念行事

※横須賀市のプレ・キッズウィーク (4月27日～5月6日) と同時期に開催

行事名	開催日	参加者数	詳細参照
文化財収蔵庫公開	5月3日～6日 [4日間]	225人	(3) -ウ-(ア)
人文館常設展示解説 (民俗・歴史)	4月27日	23人	(2) -ウ
馬堀自然教育園周辺の地層	5月1日	27人	(2) -イ-(ア)
人文館常設展示解説 (考古)	5月5日	10人	(2) -ウ
自然館ミュージアムトーク	5月6日	13人	(2) -ウ

計5件：延開催日数8日，延参加者数298人

(イ) 横須賀市のプレ・キッズウィーク行事

行事名	開催日	参加者数	詳細参照
こどもクイズラリー	4月27日～5月6日 [10日間]	225人	(3) -エ

計1件：延開催日数10日，延参加者数225人

(ウ) 夏休み企画行事

行事名	開催日	参加者数	詳細参照
夏休みクイズラリー	7月20日～8月25日 [32日間]	889人	(3) -エ
博物館たんけん	7月25日	15人	(2) -ウ
子ども地球教室	7月27日	17人	(2) -エ
潮だまりの生き物	8月1日	24人	(2) -イ-(ア)
夜の昆虫かんさつ①，②	8月2日・3日	68人	(2) -イ-(ア)
古代ネックレスをつくらう①～④	8月3日・4日・10日・11日	107人	(2) -エ
箱めがねで磯の生き物を観察しよう	8月15日	中止	(2) -イ-(ア)
自分でつくる!化石レプリカ①，②	8月24日	91人	(2) -エ

計8件：延開催日数43日，延参加者数1,211人

(エ) 文化ウィーク行事

※横須賀市のキッズウィーク (10月19日～11月11日) と同時期に開催

行事名	開催日	参加者数	詳細参照
文化財収蔵庫公開	11月1日～4日 [4日間]	146人	(3) -ウ-(ア)
ハレの日めぐり	11月2日	9人	(2) -イ-(イ)
ナイトミュージアム	11月2日	116人	(3) -ウ-(イ)
よこすかの歴史最前線	11月3日	9人	(3) -イ
自然館ミュージアムトーク	11月3日	5人	(2) -ウ

計5件：延開催日数8日，延参加者数285人

(オ) 横須賀市のキッズウィーク行事

行事名	開催日	参加者数	詳細参照
こどもクイズラリー	10月19日～11月11日 [22日間]	377人	(3) -エ
特別展示「おいでよ! まぼりの森-馬堀自然教育園の60年とこれから-」	10月19日～11月4日 [16日間]	3,192人	(1) -ア
トピックス展示「基礎から学ぼう昆虫学成果展」	10月26日～11月11日 [16日間]	3,283人	(1) -ウ-(ア)
天神島ガイドツアー	10月27日	1人	(2) -ウ
文化財収蔵庫公開	11月1日～4日 [4日間]	146人	(3) -ウ-(ア)
ナイトミュージアム	11月2日	116人	(3) -ウ-(イ)
自然館ミュージアムトーク	11月3日	5人	(2) -ウ

計7件：延開催日数61日，延参加者数7,120人

(4) 主催事業④ (出版・制作)

ア 館報 66号

PDF データのみの制作・公開を継続しつつ、紙面の大幅な改訂を図った。9月発行。A4版63ページ。無料 (PDF データのみ)。(担当:内船)

ページ	項目		
はじめに		49-50	(2) 研究発表・執筆
博物館事業報告		51	(3) 学術研究団体等協力
3-17	1 特別展示・企画展示	6	分類整理保存事業
17-19	2 研究発表会	53	(1) 資料の寄贈・借用
20-21	3 調査等出張概要	54	(2) 登録資料
博物館事業概要		54-57	(3) 資料の利用
4 展示教育普及事業		58	(4) 資料の保守・保存環境保全
23-27	(1) 主催事業①	7	管理事業
28-33	(2) 主催事業②	60-61	(1) 施設利用
34-36	(3) 主催事業③	62	(2) 入館者統計
36-37	(4) 主催事業④	62	(3) 人事
38	(5) 共催・協力事業	62	(4) 予算
39-40	(6) 学校教育指導・対応	62	(5) 宮繕工事
40-42	(7) 学校教育以外の指導・対応	62	(6) 消防訓練・避難訓練
43-45	(8) 報道発表・取材等協力	63	(7) ホームページ・メールマガジン
5 収集調査研究事業		63	(8) 講習会等の参加
47-48	(1) 調査・研究		職員名簿・表紙写真解説

イ 研究報告 (自然科学) 67号

2年3月24日発行。B5版40ページ。400円。(編集委員:萩原・柴田・内船・山本, 担当:柴田)

ページ	著者	論題
1-8	柴田健一郎・倉持卓司・蟹江康光	横須賀市根岸町に露出した更新統横須賀層大津砂泥部層のエスチュアリー堆積物
9-27	内船俊樹	“身近な昆虫”を軸とした地域昆虫相の比較: 神奈川県三浦半島と福島県会津若松市での調査から
29-32	萩原清司・原田莉緒・石渡陽人・大島雛子・島山葉南・多田かの	三浦半島におけるオニカマス <i>Sphyaena barracuda</i> (スズキ目; カマス科) の出現状況
33-35	藤原大貴・内船俊樹・大澤啓志	三浦半島から採集されたニセモンキマメゲンゴロウ (甲虫目: ゲンゴロウ科)
37-38	新津修平	逗子市神武寺から発見された神奈川県初記録のクロチビミノガ <i>Taleporia nigropterella</i> Saigusa (鱗翅目, ミノガ科)
39	山本 薫・岩波 創	31年振りに発見された三浦半島産タキミシダ

ウ 研究報告 (人文科学) 64号

2年3月25日発行。B5版103ページ。400円。(編集・担当:藤井・瀬川)

ページ	著者	論題
1-28	稲村 繁	神奈川県古墳(X) - 神奈川県古墳地名表(8) -
29-62	千葉 毅・ 鈕持輝久・ 塩原 健	赤星直忠による1947年の横浜市薬王寺貝塚(称名寺E貝塚)発掘調査
63-94	藤井明広	旗本家当主の葬儀と家政改革 - 旗本仁賀保家の動向を中心として -
95-103	谷合伸介	戦国期三浦氏被官に関する一考察 ~ 佐保田豊後守の検討を通じて ~

エ 資料集 44号

2年3月1日発行。B5版65ページ。400円。(担当:菊地)

ページ	著者	論題
1-65	菊地勝広・飯島和歌子	横須賀製鉄所フランス人技術者ルイ・メラン家伝来資料目録

オ 博物館だより (自然教育園だより)

当年度から自然教育園だけでなく博物館全体の事業を紹介するフリーペーパーとして発行した。最近の話題や特別・企画展示の見どころ、学芸員の研究内容などをわかりやすく紹介した。各号4ページ。

無料。(担当:内船)

号	発行日	編集	目次(掲載ページ)
1	12月25日	山本	巻頭特集: 特別展示「おいでよ! まぼりの森 - 馬堀自然教育園の60年とこれから -」(1), 水槽で楽しむ! 馬堀自然教育園〜シダ・コケを中心としたテラリウム(2), 冬が旬, 縄文人もカキが好き!(3), 孫悟空ではありません!(3), 天神島での注意事項 天神島臨海自然教育園(4), 「自然と歴史のツアー」と講演会を開催! 馬堀自然教育園・本館(4)
2	2年2月25日	山本	巻頭特集: 企画展示「巡回展『神奈川県植物誌2018』と三浦半島の植物たち」(1), 博物館のナツミカン(2), 冬の魚「終(このしろ)」(2), 消化弾, その実力は?(3), 横須賀製鉄所の魅力(3), おもしろい漂着物たち 天神島臨海自然教育園(4), 展示を一部リニューアル! 馬堀自然教育園・本館(4)

カ 特別展示解説書 16 『馬堀自然教育園たんけん図鑑』

特別展示「おいでよ! 馬堀自然教育園の60年とこれから」の解説図録として発行した。7月27日発行。A2両面カラー, 三山蛇腹二つ折り(折り畳みA5サイズ)。執筆: 萩原・柴田・内船・山本。50円。(担当:内船)

キ その他

(ア) 缶バッジ

販売や記念品として使用する、博物館オリジナルデザインの缶バッジを制作した。4月制作。直径32mm。12種類（販売用8種類 [各50円]：アオウミウシ、シロウミウシ、ハマオモトとアオスジアゲハ、駆逐艦「萩風」、駆逐艦「不知火」、天神島マスコットキャラ、ゲンジボタル、オオスズメバチ、記念品用5種類：タコツボとタコ、ウミネコ、カブトムシ、特別展示「馬堀自然教育園」、よこすかキッズウィーク。（担当：内船・山本）

(イ) トートバッグ

日常的に使いやすく、宣伝効果の高い博物館オリジナ

ルデザインのトートバッグを制作した。4月制作。厚手キャンバス地。2サイズ4種類（大 [1,500円]：ナウマンゾウ [黒・緑]、小 [1,000円]：博物館 [黒・赤]。（担当：内船・山本）

(ウ) ミニタオル

特別展示「おいでよ！まぼりの森」の開催にあわせ、博物館オリジナルデザインのミニタオルを製作し、カプセル自動販売機カプセルステーションで販売した。7月制作。20cm×20cm。2種類（緑：馬堀自然教育園ロゴ、青：自然博物館ロゴ）。ミニタオル1枚と缶バッジ1個のセットで200円。（担当：柴田）

(5) 共催・協力事業

ア 横須賀市・同市教育委員会等主催

(ア) 横須賀しぜん散歩

5月18日、横須賀市秋谷。横須賀市環境政策部自然環境共生課との共催。前田川中流を歩き、流域の植物や昆虫を観察した。（担当：内船・等々力）

(イ) よこすか子ども発明展

9月14・15日、講堂。横須賀市教育委員会学校教育指導課主催（協力）。市内小学校の発明作品の展示。（担当：内船）

(ウ) 親子しぜん観察会

10月27日、横須賀市湘南国際村・子安。横須賀市環境政策部自然環境共生課との共催。「めぐりの森」から「大タブの木」を歩き、昆虫や植物を観察し、植物を用いたクラフトづくりを行った。（担当：内船・山本）

(エ) 自然環境講演会

12月14日、講座室。横須賀市環境政策部自然環境共生課との共催。「よこすかの植物たち」をテーマに、神奈川県立生命の星・地球博物館の大西 亘氏と神奈川大学の岩崎貴也氏を講師に迎えた。参加者65人。2 - (1) 参照。（担当：山本・内船）

イ 市内団体・機関等

(ア) アースデー（環境フェア）

4月19日、米海軍横須賀基地内NEX赤レンガ広場。米海軍横須賀基地環境課主催（協力）。三浦半島産の動植物、岩石・化石資料、米産化石資料、民俗学資料を米海軍横須賀基地内の特設テントに展示し、基地内の住民等に三浦半島の自然と歴史について紹介した。会場にて第9回おでかけ博物館を実施。（担当：柴田・瀬川・等々力）

(イ) 横須賀ブックミュージアム

4月20日、文化会館。横須賀ブックミュージアム実行委員会主催（協力）。書籍・標本・飲食など本と博物館に関する出店を実施。会場にて第10回おでかけ博物館（菊地・柴田・内船・藤井・等々力）を実施。（担当：内船）

(ウ) 万代テラコヤ・夏

7月20日、横須賀市津久井（万代会館）。万代テラコヤ実行委員会主催（協力）。昆虫などのワークショップを実施（内船・等々力）。（担当：内船）

(エ) 第6回ゆかたDEスカブラ

7月27日、横須賀市大滝町。ヨコスカダウンタウンクラブ主催（協力）。押し葉づくりなどのワークショップを実施（内船・高木・藤井・等々力）。（担当：内船）

(オ) 手づくり顕微鏡による生物観察の楽しさ～みる・観る・観る～

8月25日、神奈川歯科大学。LiCaCLUB主催（横須賀市教育委員会後援）。昆虫の鱗粉や鳥の羽毛の拡大観察に際し、昆虫標本やはく製を出展（内船・萩原）。（担当：内船）

(カ) 万代テラコヤ・秋

10月26日、横須賀市津久井（万代会館）。万代テラコヤ実行委員会主催（協力）。昆虫などのワークショップを実施。（担当：内船）

(キ) ヨコスカECOフェスティバル

11月16日、横須賀市文化会館・中央公園。ヨコスカマナナビ主催（横須賀市教育委員会共催）。環境問題に関する出店・出展・ワークショップに際し、スタンプラリーに協力。（担当：内船）

(ク) 万代テラコヤ・冬

2年1月17日、横須賀市津久井（万代会館）。万代

テラコヤ実行委員会主催（協力）. 植物クラフトを実施.
 (担当: 萩原・山本・瀬川)

ウ 市外団体・機関等

(ア) 中高生のための科学セミナー

7月31日, 講座室. 総合研究大学院大学主催(横須賀市教育委員会共催). 総合研究大学院大学 小松睦美助教による「『はやぶさ』から『はやぶさ2』へ」の講演.
 (担当: 内船・柴田)

(6) 学校教育指導・対応

ア 研究指導

(ア) 高等学校スーパーサイエンスハイスクール (SSH)

年間, 校内・本館ほか. 神奈川県立横須賀高等学校. テーマ・指導担当は下記. (担当: 内船)

○ 1 学年 (プリンキピア I)

テーマ	生徒数	指導担当
意欲的な学習を促す足跡化石の展示解説	5人	柴田
水中写真資料から見た三浦半島の魚類相	5人	萩原
三浦半島の農業のあゆみ	5人	等々力・内船・山本・藤井

○ 2 学年 (プリンキピア II)

テーマ	生徒数	指導担当
アンケートにおける, 統計学を用いた母集団の性質調査	5人	内船・菊地
ハマダンゴムシの生態	5人	内船・山本
サバに寄生するアニサキスの特性	1人	萩原

(イ) 課題研究「天神島の昆虫調査」

5月～8月, 本館・天神島(指導: 内船・小長谷). 鎌倉女子大学初等部4年生1名. (担当: 内船)

(ウ) 立正大学河野村研究会現地調査

9月, 長野県下伊那郡豊丘村(指導: 藤井・瀬川). 立正大学学生7名, 成城大学学生1名. (担当: 藤井)

(エ) 監修及び共著

立正大学高林村研究会編『上野国新田郡高林村文書目録』p1-198(私家版, 2020年2月刊行)(担当: 藤井)

イ 授業・講義

(ア) 小学校1年生活科

11月1日・2年1月22日, 校内. 横須賀市公郷小学校(担当: 山本)

(イ) 小学校1年生活科

2年1月30日, 校内. 横須賀市公郷小学校(担当: 内船・山本)

(ウ) 小学校3年「博物館の仕事」

7月11日, 校内. 横須賀市豊島小学校(担当: 内船)

(エ) 小学校3年社会科「昔の道具とくらし」

(イ) 中高生サイエンスキャリアプログラム

8月7日, 科学教室. 神奈川県立青少年センター主催(協力). 押し花しおりの製作, 化石レプリカづくりなどを行った(柴田・等々力). (担当: 内船)

(ウ) 文化財レスキュー

11月28日・12月19日・2年1月14日・3月13日, 川崎市市民ミュージアム. 神奈川県博物館協会主催(協力). (担当: 瀬川・藤井)

本館. 対象30校の内訳・授業日は下記, 利用資料は7-(3)に別記. (担当: 瀬川)

- 横須賀市立浦賀小学校 9月27日
- 三浦市立岬陽小学校 10月4日
- 横須賀市立野比小学校 10月18日
- 三浦市立三崎小学校 11月14日
- 横須賀市立城北小学校 11月27日
- 横須賀市立浦郷小学校 2年1月15日
- 横須賀市立船越小学校 2年1月16日
- 三浦市立南下浦小学校 2年1月17日
- 横須賀市立走水小学校 2年1月22日
- 横須賀市立公郷小学校・横須賀市立鶴久保小学校
2年1月23日
- 横須賀市立衣笠小学校 2年1月24日
- 横須賀市立大塚台小学校・横須賀市立逸見小学校
・横須賀市立汐入小学校 2年1月28日
- 横須賀市立馬堀小学校 2年1月29日
- 横須賀市立根岸小学校 2年1月31日
- 横須賀市立鴨居小学校・横須賀市立豊島小学校
2年2月4日
- 横須賀市立神明小学校 2年2月5日
- 横須賀市立大矢部小学校・横須賀市立田戸小学校
2年2月6日
- 横須賀市立池上小学校 2年2月7日
- 横須賀市立久里浜小学校 2年2月12日
- 横須賀市立小原台小学校 2年2月18日
- 横須賀市立野比東小学校 2年2月19日
- 横須賀市立高坂小学校 2年2月20日
- 横須賀市立沢山小学校・横須賀市立長浦小学校
2年2月21日
- 横須賀市立諏訪小学校 2年2月26日
- (オ) 小学校4年総合的な学習
12月20日・2年1月31日, 本館. 横須賀市立豊島小学校. (担当: 瀬川)

(カ) 小学校6年「土地のつくりと変化」

「野比海岸の地層」. 9月3日・10月1日, 校内・野比海岸. 横須賀市立野比小学校 (担当: 柴田)

「鷹取山の地層」. 12月18日, 鷹取山. 横須賀市立鷹取小学校 (担当: 柴田)

「横須賀市三春町の地層」. 12月19日, 横須賀市三春町 (雨天中止). 横須賀市立大津小学校 (担当: 柴田)

(キ) 小学校6年社会科「大昔の暮らし」

本館. 対象2校の内訳・授業日は下記, 利用資料は7-(3)に別記. (担当: 稲村)

横須賀市立大矢部小学校 4月19日

横須賀市立沢山小学校 5月28日

(ク) 中学校1年総合的な学習「三浦半島の自然」

5月17日, 校内. 横須賀市立久里浜中学校 (担当: 萩原)

(ケ) 高等学校SSHプリンキピアI講演会講師

4月25日, はまゆう会館. 「横須賀市自然・人文博物館」の講演. 神奈川県立横須賀高等学校 (担当: 内船)

(コ) 高等学校課外授業講師

11月8日, 校内. 「横須賀市自然・人文博物館と昆虫の研究について」の講演. 神奈川県立追浜高等学校 (担当: 内船)

(サ) 大学非常勤講師

「博物館資料保存論」. 4月～7月, 神奈川大学・本館・天神島臨海自然教育園. 神奈川大学 (担当: 柴田)

「博物館教育論」. 9月～2年1月, 神奈川大学・平塚市青少年会館・茅ヶ崎市文化資料館. 神奈川大学 (担当: 内船)

「博物館実習I」. 5月～6月, 信州大学旭キャンパス. 信州大学 (担当: 内船)

ウ 見学・相談・質問対応

(ア) 見学

横浜薬科大学, 4月12日, 本館 (担当: 柴田)

横須賀市立馬堀小学校3年生, 5月9日, 馬堀自然教育園 (担当: 萩原)

田園調布学園雙葉小学校, 5月30日, 本館 (担当: 柴田)

横須賀市養護学校, 6月5日, 本館 (担当: 瀬川)

神奈川県立生田高校, 6月16日, 天神島臨海自然教育園 (担当: 萩原)

横須賀学院サマースクール, 8月8日, 本館 (担当: 内船)

横須賀市立豊島小3年, 8月10日, 本館 (担当: 内船)

武蔵高校, 9月4日, 本館 (担当: 柴田)

法政大学文学部史学科, 10月6日, 本館 (担当: 稲村)

横須賀市立田戸小学校, 10月18日, 本館 (担当: 山本)

神奈川大学学芸員課程, 11月4日, 本館 (担当: 瀬川)

神奈川県立追浜高等学校科学部, 11月8日, 本館 (担当: 内船)

帝京平成大学, 11月16日, 本館・馬堀自然教育園 (担当: 柴田)

YBSエレメンタリー, 12月6日, 馬堀自然教育園 (担当: 内船)

法政大学, 12月8日, 本館 (担当: 柴田)

かぐのみ幼稚園, 2年1月16日・2月26日, 本館 (担当: 内船)

横須賀市立汐入小学校3年生, 2年1月29日, 本館 (担当: 萩原)

創価高校, 2年2月15日, 本館 (担当: 柴田)

(イ) 相談

市内小学生, 8月25日, 本館 (担当: 萩原)

小学5年生, 8月30日, 本館 (担当: 菊地)

総合研究大学院大学院生2名, 11月10日, 本館 (担当: 内船)

(ウ) 質問

東京工芸大学学生1名, 6月16日, 電話 (担当: 内船)

エ 職場体験等指導

(ア) 中学校職場体験

11月6日～11月8日, 本館・天神島臨海自然教育園・馬堀自然教育園. 横須賀市立大矢部中学校2年, 2人 (担当: 金満)

11月13日～11月14日, 本館. 横須賀市立浦賀中学校2年, 1人 (担当: 金満)

オ 博物館実習

8月20日～30日 (10日間), 11人. 本館・馬堀自然教育園・天神島臨海自然教育園・ヴェルニー記念館. 実習生所属大学等: 専修大学・鶴見大学・東海大学・神奈川大学・桜美林大学・日本大学・東京海洋大学・目白大学・日本獣医生命科学大学・立正大学・北里大学. (指導: 菊地・萩原・柴田・内船・瀬川・藤井・稲村・等々力) (担当: 内船)

(7) 学校教育以外の指導・対応**ア 委員等**

- (ア) 委員. 近代歴史遺産活用事業推進協議会. 横須賀市文化振興課, 年間 (担当: 高木・菊地)
- (イ) 専門委員. 横浜市ミヤコタナゴ保護育成検討会. 横浜市教育委員会, 年間 (担当: 萩原)
- (ウ) 委員. 環境教育・環境学習ネットワーク会議. 横須賀市環境政策部, 年間 (担当: 内船)
- (エ) 委員. 小網代の森保全活用対策協議会. 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課, 年間 (担当: 山本)
- (オ) 委員. 神奈川県レッドリスト選定・評価委員会 植物・菌類部会. 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課, 年間 (担当: 山本)
- (カ) 委員. 第68回全国博物館大会プロジェクト. 神奈川県博物館協会, 2年1月4日～3月31日 (担当: 瀬川)
- (キ) 役員. 神奈川県植物誌調査会. 神奈川県植物誌調査会, 年間 (担当: 山本)
- (ク) 機能研究部会会長・協会報編集委員長. 神奈川県博物館協会. 神奈川県博物館協会, 年間 (担当: 瀬川)
- (ケ) 顧問. 逗子市池子の森運営会議. 逗子市緑政課, 年間 (担当: 内船)

イ 指導・講師**(ア) 指導**

三浦半島昆虫研究会, 年間 (担当: 内船)

(イ) 講師

- 「神奈川の考古学について」. 好古会主催, 4月12日・6月14日・7月12日・8月2日, 本館. (担当: 稲村)
- 「カイコの飼育について」(理科基礎技術研修講座). 横須賀市教育研究所主催, 5月15日, 教育研究所 (担当: 内船)
- 「三浦半島トラスト緑地を海から巡る～トラスト緑地周遊クルーズ2019～」. かながわトラストみどり財団主催, 5月17日, 油壺～逗子. (担当: 柴田)
- 神奈川県青少年センター自然観察会, 5月18日, 天神島臨海自然教育園 (講師: 萩原)
- 「ジオ散歩～城ヶ島での地層巡検の旅～」. 地盤工学会 関東支部主催, 5月18日, 城ヶ島. (担当: 柴田)
- 東京理科大OB会展示見学・歴史講座, 5月18日, 第一学習室ほか (担当: 菊地)
- よこすかシティガイド協会, 5月22日, 本館 (担当: 瀬川・藤井)
- 横須賀市生涯学習センター市民大学, 5月22日, 5月29日, 6月5日, 6月12日, 6月19日, 9月4日, 9月11日, 9月18日, 生涯学習センター,

- 観音崎, 天神島臨海自然教育園 (講師: 萩原)
- 「ホタルの観察会」. 横須賀市立学校理科研究会主催, 6月5日, 横須賀市太田和. (担当: 内船)
- 「横須賀市自然・人文博物館の見学と活動について」. 社会教育かながわネットワーク主催, 6月29日, 本館.
- 日本自然保護協会磯の自然観察会, 7月20日, 天神島臨海自然教育園 (講師: 萩原)
- 河川傾斜地課前田川リバーウォッチング, 7月27日, 前田川 (雨天中止) (講師: 萩原)
- 「馬堀自然教育園の自然」. 横須賀市環境政策部環境企画課主催, 7月30日, 馬堀自然教育園. (担当: 内船・柴田・等々力)
- 「東京湾の磯の生き物」(理科基礎技術研修講座). 横須賀市教育研究所主催, 7月31日, 走水小学校 (担当: 萩原)
- 「しょうぶ園で探そう夏の虫」. 衣笠コミュニティセンター主催, 8月1日, 横須賀しょうぶ園 (担当: 内船)
- ずしし環境会議田越川自然観察会, 8月18日, 田越川 (講師: 萩原)
- 「池子の森自然公園 昆虫観察会」. 逗子市環境都市部緑政課主催, 8月21日, 逗子市池子の森自然公園 (担当: 内船)
- 「講演会近代建築史から陸軍登戸研究所を読み解く」(横須賀市自然・人文博物館付属馬堀自然教育園開園60周年・登戸研究所資料館開館10周年記念コラボ講演会) 明治大学平和教育登戸研究所資料館主催, 10月19日, 明治大学生田キャンパス (担当: 菊地)
- 「理科基礎技術研修講座 自然観察会～観音崎の地層～」. 横須賀市教育研究所主催, 11月6日, 観音崎. (担当: 柴田)
- ものがたり文化の会『祭の晩』勉強会, 11月10日, ハイランド5丁目自治会館 (担当: 瀬川)
- 「中央公園の植物観察」(理科基礎技術研修講座). 横須賀市教育研究所主催, 11月13日, 中央公園. (担当: 山本)
- 横須賀市域水質保全協議会前田川調査, 11月20日, 前田川 (指導: 萩原)
- おっぱまはっけん倶楽部勉強会, 11月21日, 追浜コミセン. (担当: 山本)
- 「昆虫発生学について知っていただきたいいくつかのお話(その1)」(2月例会講演). 三浦半島昆虫研究会主催, 2年2月9日, 本館. (担当: 内船)

神奈川県退職公務員連盟横須賀支部研修（講演）会、
2年2月15日、本館（担当：藤井）
「三浦半島まるごと博物館について」（かながわエコ
ミュージアムフォーラム2020）. ちがさき丸ごとふ
るさと発見博物館主催、2年2月16日、茅ヶ崎市
役所。（担当：内船）
「坂本の谷戸から横須賀を学ぶ講座」. 横須賀市教育総
務部生涯学習課主催、2年2月18日、本館講座室.
（担当：柴田）
「昆虫から見た自然、そして博物館」（鎌倉森と昆虫に
ついて）. 一般社団法人地球の楽校主催、2年2月
23日（中止）、鎌倉市。（担当：内船）

ウ) 協力

好古会、年間、本館（担当：稲村）
小学館『小学館の図鑑 NEO 24 昆虫 2 監修協力・写真
提供、4～6月、本館（担当：内船）

ウ 見学等対応

ア) 見学

国際交流課フランス派遣職員・新採職員、6月5日、
ヴェルニー記念館（担当：菊地）
横須賀市都市魅力創造発信委員会バスツアー、6月8
日・11月23日、天神島臨海自然教育園（担当：萩原）
ワンダラーズ79、6月9日、馬堀自然教育園。（担当：
柴田）

(8) 報道発表・取材等協力

ア 報道発表

日付	表題（発信元）【事業担当者】	担当
6月7日	博物館の夏休み企画～体験!楽しく学ぶ夏休み～（横須賀市自然・人文博物館）【瀬川】	久保田
10月9日	博物館文化ウィーク～横須賀をもっと知る・観る・感じる秋～（横須賀市自然・人文博物館）【瀬川】	久保田
10月31日	横須賀にあった“極秘機関”～講演会「横須賀にあった極秘機関－陸軍登戸研究所と横須賀」の開催～（横須賀市自然・人文博物館）【内船】	内船・久保田
2年3月26日	ゲンゴロウ一種の新産地を発見～横須賀市民発見のニセモンキマメゲンゴロウ、分布域解明に期待～（横須賀市自然・人文博物館）【内船】	内船・久保田

イ 取材対応

対応内容もしくは番組・記事表題（放映・掲載日）	メディア	取材等対応日	担当
「そだててしらべる!カブトムシ」の内容説明・画像掲載（4月11日）	神奈川新聞	4月10日	内船
「猫のひたいほどワイド」. 横須賀市内で咲いた竹の花について質問対応・収録対応（5月7日）	テレビ神奈川	4月19日・20日	等々力
横須賀版. 新着資料展の東京駅写真原本展示の説明と写真掲載	タウンニュース	4月24日	菊地
「デイリーニュース」. 「こども博物館たんけん」の取材対応（5月3日）	J:COM	5月2日	萩原
「ちょっと街角：博物館にはオオスズメバチ」. オオスズメバチ頭部大型模型について取材対応（7月7日号）	創年日日タイムズ	5月3日	内船
「デイリーニュース（横須賀／三浦／葉山）」. 「そだててしらべる!カブトムシ」開催の様子の撮影対応と内容について取材対応（5月6日）	J:COM	5月4日	内船
釣り情報のコーナー. 雨と魚の関係について取材対応（6月号）	ボート倶楽部	5月11日	萩原
「おしえて学芸員さん!」. 取材対応（6月14日号）	はまかせ新聞	5月22日	内船

横須賀市姉妹都市交換留学生、8月2日（担当：菊地）
横須賀古地図くらぶ、8月20日、本館。（担当：柴田）
市文化財審議委員会、9月11日、本館（担当：藤井）
衣笠コミュニティセンター主催、生涯現役講座「さわ
やか教室」、10月8日、本館特別展示室。（担当：萩原・
柴田）
大井防火防災協会、10月23日（担当：萩原）
馬堀海岸3丁目自治会、11月10日、本館。（担当：内船）
横浜YMCA、天神島臨海自然教育園、2年1月12日（担
当：萩原）
米国国務省職員日本語研修所関係者一行、2年2月
18日、本館（担当：藤井・菊地）

エ 職場体験等指導

ア) 教職5年経験者社会体験研修

神奈川県立追浜高校国語科1名、7月25日・27日、
本館ほか。（指導：自然・人文・運営、担当：内船）
神奈川県立三浦初声高校理科1名、8月23日・24日、
本館。（指導：自然・人文・運営、担当：内船）

オ 質問・相談対応件数

窓口・電話・メールなどの問合せへの対応件数とし
て、5月から集計を開始した。菊地3件、萩原26件、
柴田16件、内船57件、山本4件、瀬川1件、藤井
21件(5月から2年3月まで。取材等協力は次項参照)

西行政センターから発見された肖像写真に関する取材と写真掲載	神奈川新聞	5月31日	菊地
「東京湾 生物の不思議・最前線」. 東京湾の環境変化について取材対応(10月発行)	つり人社	6月5日	萩原
「磯遊び」特集. 天神島の取材対応(8月号)	横浜ウォーカー	6月18日・21日	萩原
開花したリュウゼツランについての取材対応	神奈川新聞	7月17日	等々力
「おしえて学芸員さん!」. 取材対応(6月14日号)	はまかせ新聞	7月17日	瀬川
特別展示の昆虫を含む標本資料点数および馬堀自然教育園の開園(開設)年月など取材対応	神奈川新聞	8月7日	内船
放送において信濃が造られた6号ドッグ図面および学芸員の撮影対応	福島中央テレビ	8月10日	菊地
小栗や横須賀製鉄所資料および担当学芸員の撮影対応	NHK BS	8月16日	菊地
「YOKOSUKA ほっとナビ」. 馬堀自然教育園の紹介と馬堀60周年記念イベント(特別展・見学ツアー)の告知などの取材(9月1日)	J:COM	8月22日	萩原
「おしえて学芸員さん!」. 取材対応	はまかせ新聞	8月31日	萩原
「めざましテレビ」. ハチ類に関するニュースについてコメント収録(9月17日)	フジテレビ	9月16日	内船
博物館のロケへの対応(12月7日)	TVK	9月25日・10月8日	萩原
ナイトミュージアムの当日撮影対応(11月7日)	J:COM	10月25日・11月2日	内船
11月16日の講演会について取材	読売新聞	10月31日	内船
浦賀ドック調査に関する取材対応(11月17日)	東京新聞	11月15日	菊地
温暖化で分布域を拡げる身近な昆虫について取材対応	東京新聞	12月12日・12月19日・12月26日	内船
「YOKOSUKA ほっとナビ」. 企画展の取材対応	J:COM	12月17日	山本
ヴェルニー記念館でのインタビュー対応	J:COM	2年1月9日	菊地
「猫ひたインフォ」. 企画展の取材対応	TVK	2年1月20日	山本
「ブラタモリ」. 葉山の地質について取材	NHK	2年1月24日・31日・2月19日・26日・3月4日・11日・16日・18日	柴田
逗子で発生したけがけ崩れのがけの地質について取材	読売新聞	2年2月5日	柴田
「HondaKids」. ホタルに関する特集記事について取材対応	Honda	2年2月12日・14日	内船
トピックス展示の取材対応	神奈川新聞	2年2月20日	瀬川
「さわやか自然百景」. 城ヶ島の自然について取材	NHK	2年2月26日・3月3日・4日	内船・山本・萩原・柴田
タケの花の開花について取材(3月25日)	神奈川新聞	2年3月24日	山本
昆虫の特集記事の一つとして、カブトムシの育て方について取材	神奈川新聞	2年3月24日	内船

ウ 質問・鑑定等対応

対応内容もしくは番組・記事表題(放映・掲載日)	メディア	取材等対応日	担当
天皇陛下退位に関してハゼ類について質問対応・画像掲載(4月21日)	読売新聞	4月2日	萩原
「Nスタ」. 東京駅写真の放映	TBS	4月5日	菊地
三浦按針像の画像放映(4月3日)	テレビ朝日	4月5日	菊地
「林修のニッポンドリーム」. 黒船の画像放映	フジテレビ	4月14日	菊地
「ニッポンの里山」. 鹿児島県徳之島の昆虫等の同定(5月12日)	NHK BS プレミアム	4月14日	内船
「歴史人」. 横須賀港一覧絵図の掲載	KK ベストセラーズ	4月16日	菊地
「横須賀のヴェルニー」. ヴェルニー記念館の取材対応	目で聴くテレビ	4月16日	菊地
当館所蔵資料の展示利用(VRコンテンツ)	横須賀市文化振興課	4月16日	菊地
横須賀市内のお宅で咲いた竹の花について質問対応(4月18日)	神奈川新聞	4月16日	等々力
「めざましテレビ」. 横須賀市内で咲いた竹の花について質問対応(4月19日)	フジテレビ	4月18日	等々力
「Live News It!」. 横須賀市内で咲いた竹の花について質問対応(4月18日)	フジテレビ	4月18日	等々力
「News Every」. 横須賀市内で咲いた竹の花について質問対応(4月18日)	日本テレビ	4月18日	等々力
天神島臨海自然教育園のおすすめのポイントについて紹介	スタリス横浜	4月18日	萩原
天神島ガイドツアーの画像掲載(5月号)	うわまっち	4月23日	萩原
「さわやか自然百景」. 静岡県愛鷹山の昆虫1点の同定(5月19日)	NHK	4月25日	内船
「ニッポン!歴史鑑定」. ペリー関係資料の画像放映(6月3日)	BS-TBS	4月30日	菊地・藤井
シジュウカラの生態に関する質問	神奈川新聞	5月2日	萩原
「ワイルドライフ」. パラオ共和国の海洋生物の同定および魚類の繁殖行動に関する取材対応(6月10日)	NHK BS プレミアム	5月4日	萩原
「すイエんサー」. カエルアンコウの同定(6月18日)	NHK E テレ	5月8日	萩原
「シャキーン」. 昆虫類の同定	NHK E テレ	5月23日	内船
展示への当館所蔵資料のデータ提供(咸臨丸フェスティバル)	横須賀市市街地整備景観課	5月24日	菊地
「くろいむクイズ ミラクル9」. ペリー肖像画の放映(6月5日)	テレビ朝日	5月28日	菊地
「ニッポンの里山」. 京都府綾部市の淡水魚1種の同定	NHK BS プレミアム	6月2日	萩原
ペリー上陸図の画像掲載	はまかせ新聞	6月5日	菊地
近年の活動について記事執筆の参考としての取材対応	神奈川新聞	6月5日	内船
「ニッポンの里山」. 熊本県産山村の昆虫1種の同定(6月30日)	NHK BS プレミアム	6月12日	内船

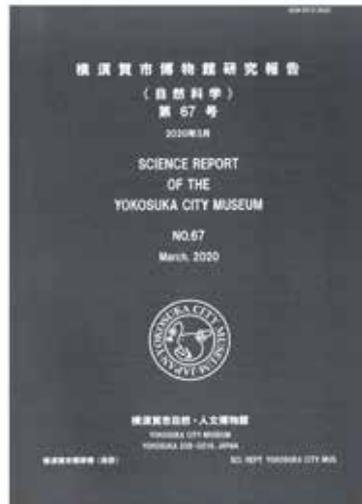
「三浦半島の文化」. 資料画像掲載. (10月刊行)	個人	6月15日	藤井
「じよんのび日本遺産」. ヴェルニー記念館の取材対応 (6月30日)	TBS	6月17日	菊地
「MIULIKE」. 本館と天神島の紹介文と画像の掲載 (7月25日号)	京浜急行電鉄	6月18日	萩原
「ダーウィンが来た」. 潮溜まりの生き物の同定	NHK	6月21日	萩原
「ニッポンの里山」. 茨城県水戸市の水生生物5種の同定 (8月11日)	NHK BS プレミアム	7月3日	内船
「さわやか自然百景」. 岐阜県・白川郷で扱う昆虫1種の同定	NHK	7月9日	内船
天神島のハマオモトの撮影許可対応	NHK	7月20日	萩原
天神島のハマオモトの撮影取材対応 (7月27日)	神奈川新聞	7月25日	喜多村
天神島のハマオモトの撮影取材対応. (7月26日号)	東京新聞	7月25日	喜多村
「ウィリアム・アダムス像」の写真再掲	小学館	7月26日	菊地
日比谷公園のアオノリュウゼツランに関する質問対応	日本テレビ	7月27日	等々力
「ニッポンの里山」. 島根県雲南市の水田の魚類の同定	NHK BS プレミアム	7月27日	萩原
「とくダネ」. 放送の海外のバツタ大量発生について取材対応	フジテレビ	7月28日	内船
天神島のハマオモトの撮影取材対応 (8月2日号)	タウンニュース	7月30日	小長谷
「ニッポンの里山」. 石川県輪島市の水田周辺の昆虫等5種の同定	NHK BS プレミアム	8月2日	内船
「ニッポンの里山」. 石川県輪島市の水田周辺の昆虫等追加5種の同定	NHK BS プレミアム	8月6日	内船
「さわやか自然百景」. 中国山地奥津溪のカマツカとカワヨシノボリの生態についての質問と餌生物の同定の対応	NHK	8月7日	萩原
「さわやか自然百景」. カマツカの外敵と想定される生物やカワヨシノボリの婚姻色についての質問対応	NHK	8月9日	萩原
「くりむクイズ ミラクル9」. ペリー上陸図の放映 (8月21日)	テレビ朝日	8月16日	菊地
ペリー画像の「鳥取青年会議所60周年記念式典」での投影 (9月22日) およびHPへの掲載	若狭屋プロモーション	8月18日・9月11日	藤井
「ニッポンの里山」. 高知県四万十川の魚を捕食する鳥類2種の同定	NHK BS プレミアム	8月20日	萩原
「英雄たちの選択」. 当館所蔵史料 (森田家文書5点) の閲覧・撮影対応 (9月25日)	NHK BS プレミアム	8月22日	藤井
刊行予定の歴史小説にビッドルの画像を提供	南々社	8月24日	藤井
9月22日の天神島ガイドツアーについて取材対応	うわまっち	8月27日	萩原
「柳井地域の明治維新史」. ペリー他4点の画像掲載対応	山口県柳井市	8月27日	藤井
「ニッポンの里山」. 岩手・安比高原の昆虫3種を同定	NHK BS プレミアム	8月27日	内船
蒸気機関車の画像の再掲載対応	株式会社文溪堂	8月29日	藤井
横須賀製鉄所写真の掲載対応	広報よこすか	8月30日	菊地
ラベルへのヴェルニー肖像の使用対応	ヴェルニーワイン	9月3日	菊地
「元水兵の航跡」(仮題)について戦前の横須賀港などの資料掲載対応	仙台市生涯学習課	9月4日	菊地
版画展のチラシへのペリー上陸図他数点の画像を使用対応	横須賀美術館	9月6日	藤井
「ニッポン百名山」. 高山植物の種同定およびハイマツ南限に対する質問対応	NHK	9月11日	等々力
ペリー関係の画像3点の提供と掲載許可の対応	横須賀市文化スポーツ観光部	9月16日	藤井
ナイトミュージアムについて画像と開催情報の対応	タウンニュース	9月16日	内船
「シャキーン」. ハサミムシ・シリキレグモについて解説文確認と画像提供対応	NHK E テレ	9月19日	内船
「ニッポン縦断こころ旅 福井県高浜町」. チョウの同定	NHK BS プレミアム	9月19日	内船
「さわやか自然百景 仙丈ヶ岳」. チョウなど昆虫11点の同定 (10月13日)	NHK	9月27日	内船
「日本遺産WEEK」. パネル展・写真展に展示する「スチームハンマー」の写真提供	文化スポーツ観光部観光課	10月2日	菊地
「シャキーン!」. 解説ナレーション確認とハサミムシ類画像提供	NHK E テレ	10月4日	内船
「ニッポン縦断こころ旅 福井県高浜町」. カメムシ類1種の同定 (10月31日)	NHK BS プレミアム	10月6日	内船
「ニッポンの里山」. 栃木県足利市の昆虫類3種の同定	NHK BS プレミアム	10月6日	内船
「ナイトミュージアム」の記事掲載に関して内容確認対応	神奈川新聞	10月9日	内船
「ワイルドライフ」. 福岡県沖ノ島周辺で撮影された魚類の生態について取材対応	NHK	10月10日	萩原
「さわやか自然百景」. 山陰地方のセミ類の同定	NHK	10月14日	内船
「映画ドラえもん のび太の新恐竜 発掘ブック」. 当館所蔵資料の写真の掲載対応	小学館の学習ムック	10月17日	柴田
横須賀製鉄所写真の掲載利用	AMBC マネジメント+	10月17日	菊地
「ニッポンの里山」. 秋田県にかほ市の淡水魚類の同定	NHK BS プレミアム	10月18日	萩原
「ニッポンの里山」. 秋田県にかほ市の水田等の昆虫等生物5種の同定	NHK BS プレミアム	10月19日	内船
三浦按針について質問対応	東京新聞	10月24日	藤井
「アド街ック天国」. 当館所蔵資料の放映	テレビ東京	10月29日	菊地
「ワイルドライフ」. 福岡県沖ノ島周辺で撮影された魚類の同定	NHK BS プレミアム	10月29日	萩原
「世界ふしぎ発見!」. フランスでの現地調査に関する助言	TBS	10月30日	菊地
「狂歌コンクール作品集」. 当館所蔵ペリー久里浜上陸図の掲載利用	鯖江市教育委員会文化課	10月30日	菊地
「さわやか自然百景」. 岐阜県御嶽山の魚類の同定	NHK	10月31日	萩原
「さわやか自然百景」. 岐阜県下呂市小坂町巖立峡の水生昆虫3種の画像同定 (11月10日)	NHK	10月31日	内船
「ニッポン縦断こころ旅」. 山口県長門市のチョウ1種の同定	NHK BS	10月31日	内船
11月16日の講演会について取材	建設経済新聞社	10月31日	内船
「ワイルドライフ」. 福岡県沖ノ島周辺の魚類の同定 (11月11日)	NHK BS プレミアム	11月3日	萩原
「この家住めば都ですか?」. 市内鷹取川の魚類の同定 (11月24日)	フジテレビ	11月6日	萩原
指導している高校生の調査活動について質問	タウンニュース	11月11日	内船

「横須賀中央歴史ページ」. 取材と肖像撮影と館蔵資料提供	横浜ウォーカー	11月13日	菊地
「ニッポンの里山」. 福島県産メダカ類のメール添付画像で同定依頼	NHK BS プレミアム	11月19日	萩原
ウミウシの雌雄同体性について質問	NHK	11月20日	萩原
浦賀ドック調査に関する取材対応 (11月17日)	神奈川新聞	11月21日	菊地
当館所蔵資料の利用 (12月)	YOU テレビ	11月21日	菊地
「さわやか自然百景」. 鹿児島始良市の森の昆虫2種の同定	NHK	11月29日	内船
「サンデーモーニング」. 城ヶ島のウミウの撮影場所について相談	TBS	12月6日	萩原
「東大王」. カニ類5種の同定	TBS	12月6日	萩原
道徳の教科書にウィリアムアダムス像の写真提供	光文書院	12月10日	藤井
企画展について取材対応	神奈川新聞	12月10日	内船
「ダーウィンが来た!」. カナダ・ファンディ湖の魚類・鳥類の生態について質問	NHK	12月12日	萩原
高等学校教科書への当館所蔵資料の掲載	山川出版社	12月12日	菊地
歴史書籍への当館研究報告の転載依頼	戎光祥出版	12月13日	菊地
ペリー久里浜上陸図画像の貸出	浦賀行政センター	12月13日	藤井
ペリーの画像の問い合わせ	産業遺産国民会議	12月13日	藤井
「噂の東京マガジン」. 東京駅写真の提供	テレビ東京	12月19日	菊地
「やさしく解説 浦賀奉行所 (仮)」. 当館所蔵資料の画像データの掲載	横須賀市文化スポーツ観光部企画課	12月24日	菊地
「保命酒」のラベル. ペリー肖像写真の掲載利用	横須賀市文化スポーツ観光部観光課	12月25日	菊地
保命酒の紹介の際に放映するペリーの画像を提供	NHK	2年1月4日	藤井
「ニッポンの里山」. 東京都世田谷区のヒキガエル類の同定	NHK BS プレミアム	2年1月8日	萩原
会社広報誌へのスチームハンマー画像の掲載	企業	2年1月10日	菊地
「千葉テレビ放送オリタラドコ旅」. ヴェルニー記念館撮影対応	千葉テレビ	2年1月10日	菊地
書籍への三浦按針の掲載対応	(株) ダン	2年1月15日	藤井
「ニッポンの里山」. 福岡県福津市沖の魚類3種の同定	NHK BS プレミアム	2年1月17日	萩原
大津四丁目の大絵図について	横須賀市道路管理課	2年1月21日	藤井
「ミミクリーズ」. 千葉県鋸南町のヒラメの同定	NHK E テレ	2年1月23日	萩原
「ニッポンの里山」. 福島県および奈良県で撮影された昆虫類5種の同定	NHK BS プレミアム	2年1月25日	内船
「さわやか自然百景」. 熊本県八代海のエビ類の同定	NHK	2年1月28日	萩原
展示パネルに使用するため当館所蔵資料の提供	富岡製糸場	2年1月30日	菊地
さわやか自然百景「奈良 平城宮跡」. 昆虫5種ほか動物の同定	NHK	2年2月8日	内船
さわやか自然百景「奈良 平城宮跡」. 昆虫2種の解説について確認	NHK	2年2月12日	内船
「ニッポンの里山 宮崎県串間市」. 動物2種の同定	NHK BS プレミアム	2年2月15日	内船
高等学校教科書. 当館所蔵資料の画像データの掲載利用	山川出版社	2年2月18日	菊地
琴ひく埴輪の画像提供依頼	株式会社えすと	2年2月20日	藤井
「さわやか自然百景」. 福島県猪苗代湖の魚類の同定	NHK	2年2月20日	萩原
「ワイルドライフ」. インド洋セーシェル諸島の魚類同定	NHK BS プレミアム	2年2月23日	萩原
蓼原古墳出土埴輪の画像の提供と掲載	進研ゼミ中1チャレンジ	2年3月14日	菊地
「うらが往来新聞 24号」. スチームハンマー画像の提供 (3月26日)	神奈川新聞	2年3月18日	菊地

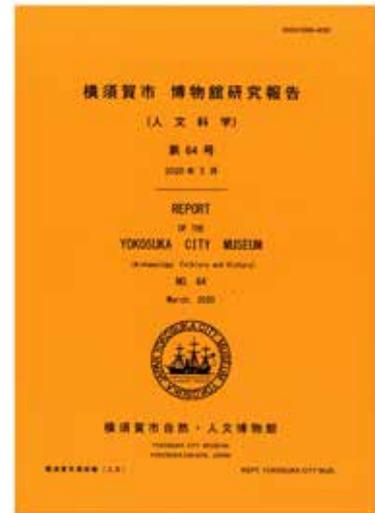
《出版物表紙》



館報 66号 (※ PDFのみ発行)



研究報告 (自然科学) 67号



研究報告 (人文科学) 64号



資料集 44号



特別展示解説書 16
『馬堀自然教育園たんけん図鑑』

6 収集調査研究事業

(1) 調査・研究

ア 調査・研究テーマ

- (ア) 三浦半島淡水生物調査, 年間, 三浦半島 (担当:萩原)
- (イ) 三浦半島沿岸生物調査, 年間, 三浦半島 (担当:萩原)
- (ウ) 三浦半島の地質調査, 年間, 三浦半島 (担当:柴田)
- (エ) 「足跡化石コレクションの構築と児童生徒が創造的, 探究的に学習できる展示の開発」科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 研究課題 (JP17K12968), 年間 (担当:柴田)
- (オ) 三浦半島昆虫相調査, 年間, 三浦半島 (担当:内船)
- (カ) 昆虫形態発生研究, 年間 (担当:内船)
- (キ) 身近な昆虫の地域間比較調査, 年間. (担当:内船)
- (ク) 「地域文化の核を目指す『みんなの理科フェスティバル』の連携拡大に向けた取り組み」(全国科学博物館活動等助成金:19008), 年間. (担当:内船)
- (ケ) 地域博物館連携に関する実践的研究, 年間. (担当:内船)
- (コ) 三浦半島植物相調査, 年間, 三浦半島内 (担当:山本)
- (サ) 神奈川県内植物相調査, 年間, 神奈川県内 (担当:山本)
- (シ) 近代建築史・土木史研究, 年間, 関東 (担当:菊地)
- (ス) 「横須賀製鉄所における中国経由でのフランス系建築技術と様式の導入に関する研究」科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 研究課題 (JP18K04552), 年間 (担当:菊地)
- (セ) 三浦半島の民俗調査, 年間, 三浦半島 (担当:瀬川)
- (ソ) 「南関東地方における湯立神楽の基礎的研究」科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 研究課題 (JP19K01218), 年間 (担当:瀬川)
- (タ) 三浦半島の文献史調査, 年間 (担当:藤井)
- (チ) 三浦半島の古墳調査, 年間, 三浦半島 (担当:稲村)
- (ツ) 野比かがみ田谷戸モデル事業調査, 年間, 横須賀市自然環境共生課と共同 (担当:萩原・内船・山本・等々力)
- (テ) 三浦半島農業調査, 年間. (担当:等々力・内船・藤井)

イ 調査出張等

日付	調査地 (出張者)	参照
4月10日	国立国会図書館 (稲村)	ア - (チ)
4月11日	鎌倉国宝館 (稲村)	ア - (チ)
4月13日	伊勢原市日向 (稲村)	ア - (チ)
4月17日	さいたま市立浦和博物館 (瀬川)	ア - (セ)
4月17日	伊勢原市子易 (稲村)	ア - (チ)
4月24日	伊勢原市三宮 (稲村)	ア - (チ)
4月25日	横須賀市田浦泉町 (内船)	ア - (オ)
5月6日	川崎市幸区北加瀬 (稲村)	ア - (チ)
5月8日	三浦市三崎 (瀬川)	ア - (セ)
5月9日	横須賀市前田川 (内船)	ア - (オ)
5月9日	神奈川県立歴史博物館 (瀬川)	ア - (セ)
5月10日	三浦市和田 (内船・等々力)	ア - (テ)
5月10日	横浜市 (藤井)	ア - (タ)
5月11日	東京都台東区 (瀬川)	ア - (セ)
5月12日	横須賀市大楠山 (内船)	ア - (オ)
5月15日	米軍基地ドック緊急調査 (菊地)	ア - (シ)
5月16日	埼玉県立文書館 (藤井)	ア - (タ)
5月16日	茅ヶ崎市下寺尾 (稲村)	ア - (チ)
5月17日	浦賀ドック (菊地)	ア - (シ)
5月18日	浦賀・久里浜 (藤井)	ア - (タ)
5月19日	横浜市歴史博物館 (瀬川)	ア - (セ)
5月19日	駒澤大学 (稲村)	ア - (チ)
5月24日	藤沢市片瀬・横浜市西区南軽井沢 (稲村)	ア - (チ)
5月25日	浦賀 (藤井)	ア - (タ)
5月26日	三浦市 (藤井)	ア - (タ)
5月28日	下山川 (萩原)	ア - (ア)
5月29日	神奈川県立公文書館 (藤井)	ア - (タ)
5月30日	水交社 (菊地)	ア - (シ)
5月31日	国立科学博物館 (瀬川)	ア - (セ)

5月31日	馬の博物館 (稲村)	ア - (チ)
6月5日	横浜市戸塚区戸塚町 (稲村)	ア - (チ)
6月6日	横須賀市田浦泉町 (内船)	ア - (オ)
6月6日	葉山町 (藤井)	ア - (タ)
6月8日	浦賀 (瀬川)	ア - (セ)
6月13日	三浦市和田・初声 (内船・等々力)	ア - (テ)
6月13日	浦賀地区 (菊地)	ア - (シ)
6月13日	鎌倉市手広 (稲村)	ア - (チ)
6月16日	葉山町 (瀬川)	ア - (セ)
6月18日	国立国会図書館 (藤井)	ア - (タ)
6月23日 ~ 28日	福島県会津地方 (内船)	ア - (キ)
6月25日	横須賀市北地区調査 (菊地)	ア - (シ)
6月25日	横須賀市立中央図書館 (瀬川)	ア - (セ)
6月25日	鎌倉文華館鶴岡ミュージアム (稲村)	ア - (チ)
6月26日	神奈川県立生命の星・地球博物館 (柴田)	ア - (ウ)
6月26日	建築学会図書館 (菊地)	ア - (シ)
6月26日	横浜市西区老松町 (稲村)	ア - (チ)
6月27日	東京都日野市多摩川河床 (柴田)	ア - (エ)
6月27日	横須賀市北地区調査 (菊地)	ア - (シ)
6月29日	船越地区 (菊地)	ア - (シ)
6月29日	大磯町・平塚市・鎌倉市 (藤井)	ア - (タ)
6月30日	東京都あきる野市 (瀬川)	ア - (セ)
7月4日	鎌倉市 (藤井)	ア - (タ)
7月4日	鎌倉歴史文化交流館 (稲村)	ア - (チ)
7月6日	山梨県富士吉田市 (瀬川)	ア - (セ)
7月10日	川崎市幸区塚越 (稲村)	ア - (チ)

7月11日	池上地区(菊地)	ア-(シ)
7月13日	武(瀬川)	ア-(セ)
7月14日	佐島(瀬川)	ア-(セ)
7月17日	神奈川県立歴史博物館(稲村)	ア-(チ)
7月18日	神奈川県立歴史博物館(藤井)	ア-(タ)
7月19日	長坂地区(菊地)	ア-(シ)
7月20日	かわさき宙と緑の科学館(稲村)	ア-(チ)
7月21日	長井(瀬川)	ア-(セ)
7月24日	横須賀市商工会議所(菊地)	ア-(シ)
7月25日	鎌倉国宝館(稲村)	ア-(チ)
7月28日	須軽谷(瀬川)	ア-(セ)
7月31日	江戸東京博物館(藤井)	ア-(タ)
7月31日	茅ヶ崎市元町(稲村)	ア-(チ)
8月1日	湯河原町(瀬川)	ア-(セ)
8月3日	久里浜(瀬川)	ア-(セ)
8月6日	浦賀ドック(菊地)	ア-(シ)
8月7日	横浜美術館(稲村)	ア-(チ)
8月9日	船久保遺跡(柴田)	ア-(ウ)
8月10日	相模原市緑区(瀬川)	ア-(セ)
8月11日	ハイランド(瀬川)	ア-(セ)
8月16日	JPタワー学術文化総合ミュージアム(稲村)	ア-(チ)
8月23日	池上地区(菊地)	ア-(シ)
8月23日	葉山町一色(稲村)	ア-(チ)
8月27日	神奈川県立歴史博物館(瀬川)	ア-(セ)
8月27日	東京都立中央図書館(藤井)	ア-(タ)
8月28日	横須賀市野比(内船)	ア-(オ)
8月28日	長谷観音ミュージアム(稲村)	ア-(チ)
8月29日	逗子市久木(内船)	ア-(オ)
8月29日	浦賀ドック(菊地)	ア-(シ)
8月31日	東京都町田市(瀬川)	ア-(セ)
9月4日	横浜市南区弘明寺町(稲村)	ア-(チ)
9月4日	大津地区(菊地)	ア-(シ)
9月4日	横浜市保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町(稲村)	ア-(チ)
9月20日	横須賀市野比(萩原・内船・等々力)	ア-(ツ)
9月21日	慶應義塾幼稚舎(柴田)	ア-(エ)
9月21日	神奈川県公会堂(稲村)	ア-(チ)
9月25日	国立国会図書館(稲村)	ア-(チ)
9月26日	浦賀地区(菊地)	ア-(シ)
10月2日	浦賀地区(菊地)	ア-(シ)
10月2日	鎌倉国宝館(稲村)	ア-(チ)
10月10日	佐島(瀬川)	ア-(セ)
10月11日	北下浦コミュニティセンター(瀬川)	ア-(セ)
10月11日	横浜市歴史博物館(稲村)	ア-(チ)
10月16日	国立公文書館(藤井)	ア-(タ)
10月17日	明治大学博物館(稲村)	ア-(チ)
10月21日~10月31日	米国ユタ州(セントジョージ恐竜発見産地博物館,モアブジャイアンツ博物館)(柴田)	ア-(エ)

10月23日	馬堀自然教育園(菊地)	ア-(シ)
10月23日	三浦市(瀬川)	ア-(セ)
10月27日	川崎市宮前区宮前平(稲村)	ア-(チ)
10月28日	藤沢市(瀬川)	ア-(セ)
10月31日	神奈川県立生命の星・地球博物館(萩原)	ア-(イ)
10月31日	横須賀高校(内船)	ア-(カ)
11月7日	三浦市(藤井)	ア-(タ)
11月8日	浦賀ドック(菊地)	ア-(シ)
11月10日	逗子市池子〜名越(柴田)	ア-(ウ)
11月11日	佐島(瀬川)	ア-(セ)
11月14日	神奈川県立公文書館(藤井)	ア-(タ)
11月15日	長井(瀬川)	ア-(セ)
11月19日	神奈川県立歴史博物館(瀬川)	ア-(セ)
11月19日	鎌倉国宝館(稲村)	ア-(チ)
11月22日	海老名市温故館(稲村)	ア-(チ)
11月23日	長井(瀬川)	ア-(セ)
11月25日	鴨居(瀬川)	ア-(セ)
11月26日	神奈川県立生命の星・地球博物館(内船・山本)	ア-(ク)
11月27日	国立公文書館(藤井)	ア-(タ)
11月29日	千葉県立関宿城博物館(瀬川)	ア-(セ)
12月3日	野尻湖ナウマンゾウ博物館(菊地・柴田)	博物館視察
12月3日	野尻湖ナウマンゾウ博物館(柴田)	ア-(エ)
12月4日	長野市立博物館(菊地・柴田)	博物館視察
12月18日	横浜市立大学(藤井)	ア-(タ)
12月19日	国立公文書館(藤井)	ア-(タ)
12月24日	国立公文書館(藤井)	ア-(タ)
12月28日	横浜国立大学(柴田)	ア-(ウ)
2年1月4日	佐島(瀬川)	ア-(セ)
2年1月10日	神奈川県立生命の星・地球博物館(柴田)	ア-(エ)
2年1月31日	浦賀ドック(菊地)	ア-(シ)
2年2月6日	神奈川県立歴史博物館(瀬川)	ア-(セ)
2年2月7日	大津地区(菊地)	ア-(シ)
2年2月11日	三浦市・佐島(瀬川)	ア-(セ)
2年2月13日	沖縄県(瀬川)	ア-(セ)
2年2月14日		3-(1)-イ
2年2月18日	神奈川県立歴史博物館(瀬川)	ア-(セ)
2年2月19日	福島県会津若松市(内船)	ア-(キ)
2年2月20日		3-(1)-ア
2年2月20日	追浜行政センター(柴田)	ア-(ウ)
2年2月29日	市内西地区(藤井)	ア-(タ)
2年3月1日	千葉県成田市(瀬川)	ア-(セ)
2年3月3日	芦名(瀬川)	ア-(セ)
2年3月5日	藤沢市(瀬川)	ア-(セ)
2年3月11日	馬堀自然教育園(萩原)	ア-(ア)
2年3月18日	横須賀市野比(萩原・内船・山本)	ア-(ツ)
2年3月26日	天神島臨海自然教育園(萩原)	ア-(イ)
2年3月28日	小田原市(瀬川)	ア-(セ)
2年3月29日	横須賀市鴨居(内船)	ア-(オ)

※「参照」の(ア)～(ニ)は前項アを参照

(2) 研究発表・執筆

ア 口頭発表等(ポスター発表を含む)

発表者・論題	発表日	大会名称(開催地)	発表種別	参照・参考
宮澤喜大・柴田健一郎・伊藤 慎:三浦半島南帯鮮新統初声層の重力流堆積相	9月25日	日本地質学会第126年学術大会(山口大学)	ポスター	(2)-ア-(ウ)

川崎七海・中臺亮介・西田佐知子・大西 亘・山本 薫・岩崎貴也：生物地理学的スケールでの植物の共起を決める要因：群集生体と生物地理からのアプローチ	3月 (現地開催中止)	日本植物分類学会第19回大会(岐阜)	ポスター	(2) - ア - (サ)
--	----------------	--------------------	------	---------------

イ 論文等執筆・講演要旨

著者・論題	掲載書誌・巻号・頁・発行月	参照・参考
内船俊樹：「つながり」を生かした小学校教育支援 学校へ、地域へ「つながる博物館」の取り組みと挑戦	協働する博物館 博学連携の充実に向けて(小川義和編著), pp.186-197. ジダイ社.(5月)	(2) - ア - (ク) (2) - ア - (ケ)
藤井明広：明治維新以後における旧旗本家と旧領地	立正史学,(126): 85-108.(9月)	(2) - ア - (タ)
石原花梨・栗山 究・戸倉博之・内船俊樹・塚本百合子・森泉由貴：第16分科会 奈良発!中山間地域の地域博物館実践から学びあう	第59回社会教育研究全国集会(奈良集会)報告書, pp.62-64. 社会教育推進全国集会.(11月)	(2) - ア - (ケ)
柴田健一郎・倉持卓司・蟹江康光：横須賀市根岸町に露出した更新統横須賀層大津砂泥部層のエスチュアリー堆積物	横須賀市博研報(自然),(67): 1-8.(2年3月)	(2) - ア - (ウ)
内船俊樹：“身近な昆虫”を軸とした地域昆虫相の比較：神奈川県三浦半島と福島県会津若松市での調査から	横須賀市博研報(自然),(67): 9-27.(2年3月)	(2) - ア - (キ)
萩原清司・原田莉緒・石渡陽人・大島雛子・島山葉南・多田かの：三浦半島におけるオニカマス <i>Sphyaena barracuda</i> (スズキ目；カマス科) の出現状況	横須賀市博研報(自然),(67): 29-32.(2年3月)	(2) - ア - (イ)
藤原大貴・内船俊樹・大澤啓志：三浦半島から採集されたニセモンキマメゲンゴロウ(甲虫目：ゲンゴロウ科)	横須賀市博研報(自然),(67): 33-35.(2年3月)	(2) - ア - (オ)
山本 薫・岩浪 創：31年振りに発見されたタキミンダ	横須賀市博研報(自然),(67): 39.(2年3月)	(2) - ア - (ウ)
藤井明広：旗本家当主の葬儀と家政改革	横須賀市博研報(人文),(64): 63-94.(2年3月)	(2) - ア - (タ)
菊地勝広・飯島和歌子：横須賀製鉄所フランス人技術者ルイ・メラング家伝来資料目録	横須賀市博資料集,(44): 1-65.(2年3月)	(2) - ア - (シ)
瀬川 渉：収集現場の映像とその資料的価値	神奈川県博物館協会会報,(91): 16-18.(2年3月)	(2) - ア - (セ)
内船俊樹・塚本百合子：館園施設の歴史的背景を契機とした連携—横須賀と登戸におけるコラボ企画の展開—	神奈川県博物館協会会報,(91): 19-28.(2年3月)	(2) - ア - (ケ)
吉田朋弘・萩原清司・本村浩之：石垣島から得られたハタ科魚類の稀種クレナイトゲメギス <i>Suttonia coccinea</i> の記録	魚類額雑誌, 66(2): 217-219.(6月)	
吉田朋弘・萩原清司・本村浩之：和歌山県から得られたテンジクダイ科の稀種シキナミヤツゲテンジクダイ <i>Neamia notula</i> の記録	魚類額雑誌 J-stage 早期公開版, DOI: 10.11369/jji.19-047, 4ページ.(2年1月)	

ウ その他執筆

著者・論題	掲載書誌・巻号・頁・発行月	参照・参考
瀬川 渉：子産石はどこから(横須賀と海 第10回)	まなびかんニュース(横須賀市/横須賀市生涯学習財団) 8月号: 8.(8月)	(2) - ア - (セ)
内船俊樹：横須賀の「身近な昆虫」図鑑(季節の自然図鑑 第34回)	よこすか ECO 通信(横須賀市/環境教育・環境学習ネットワーク会議), 34: 4.(9月)	(2) - ア - (キ)
菊地勝広：横須賀の日本遺産—「ヨコスカ製錬所」の赤レンガ(横須賀と海 第11回)	まなびかんニュース(横須賀市/横須賀市生涯学習財団) 9月号: 8.(9月)	(2) - ア - (シ)
柴田健一郎：三浦半島特産の化石! シロウリガイ(横須賀と海 第13回)	まなびかんニュース(横須賀市/横須賀市生涯学習財団) 1月号: 8.(2年1月)	(2) - ア - (ウ)
清古 貴・内船俊樹：葉山町一色でサツマゴキブリを確認	かまくらちょう,(96): 16.(2年1月)	(2) - ア - (オ)
南木 悠・内船俊樹：横須賀市でのスジグロカバマダラの記録	かまくらちょう,(96): 36.(2年1月)	(2) - ア - (オ)
内船俊樹：マイ・ベスト昆虫写真 2019 各部門グランプリ作品	かまくらちょう,(96): 40.(2年1月)	
内船俊樹：マイ・ベスト昆虫写真 2019 「みんなの昆虫部門」グランプリ「山歩きの大敵(ヤマビル)」	かまくらちょう,(96): 41.(2年1月)	
内船俊樹：かまくらちょう写真館「E 朽ち木からコンニチハ(クロヒラタカメムシ)」	かまくらちょう,(96): 46.(2年1月)	(2) - ア - (オ)
内船俊樹：かまくらちょう写真館「J ここにも! サツマ」	かまくらちょう,(96): 47.(2年1月)	(2) - ア - (オ)
内船俊樹：かまくらちょう写真館「M 白刃取り!(ハネナシコロギス)」	かまくらちょう,(96): 48.(2年1月)	(2) - ア - (オ)
内船俊樹：かまくらちょう写真館「V 陰影(ウスバキトンボのヤゴ)」	かまくらちょう,(96): 49.(2年1月)	(2) - ア - (オ)
柴田健一郎：鷹取山の地層(季節の自然図鑑 第36回)	よこすか ECO 通信(横須賀市/環境教育・環境学習ネットワーク会議), 36: 4.(2年3月)	(2) - ア - (ウ)

(3) 学術研究団体・会議等協力

団体	役割	期間	担当
歴史学会	理事	年間	藤井
立正大学史学会	理事	年間	藤井
熊谷市史編さん委員会：近世部会（埼玉県熊谷市）	専門調査員	年間	藤井
立正大学人文科学研究所	推薦研究員	年間	藤井
公益財団法人 徳川黎明会徳川林政史研究所	非常勤研究生	年間	藤井
日本魚類学会	日本分類学会連合日本魚類学会代表	年間	萩原
日本節足動物発生学会	編集幹事	年間	内船
三浦半島昆虫研究会	編集委員・例会幹事ほか	年間	内船
第59回社会教育研究全国集会	第17分科会世話人	年間	内船
横須賀植物会	顧問	年間	山本

《制作物（缶バッジ①）》



アオウミウシ



シロウミウシとコモンウミウシ



ハマオモトとアオスジアゲハ



天神島マスコットキャラ



駆逐艦「萩風」



駆逐艦「不知火」



オオスズメバチ



ゲンジボタル



特別展示「馬堀自然教育園」



カブトムシ



タコツボとタコ



ウミネコ

《制作物（缶バッジ②，トートバッグ，ミニタオル）》



よこすかキッズウィーク



トートバッグ（大・黒）



トートバッグ（大・緑）



トートバッグ（小・黒）



トートバッグ（小・赤）



ミニタオル（青）



ミニタオル（緑）

7 分類整理保存事業

(1) 資料の寄贈・借用

ア 寄贈資料

資料名称・点(件)数	受入日	寄贈者・機関	部門
出征幟ほか	4月17日	沼崎陽	民俗
トランジスタラジオ	4月20日	豆腐谷正樹	民俗
ヘラ台ほか	5月2日	川原一晃	民俗
ペータデッキほか	5月30日	竹端秀雄	民俗
白金カイロほか	5月30日	中塚清美	民俗
召集令状、戦中の資料等一式	6月8日	小島節子	歴史
化石資料 80件	6月29日	斎藤優二	地球科学
石渡僊吉氏旧蔵資料	7月12日	石渡千代	歴史
小島節子氏、早坂堅治氏旧蔵資料	7月23日	小島節子	歴史
「練習艦隊遠航記念」ほか	8月23日	石渡千代	歴史
中島悦郎氏旧蔵資料	8月24日	中島一	歴史
和船模型	8月29日	出口正夫	民俗
写真ほか	9月25日	中島一	歴史
分銅棒秤	9月26日	中野敏夫	民俗
和文タイプライター	12月21日	宮本英郎	民俗
写真乾燥機ほか	2年1月11日	古川貴史	民俗
昔のおもちゃほか	2年2月23日	角井桂子	民俗
ポータブルレコードプレーヤー	2年3月17日	岩間久雄	民俗

計 18 件

イ 借用資料

資料名称・点数・備考	借用期間	借用者・機関	部門
船筆筒(常設展示品として引き続き借用中) 1点	4月1日～2年3月31日	幸保富雄	歴史
さいたま市指定有形文化財(歴史資料)「私年号板石塔婆」画像 (改元記念「天皇・皇室関連展示」用に借用)	4月21日～6月9日	さいたま市立浦和博物館	民俗

計 2 件

(2) 登録資料

ア 自然科学資料

部門・分野	登録資料件数	(新規登録件数)
地球科学	5,633件	(8件)
古生物資料	2,683件	(8件)
岩石資料	840件	(0件)
鉱物資料	182件	(0件)
地質調査報告書	1,928件	(0件)
動物	95,463件	(226件)
昆虫資料	36,391件	(37件)
魚類資料	46,174件	(151件)
軟体動物資料	9,858件	(0件)
両生爬虫類資料	580件	(0件)
鳥類資料	982件	(38件)
甲殻類資料	1,070件	(0件)
哺乳類資料	408件	(0件)
植物	76,899件	(742件)
維管束植物	69,419件	(709件)
藻類	4,459件	(0件)
菌類	58件	(0件)
蘚苔類	2,963件	(32件)

イ 人文科学資料

部門・分野	登録資料件数	(新規登録件数)
考古	84件	(0件)
歴史	397件	(0件)
登録銃砲刀剣類	18件	(0件)
民俗	721件	(0件)

ウ 図書資料

部門	登録資料件数	(新規登録件数)
自然科学	98,404件	(1,013件)
人文科学	67,695件	(802件)

(3) 資料の利用

資料名 (代表ほか件数)	利用形態 (用途)	利用日/期間(回数)	利用者 (所属) / 団体	部門
鳥類剥製資料	閲覧	年間	横須賀木鳥会	動物
蓼原古墳出土円筒埴輪画像	再掲載	4月4日	株式会社ベネッセコーポレーション	考古
田戸・三戸遺跡出土土器	実見	4月16日・ 5月21日	武井則道	考古
吉井貝塚出土土器・石斧, 平坂東貝塚出土釣針, 江戸坂貝塚出土石鏃, 旧国立病院裏山遺跡出土土器, 泉遺跡出土土器, 米の台遺跡出土石斧, 鴨居上の台遺跡出土炭化米, 中馬堀遺跡出土土器, 神明谷戸遺跡出土土器, 大塚古墳群出土遺物, 勝力崎洞穴遺跡出土人骨	館内利用	4月19日	横須賀市立大矢部小学校6年	考古
蓼原古墳出土円筒埴輪画像	再掲載	5月3日	株式会社ベネッセコーポレーション	考古
吉井貝塚出土土器・石斧, 平坂東貝塚出土釣針, 江戸坂貝塚出土石鏃, 旧国立病院裏山遺跡出土土器, 泉遺跡出土土器, 米の台遺跡出土石斧, 鴨居上の台遺跡出土炭化米, 中馬堀遺跡出土土器, 神明谷戸遺跡出土土器, 大塚古墳群出土遺物, 勝力崎洞穴遺跡出土人骨	館内利用	5月28日	横須賀市立沢山小学校6年	考古
カカトアルキ画像	掲載:『小学館の図鑑NEO 24 昆虫2』	6月	小学館	昆虫
クモハゼ属の1種標本	貸出	6月12日	本村浩之 (鹿児島大学総合研究博物館)	動物
逗子市池子産カミキリムシ類標本	閲覧	6月12日	露木繁雄 (三浦半島昆虫研究会)	昆虫
逗子市池子産昆虫類標本	閲覧	6月14日・ 8月2日	鈴木 裕 (三浦半島昆虫研究会)	昆虫
三浦半島産・北海道産化学合成二枚貝化石	閲覧	6月18日	Krzysztof Hryniewicz, Andrzej Kaim (Polish Academy of Sciences)	地球科学
三浦半島内横穴墓群出土土器一括	実見	6月22日	川田馨秋 (鶴ヶ島市教育委員会)	考古
アメリカ兵の似顔絵 実見, 6月29日	実見	6月29日	東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学専攻	民俗
魚類標本	貸出・閲覧	6月30日・ 2年1月8日	山田和彦 (観音崎自然博物館)	動物
魚類標本	閲覧・貸出	7月2日・3日	藤原恭司 (鹿児島大学大学院)	動物
アベハゼ属標本	貸出	7月3日	松沼瑞樹 (近畿大学農学部)	動物
資料	館内利用	7月30日	個人	歴史
ウミテング科・トビハタ標本	貸出	8月7日	三井翔太 (東京海洋大学大学院)	動物
魚類標本	閲覧	8月7日・12日	工藤孝浩 (神奈川県水産技術センター)	動物
海外産昆虫等標本・三浦半島産スズメバチ等昆虫類標本・三浦半島産セミ類6種標本	貸出	8月25日	LiCaCLUB (リカクラブ)	昆虫
野島貝塚出土土器	掲載	8月30日	横浜市緑の協会	考古
テンジクダイ科標本	貸出	8月30日・31日	吉田朋弘 (西海区水産研究所)	動物
テンジクダイ科の1種標本	貸出	9月3日	林 公義 (宮内庁生物学研究所)	動物
佐原泉遺跡出土石器	実見	9月8日	小林 嵩 (千葉市教育振興財団)	考古
地質調査報告書	貸出	9月27日	横須賀市都市部公共建築課	地球科学
蓼原古墳出土弾琴男子椅座像埴輪画像	掲載	9月22日	海老名市教育委員会	考古
上の台遺跡出土鉄剣鉄鏃・高原遺跡Y 89号住鉄製品 Y 203号住鉄製品・高原北遺跡鉄剣	実見	10月4日	鈴木崇司 (駒澤大学大学院)	考古
オオハサミムシ類画像	利用	10月4日	(株) ディレクションズ	昆虫

三浦半島産軟体動物化石	閲覧	10月16日	小長谷美沙(天神島ビジターセンター)・吉岡七海(横浜国立大学)	地球科学
地質調査報告書	貸出	10月16日	横須賀市都市部公共建築課	地球科学
蓼原古墳出土円筒埴輪画像	再掲載	10月16日	株式会社ベネッセコーポレーション	考古
ウタツサウルス画像	掲載:『小学館の学習ムック 映画ドラえもののび太の新恐竜 発掘ブック』	10月17日	小学館	地球科学
平瀬貝類コレクション	閲覧	10月18日	黒住耐二(千葉県立中央博物館)	動物
ガロアムシ類画像	利用	11月2日	朝日カルチャーセンター	昆虫
満願寺遺跡出土遺物	実見	11月3日・4日	満願瓦検討会	考古
木づち、鋏、マンノウ、ガンドウ、ミ、ミノガサ、ツルハシ、パイスケ、水桶	資料貸出	11月23日～ 2年1月10日	横須賀市立小原台小学校	民俗
黒電話、お釜、お膳、火のし、たらい、洗濯板、そろばん、昔の教科書	資料貸出	12月24日～ 2年1月29日	横須賀市立森崎小学校	民俗
おひつ、おひつ入れ、米搗ぎビン、練炭コンロ、石臼、お膳、火鉢、ちゃぶ台、レジスター(船越町で製作)、黒電話、行灯、ガンドウ、ランプ、昔の教科書、木製かるた、棒秤、矢立、弁当箱、石板、そろばん、水桶、火事装束、足踏みミシン、防空頭巾、炭火アイロン、火のし、下駄、草履、わらじ、柳行李、たらい、洗濯板、ミノ、ミノガサ、背負いかご、炭火こたつ、アンカ、箱枕、ワープロ	館内利用	2年1月15日	横須賀市立浦郷小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年1月16日	横須賀市立船越小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年1月17日	三浦市立南下浦小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年1月22日	横須賀市立走水小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年1月23日	横須賀市立公郷小学校・横須賀市立鶴久保小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年1月24日	横須賀市立衣笠小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年1月28日	横須賀市立大塚台小学校・横須賀市立逸見小学校・横須賀市立汐入小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年1月29日	横須賀市立馬堀小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年1月31日	横須賀市立根岸小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年2月4日	横須賀市立鴨居小学校・横須賀市立豊島小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年2月5日	横須賀市立神明小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年2月6日	横須賀市立大矢部小学校・横須賀市立田戸小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年2月7日	横須賀市立池上小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年2月12日	横須賀市立久里浜小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年2月18日	横須賀市立小原台小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年2月19日	横須賀市立野比東小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年2月20日	横須賀市立高坂小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年2月21日	横須賀市立沢山小学校・横須賀市立長浦小学校	民俗
同上資料	館内利用	2年2月26日	横須賀市立諏訪小学校	民俗
マナヅル・シロハラクイナ・アオウミガメ・タイマイ標本	貸出	2年1月25日	大畠直子(万代テラコヤイベント)	動物
防空頭巾、もんぺ、黒電話、湯たんぽ、炭火こたつ、おひつ、おひつ入れ、お釜、火のし、炭火アイロン	資料貸出	2年1月23日～ 2月5日	横須賀市立岩戸小学校	民俗
横須賀市産婆会旗	資料貸出	2年1月26日～ 2月2日	横須賀市助産師会	民俗
チチブ属標本	貸出	2年2月15日	林 公義(宮内庁生物学研究所)	動物
アカハゼ・モヨウハゼ標本	貸出	2年2月23日	須之部友基(東京海洋大学水圏フィールド研究センター)	動物
横浜市称名寺貝塚出土土器画像	掲載	2年3月10日	千葉毅(神奈川県立歴史博物館)	考古

昆虫類標本	閲覧	2年3月29日	大橋怜司	昆虫
-------	----	---------	------	----

計 59 件

(4) 資料の保守・保存環境保全

ア 文化財害虫と空中浮遊菌類の燻蒸及び調査

(ア) 燻蒸消毒

文化財収蔵庫において殺菌・殺虫効果のある燻蒸剤「アルプ」を使用した燻蒸をおこなった。第3資料室・調査研究室・大型資料室・第1民俗資料室・展示室の一部においてピレスロイド系殺虫剤の空中噴霧による燻蒸を行った。さらに調査研究室では「アルプ」による被覆くん蒸を行った。いずれも効果判定材料である供試虫の致死率100%が認められた。6月23日～6月30日。(担当：瀬川・山本)

(イ) 調査

文化財収蔵庫・第3資料室・調査研究室・大型資料室・第1,第2民俗資料室・第1,第2歴史資料室・人文資料室・恒温恒湿室・資料整理室・考古資料室・視聴覚資料室・自然研究室・図書室・特別展示室・特別展示準備室・人文館展示室・自然館展示室において、インセクトトラップ・フェロモントラップを設置し、歩行性昆虫類やタバコシバンムシなどの文化財害虫の生息状況を調査した。各所でチャタテムシ類が捕獲され、一部では歩行性昆虫類も捕獲された。シバンムシ類の捕獲はほぼなかった。捕獲数が多い個所には、樹脂蒸散性防殺虫剤を設置した。6月28日～8月9日。(担当：瀬川・山本)

イ 国指定重要文化財スチームハンマーの保存環境測定・定期保守点検

ヴェルニー記念館で保存・管理する国指定重要文化財



7-(4)-ア-(ア) 燻蒸消毒 (文化財収蔵庫)

スチームハンマー2基(旧横須賀製鉄所設置, 1865年オランダ製: ①0.5トン片持ち形・②3トン門型)のについて、保存環境測定と定期保守点検を行った。

(ア) 保存環境測定

スチームハンマーの保存に影響する因子の特定及び今後の維持管理方法の検討データの収集のため、空気環境データを年2回(8月15日・2年2月20日)測定した。(担当: 菊地)

測定場所

ヴェルニー記念館(東逸見町1-1)の室内外の計2地点。

測定項目および方法

①濾過捕集による「浮遊粒子状物質(SPM)」の重量濃度測定, ②ザノレツマン吸光光度法による「二酸化窒素」の濃度測定, ③濾過捕集による「粒子状酸性成分」濃度のイオンクロマト分析の3項目で, ①, ②は日中時間内の1時間値を1回, ③は日中時間内の6時間値を1回測定した。

測定結果

測定結果は下表のとおり。アルデヒドにおける不検出値は、「ホルムアルデヒド8ppb以下, アセトアルデヒド5ppb以下」で, 粒子状酸性成分における不検出値は、「塩化物イオン0.069 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下, その他0.17 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下」とした。気象条件等も併せて記録した。

表 平成31年度・令和元年度 測定結果一覧

調査項目	測定日・場所		2年2月14日	
	8月16日	8月16日	室内	屋外
天候	-	曇	-	曇
気温(°C)	28.0	32.0	18.0	10.0
湿度(%)	54.0	72.0	34.0	50.0
風向	-	南東	-	北
風速(m/s)	-	1.1-4.5	-	1.2-2.7
浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.002	0.014	0.002	0.011
ホルムアルデヒド(ppb)	不検出	不検出	不検出	不検出
アセトアルデヒド(ppb)	不検出	不検出	不検出	不検出
酸性成分	塩化物イオン($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	15	43.0	18.0
	亜硝酸イオン($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	不検出	不検出	不検出
	硝酸イオン($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	9.6	16.0	13.0
	硫酸イオン($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	17.0	41.0	43.0

(イ) 定期保守点検

スチームハンマー2基の保存処理と保存状態の点検を, 10月9日に行った。(担当: 菊地・鈴木)

《リーフレット》



馬堀自然教育園リーフレット（改訂）

天神島臨海自然教育園リーフレット（改訂）



2019年度年間行事リーフレット

8 管理事業

(1) 施設利用

ア 団体による見学等利用

(ア) 学校教育関係

日付	学校・学年等	施設
4月19日	横須賀市立大矢部小学校6年	本館
4月19日	横須賀市立大楠小学校	天神島
4月19日	横須賀市立長井小学校	天神島
4月19日	横須賀市立武山小学校	天神島
4月23日	神奈川県立横須賀高等学校	天神島
4月25日	横須賀市立荻野小学校	天神島
4月27日	恵泉女学園中学・高等部	天神島
5月8日	慶應義塾志木高等学校	天神島
5月9日	横須賀市立馬堀小学校3年	馬堀
5月10日	横須賀市立野比東小学校	ヴェルニー
5月21日	慶應義塾横浜初等部3年	本館
5月22日	慶應義塾横浜初等部	天神島
5月25日	神奈川大学	本館
5月28日	横須賀市立沢山小学校6年	本館
5月28日	横須賀市立馬堀小学校2年	馬堀
5月30日	田園調布雙葉小学校	本館
5月31日	横須賀市立公郷小学校	馬堀
5月31日	横須賀市立公郷中学校	天神島
5月31日	横須賀市立公郷中学校	ヴェルニー
6月5日	横須賀市立養護学校	本館
6月5日	横須賀市立馬堀小学校	馬堀
6月5日	シモソノ学園	天神島
6月11日	横須賀市立走水小学校	馬堀
6月14日	横須賀市立馬堀小学校	馬堀
6月16日	神奈川県立生田高等学校	天神島
6月20日	神奈川県立横須賀高等学校	本館
6月22日	神奈川大学	天神島
6月22日	神奈川県立大矢部高等学校	天神島
6月29日	東京大学文学部文化資源研究室	本館
7月3日	シモソノ学園	天神島
7月6日	恵泉女学園大学	天神島
7月9日	神奈川県立横須賀高等学校	天神島
7月11日	横須賀市立豊島小学校3年	本館
7月31日	中高生のための科学セミナー	本館
8月2日	神奈川県立横須賀高等学校	天神島
8月2日	横須賀市立横須賀総合高等学校	ヴェルニー
8月8日	横須賀学院小学校キッズスクエア	本館
9月4日	私立武蔵高等学校	本館
9月11日	横須賀市立神明小学校	天神島
9月20日	横須賀市立田戸小学校	天神島
9月27日	横須賀市立浦賀小学校3年	本館
9月27日	横須賀市立浦賀小学校	天神島
10月1日	横須賀市立大楠小学校	天神島
10月3日	横須賀市立荻野小学校	本館
10月4日	三浦市立岬陽小学校3年	本館
10月4日	横須賀市立大塚台小学校	天神島
10月6日	法政大学文学部史学科	本館
10月18日	横須賀市立田戸小学校	本館
10月18日	横須賀市立野比小学校3年	本館
10月24日	横須賀市立富士見小学校	本館
10月24日	フェリス女学院中学校	天神島
10月25日	フェリス女学院中学校	本館
10月31日	湘南芽吹高等学院	本館

10月31日	若山中学校	ヴェルニー
11月6日	横須賀市立田戸小学校	本館
11月7日	横須賀市立諏訪小学校1年	ヴェルニー
11月10日	日本大学生物資源科学部学芸員課程	本館
11月10日	日本大学生物資源科学部学芸員課程	天神島
11月14日	三浦市立三崎小学校3年	本館
11月16日	帝京平成大学学芸員課程	本館
11月19日	高崎市立野付小学校	ヴェルニー
11月22日	横須賀市立鷹取小学校	本館
11月22日	横須賀市立望洋小学校	天神島
11月27日	横須賀市立城北小学校3年	本館
11月28日	横須賀市立馬堀小学校	天神島
12月8日	法政大学文学部地理学科	本館
12月10日	横須賀市立大津中学校	ヴェルニー
12月14日	中学校対抗ウォークラリー	ヴェルニー
12月17日	横須賀市立田戸小学校3年	本館
2年1月15日	横須賀市立浦郷小学校3年	本館
2年1月16日	横須賀市立船越小学校3年	本館
2年1月16日	横浜薬科大学	天神島
2年1月17日	三浦市立南下浦小学校3年	本館
2年1月22日	横須賀市立走水小学校3年	本館
2年1月23日	横須賀市立公郷小学校3年	本館
2年1月23日	横須賀市立鶴久保小学校3年	本館
2年1月24日	横須賀市立衣笠小学校3年	本館
2年1月28日	横須賀市立大塚台小学校3年	本館
2年1月28日	横須賀市立逸見小学校3年	本館
2年1月28日	横須賀市立汐入小学校3年	本館
2年1月29日	横須賀市立馬堀小学校3年	本館
2年1月29日	横須賀市立汐入小学校	本館
2年1月31日	横須賀市立根岸小学校3年	本館
2年1月31日	横須賀市立豊島小学校4年	本館
2年2月4日	横須賀市立鴨居小学校3年	本館
2年2月4日	横須賀市立豊島小学校3年	本館
2年2月5日	横須賀市立神明小学校3年	本館
2年2月6日	横須賀市立大矢部小学校3年	本館
2年2月6日	横須賀市立田戸小学校3年	本館
2年2月7日	横須賀市立池上小学校3年	本館
2年2月7日	神奈川県立岩戸養護学校	本館
2年2月12日	横須賀市立久里浜小学校3年	本館
2年2月15日	創価高等学校	本館
2年2月18日	横須賀市立小原台小学校3年	本館
2年2月19日	横須賀市立野比東小学校3年	本館
2年2月19日	横須賀市立坂本中学校	本館
2年2月20日	横須賀市立高坂小学校3年	本館
2年2月21日	横須賀市立ろう学校	本館
2年2月21日	横須賀市立沢山小学校3年	本館
2年2月21日	横須賀市立長浦小学校3年	本館
2年2月26日	横須賀市立諏訪小学校3年	本館

計101件

※ 馬堀：馬堀自然教育園，天神島：天神島臨海自然教育園，
ヴェルニー：ヴェルニー記念館

(イ) 学校教育以外

日付	団体名	施設
年間	好古会	本館
年間	三浦半島昆虫研究会	本館
年間	横須賀植物会	本館
4月2日	嘉山グループ	ヴェルニー
4月4日	三浦半島活断層調査会	本館
4月6日・7日	クラブツーリズム	ヴェルニー
4月11日	三浦半島活断層調査会	本館
4月12日	好古会	本館
4月14日	三浦半島昆虫研究会	本館
4月14日	横須賀若葉会	馬堀
4月17日	クラブツーリズム	ヴェルニー
4月18日	三浦半島活断層調査会	本館
4月20日	クラブツーリズム	ヴェルニー
5月1日・2日・3日	クラブツーリズム	ヴェルニー
5月3日	満願寺瓦検討会	本館
5月5日	クラブツーリズム	ヴェルニー
5月8日	森林インストラクター神奈川会	天神島
5月8日	楽笑山行サークル	ヴェルニー
5月9日	三浦半島活断層調査会	本館
5月9日	葉山町文化財研究会	天神島
5月11日	ベース歴史ツアー	ヴェルニー
5月12日	ちゃろぼこ散歩会	ヴェルニー
5月12日	サッカークラブ	ヴェルニー
5月15日	しんわピノキオ保育ランド	天神島
5月15日	クラブツーリズム	ヴェルニー
5月16日	三浦半島活断層調査会	本館
5月17日	歩く会	ヴェルニー
5月18日	神奈川県立青少年センター自然観察会	天神島
5月19日	相模湾海洋生物研究会	本館
5月22日	海上自衛隊	ヴェルニー
5月22日	DANの会	ヴェルニー
5月23日	三浦半島活断層調査会	本館
5月23日	大楠愛児園	天神島
5月23日	史訪楽	ヴェルニー
5月24日	月島友の会	ヴェルニー
5月29日	フロムワン福祉園	本館
5月31日	クラブツーリズム	ヴェルニー
5月31日	上中里地区センター	ヴェルニー
6月2日	悠々会	ヴェルニー
6月2日	クラブツーリズム	ヴェルニー
6月5日	クラブツーリズム	ヴェルニー
6月6日	三浦半島活断層調査会	本館
6月7日	クラブツーリズム	ヴェルニー
6月8日	魅力創造発信実行委員会(ラジオ番組)	天神島
6月9日	ワンダラーズ79	馬堀
6月13日	クラブツーリズム	ヴェルニー
6月14日	好古会	本館
6月14日	WEST10 散歩会	ヴェルニー
6月15日	ボーイスカウト町田	天神島
6月15日	ベネフィ駿東	ヴェルニー
6月15日	少年工学校同窓会	ヴェルニー
6月18日	浦賀っ子かえるクラブ	馬堀
6月19日	生涯学習センター(市民大学)	天神島
6月19日	こんにちのはの会	ヴェルニー
6月19日	かわさき市民アカデミー	ヴェルニー
6月20日	三浦半島活断層調査会	本館
6月22日	神奈川県歩け歩け協会	本館
6月22日	相模湾海洋生物研究会	本館
6月22日	クラブツーリズム	ヴェルニー

6月22日	真澄会	ヴェルニー
6月23日	広尾地学研究会	本館
6月23日	藤岡ウォーキング協会	ヴェルニー
6月26日	紀州鉄道	ヴェルニー
6月28日	船越保育園	本館
6月29日	伊勢原市文化財協会	本館
6月29日	湘南信用金庫	ヴェルニー
6月29日	クラブツーリズム	ヴェルニー
6月29日	文化財協会	ヴェルニー
7月4日	三浦半島活断層調査会	本館
7月5日	南関東防衛局	本館
7月5日	さいたま市三室公民館金歩会	ヴェルニー
7月6日	シティボランティアガイド	ヴェルニー
7月7日	ムラカミスポーツ	天神島
7月10日	クラブツーリズム	ヴェルニー
7月11日	森林インストラクター神奈川会	天神島
7月12日	好古会	本館
7月12日	三都漫歩クラブ	ヴェルニー
7月13日	クラブツーリズム	ヴェルニー
7月18日	三浦半島活断層調査会	本館
7月18日	でんでん虫の会	天神島
7月18日	クラブツーリズム	ヴェルニー
7月19日	めぐみ幼稚園	天神島
7月20日	日本自然保護協会	天神島
7月24日	ハートリンク放課後等デイサービス 富岡東	本館
7月25日	タケダウォーク	馬堀
7月25日	クラブツーリズム	ヴェルニー
8月2日	好古会	本館
8月7日	神奈川ウォーキングクラブ	ヴェルニー
8月9日	津久井幼稚園	天神島
8月10日	ブレップ学習サポートセンター横浜	本館
8月18日	虹の会 俳句会	天神島
8月20日	横須賀古地図くらぶ	本館
8月22日	富岡市教育委員会学校教育課	本館
8月22日	富岡市キャリア体験事業	ヴェルニー
8月27日	クラブツーリズム	ヴェルニー
9月5日	三浦半島活断層調査会	本館
9月12日	三浦半島活断層調査会	本館
9月13日	毎日新聞旅行	天神島
9月19日	三浦半島活断層調査会	本館
9月25日・26日	クラブツーリズム	ヴェルニー
10月1日	竜門社深谷支部	本館・ヴェルニー
10月3日	三浦半島活断層調査会	本館
10月4日	葉山にこにこ保育園	本館
10月5日	湘南地球科学の会	本館
10月5日	東京シティガイド多摩	ヴェルニー
10月8日	生涯学習講座「さわやか教室」横須賀いきもの探訪	本館
10月9日	中央ウォーキング協会千葉	ヴェルニー
10月10日	三浦半島活断層調査会	本館
10月17日	三浦半島活断層調査会	本館
10月23日	大井防火防災協会	本館
10月24日	大楠幼稚園	天神島
10月24日	湘現会	ヴェルニー
10月26日	ハートリンク磯子	本館
10月26日・27日	横須賀市観光協会	馬堀
10月29日	森崎保育園	本館
10月30日	聖心第二幼稚園	本館
10月30日	愛媛県内水面業連	ヴェルニー
10月31日	北九州市(市長・市職員)	ヴェルニー

11月1日	YBS エレメンタリー	本館
11月1日	鎌倉散歩 友の会	天神島
11月1日	シティガイド協会	ヴェルニー
11月3日	東交観光バス今川町親和会	ヴェルニー
11月9日	ボランティアガイド	ヴェルニー
11月9日	沼津法人会第2ブロック	ヴェルニー
11月10日	馬堀海岸3丁目自治会	本館
11月10日	(株)モビテック	ヴェルニー
11月16日	成田市文化財保護協会	本館
11月16日	鎌倉散歩 友の会	天神島
11月16日	(株)享成自動車学校	天神島
11月20日	湘南保育園	本館
11月23日	魅力創造発信課・FM主催バスツアー	天神島
11月30日	横浜金沢シティガイド協会	ヴェルニー
12月5日	三浦半島活断層調査会	本館
12月6日	YBS 見学会	馬堀
12月8日	富士宮佐藤かずひこ後援会	ヴェルニー
12月12日	三浦半島活断層調査会	本館
12月14日	ハッピーテラス衣笠教室	本館
12月14日	ソニオンフォトクラブ	本館
12月14日	ソニオンフォトクラブ	天神島
12月26日	学童保育所まぼりっ子クラブ	本館
2年1月9日	三浦半島活断層調査会	本館
2年1月12日	横浜 YMCA	本館
2年1月16日	三浦半島活断層調査会	本館

2年1月16日	かぐのみ幼稚園	本館
2年1月19日	相模湾海洋生物研究会	本館
2年1月23日	三浦半島活断層調査会	本館
2年1月24日	田浦保育園	本館
2年1月26日	ボーイスカウト横浜第82団	本館
2年1月26日	上村田区視察研修	ヴェルニー
2年2月2日	台湾からのツアー客	ヴェルニー
2年2月5日	あゆみ保育園	本館
2年2月6日	三浦半島活断層調査会	本館
2年2月13日	三浦半島活断層調査会	本館
2年2月13日	うさぎ保育園	本館
2年2月14日	大津幼稚園	本館
2年2月16日	広尾地学研究会	本館
2年2月16日	健康づくり遊歩会	ヴェルニー
2年2月18日	生涯学習課	本館
2年2月20日	三浦半島活断層調査会	本館
2年2月22日	ピュアあかいくつ	本館
2年2月26日	久里浜幼稚園	本館
2年2月26日	かぐのみ幼稚園	本館
2年2月26日	シティガイド協会(けやきの会)	ヴェルニー
2年2月27日	久里浜幼稚園	本館
2年2月27日	あゆみ保育園	本館
2年2月28日	はとバスツアー	ヴェルニー

計 169 件

※ 馬堀：馬堀自然教育園，天神島：天神島臨海自然教育園，
ヴェルニー：ヴェルニー記念館

イ 調査・研究等利用

日付	利用者・団体名	施設
年間	満願瓦検討会	本館
6月13日	横須賀高校 Principia I	本館
6月18日	横須賀高校 Principia II	本館
8月2日	横須賀高校 Principia I	天神島
9月3日～6日	岡宮久規(首都大学東京大学院)	本館
9月19日	横須賀高校 Principia I	本館

9月24日	横須賀高校 Principia II	本館
11月5日	横須賀高校 Principia II	本館
11月7日	横須賀高校 Principia I	本館
2年3月1日	岡宮久規(首都大学東京大学院)	本館

計 10 件

※ 天神島：天神島臨海自然教育園

(2) 開館園日数・入館園者数

月	本館		馬堀		天神島		ヴェルニー		合計入館園者数
	日数	入館者	日数	入園者	日数	入園者	日数	入館者	
4	25	6,191	25	257	25	5,642	25	9,789	21,879
5	27	4,937	27	362	27	10,594	27	19,091	34,984
6	23	3,819	26	450	26	4,771	26	10,016	19,056
7	26	4,718	26	203	26	5,143	26	5,231	15,295
8	27	6,290	27	224	27	10,244	27	10,832	27,590
9	25	4,007	24	190	24	5,755	25	6,751	16,703
10	26	4,208	26	166	26	3,675	26	8,515	16,564
11	26	5,977	26	211	26	4,259	26	7,074	17,521
12	24	4,127	24	146	24	1,934	24	4,748	10,955
1	24	4,976	24	133	24	2,746	24	5,379	13,234
2	25	5,158	25	146	25	4,423	25	5,708	15,435
3	2	226	26	267	26	7,462	2	416	8,371
計	280	54,634	306	2,755	306	66,648	283	93,550	217,587

※ 馬堀：馬堀自然教育園，天神島：天神島臨海自然教育園(ビジターセンター含む)，
ヴェルニー：ヴェルニー記念館

(3) 人事

- 4月1日 転入 館長 志村恭一（学校教育課保健体育課から）
- 4月1日 転入 課長 高木 厚（教育総務部生涯学習課から）
- 4月1日 転入 担当者 大山 陽（教育総務部学校管理課から）
- 4月1日 採用 文献史学担当 藤井明広
- 8月1日 転入 課長補佐（主査） 久保田毅（学校教育課から）
- 11月29日 退職（逝去） 再任用 稲村 繁
- 2年3月31日 転出 担当者 大山 陽（学校教育課支援教育課へ）
- 2年3月31日 退職 天神島臨海自然教育園・非常勤職員 喜多村美緒子

(4) 予算

平成31年度・令和元年度（給与費を除く）

費目	予算額(千円)
資料収集調査研究費	1,405
資料分類整理保存費	7,118
展示教育普及費	14,118
営繕工事費	15,385
博物館本館費	61,045
自然教育園費	19,835
ヴェルニー記念館費	9,010
計	127,916

(5) 営繕工事

ア 自然・人文博物館送排風機更新工事

自然・人文博物館の送排風機更新工事は、実施できず、令和2年度に繰り越した。（担当：大山）



8-(6)-ア 消防訓練（本館）

イ 天神島臨海自然教育園擬木柵修繕

令和元年10月12日の台風19号被害により、10m程度破損した園路内の擬木柵の修繕を行った。（担当：大山）

(6) 消防訓練・避難訓練

ア 本館

1月26日の文化財防火デーにあわせ、令和2年1月22日に横須賀市中央消防署と共催で消防訓練をおこなった。（担当：大山）

(7) ホームページ・メールマガジン・SNS

ア ホームページ

博物館ホームページを34回更新した。閲覧数（セッション数）は69,825回。（担当：柴田）

イ メールマガジン

メールマガジンを13回配信した。メールマガジンの登録数544人、配信数402人（2年3月31日）。各メールマガジンには「学芸員自然と歴史のたより」を掲載した。タイトルと執筆者は以下のとおり。（担当：柴田）

号	タイトル	執筆者
4月2日号	観音崎からアケビガイの化石を発見!	柴田
4月17日号	横須賀の日本遺産-「ヨコスカ製鉄所」の赤れんが	菊地
5月30日号	昆虫観察のそばに『身近な昆虫365』	内船
6月29日号	燻蒸（くんじょう）ってなに?	瀬川
8月4日号	死滅回遊魚	萩原
8月29日号	異国人、久里浜来航!	稲村
9月29日号	たね屋さんからみた、三浦半島の農業	等々力
10月19日号	旗本の2つの顔 - 官僚としての旗本、領主としての旗本 -	藤井
11月29日号	世界初のナウマンゾウ化	柴田
2年1月29日号	サムライたちのフランス出張-「横須賀製鉄所」建設への熱意	菊地
2年3月1日号	「撮り歩き」のススム	内船
2年3月29日号	臨時休館でも博物館の仕事はなくなりません!	瀬川

ウ ツイッター

2年3月12日に開設し、3月31日までに4件の投稿を行った。（担当：久保田）

エ インスタグラム

2年3月12日に開設したが、投稿は行っていない。（担当：久保田）

(8) 講習会等の参加

(ア) 神奈川県博物館協会研修会等

総会・第1回研修会、5月10日、神奈川県立博物館。

(参加：瀬川・内船)

第2回研修会, 6月14日, 神奈川県立大船フラワーセンター. (参加：瀬川・等々力)

第3回研修会, 10月18日, あつぎ郷土博物館. (参加：瀬川)

第4回研修会, 12月10日, 平塚市博物館. (参加：瀬川)

(イ) その他研修会

日本展示学会「展示論講座：博物館の展示」, 9月13日～15日, 放送大学. (参加：柴田)

文化庁「ミュージアムエデュケーション研修～多様な学び手とのかかわりを考える～」, 9月25日～27日, 東京都美術館; 2年2月6日・7日, 国立科学博物館. (参加：内船)

(ウ) 学協会等参加

第55回日本節足動物発生学会, 5月31日・6月1日, 東京都府中市 (参加：内船)

日本博物館協会東海地区博物館連絡協議会総会, 8月7日, 山梨県立博物館 (参加：瀬川)

環境問題に関するイベント参加, 8月18日, 三浦学苑高等学校 (参加：萩原)

第59回社会教育研究全国集会 (奈良集会)「分科会16 奈良発! 中山間地域の地域博物館の実践から学び合う」(同集会実行委員会・社会教育推進全国協議会共催), 8月25日, 奈良市・山辺郡山添村. (参加：内船)

国際博物館会議 (ICOM) 2019 京都大会, 9月2日～7日, 京都市ほか. (参加：内船・瀬川・藤井)

職員名簿（平成31年度・令和元年度）

館長 志村 恭一
運営課長 高木 厚

（管理運営係）

係長 金満 嘉政
主査 久保田 毅
主任 横山 靖志
担当者 大山 陽

（自然部門）

学芸員・主査 萩原 清司（海洋生物学）
学芸員・主任 柴田 健一郎（地球科学）
学芸員・主任 内船 俊樹（昆虫学）
学芸員 山本 薫（植物学）
学芸員・非常勤 等々力 政彦（植物学）

（天神島臨海自然教育園）

非常勤職員 喜多村 美緒子
非常勤職員 小長谷 美沙

（人文部門）

学芸員・主査 菊地 勝広（建築史学）
学芸員 瀬川 涉（民俗学）
学芸員 藤井 明広（文献史学）
学芸員・再任用 稲村 繁（考古学）

博物館研究員

中村 進一（昆虫学・日本鱗翅学会）
松本 章（自然科学・展示デザイン）
安室 知（民俗学・神奈川大学）
鈴木 稔（機械工学・サースエンジニアリング）

《表紙写真解説》

馬堀自然教育園の遺構「防爆壁」の大型タペストリー

開園60周年を機に開催した特別展示「おいでよ！まぼりの森－馬堀自然教育園の60年とこれから－」では、馬堀自然教育園の自然と歴史について、年表や航空写真、標本や写真、文献などとともに解説パネルを配し分かりやすく展示した。表紙写真の「防爆壁」タペストリーもその一つであり、陸軍重砲兵学校時代に建造された大きな壁は、園内「上の広場」を取り囲むようにそびえている。実物の半分以下に縮小したものの、同園のシンボルの一つとして存在感を示す。

（内船 俊樹）

館報編集委員会：菊地勝広・久保田毅・内船俊樹（編集担当：内船）

横須賀市博物館報 第67号

2020年10月 発行

編集・発行 横須賀市自然・人文博物館

〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台95

電話 046-824-3688 Fax. 046-824-3658

e-mail m-bes@city.yokosuka.kanagawa.jp

<https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp>

